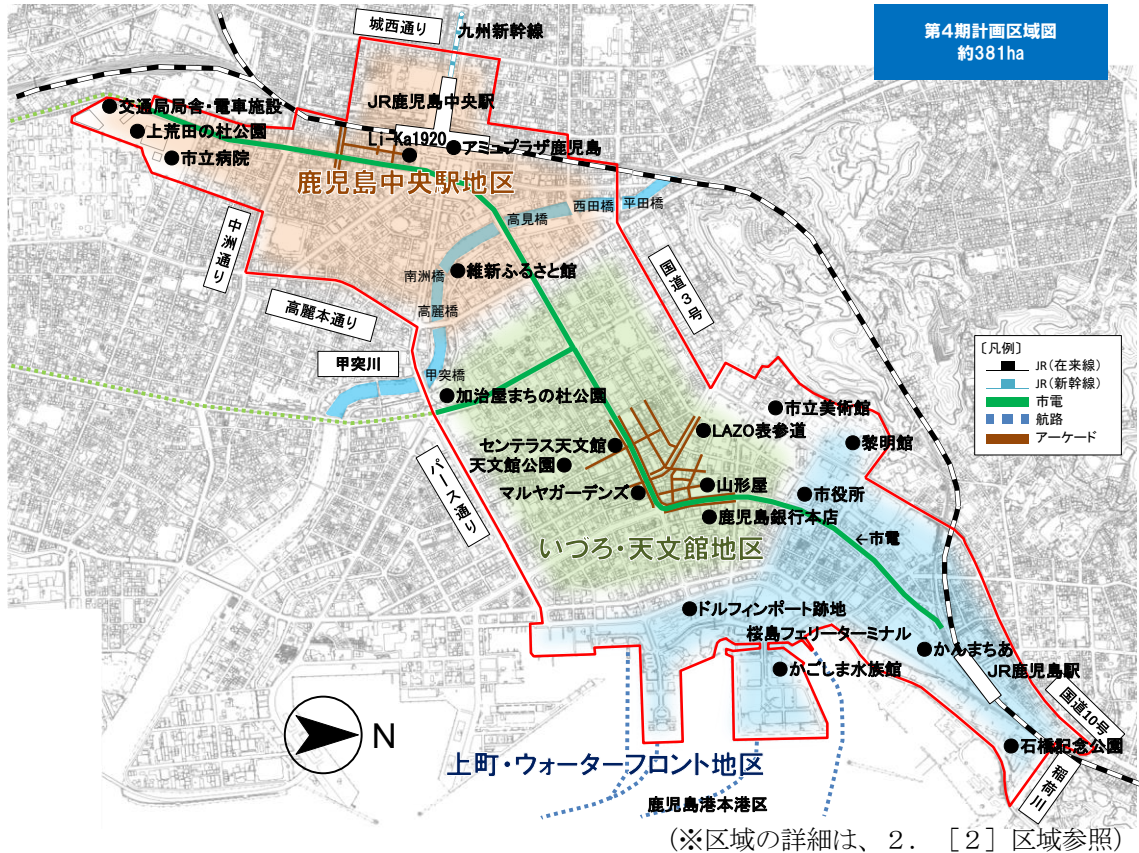


○基本計画の名称：鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「第4期計画」という。）

○作成主体：鹿児島県鹿児島市

○計画期間：令和6年4月から令和11年3月まで（5年間）

○区域図



1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 鹿児島市の概況

(1) 概況

鹿児島市は、県本土のほぼ中央部に位置し、鹿児島湾（錦江湾）をはさんで対岸にある桜島を含む人口約60万人の南九州の交流拠点都市である。

第二次世界大戦の戦火で市街地の約93%を焼失したが、戦後いち早く戦災復興土地区画整理事業により約1,044haの基盤整備を行い、今日の中心市街地の骨格が形成された。その後、経済の発展とともに市街地は次第に拡大し、昭和42年4月には隣接の谷山市と合併して人口38万人となり、昭和55年7月には人口50万人を突破した。

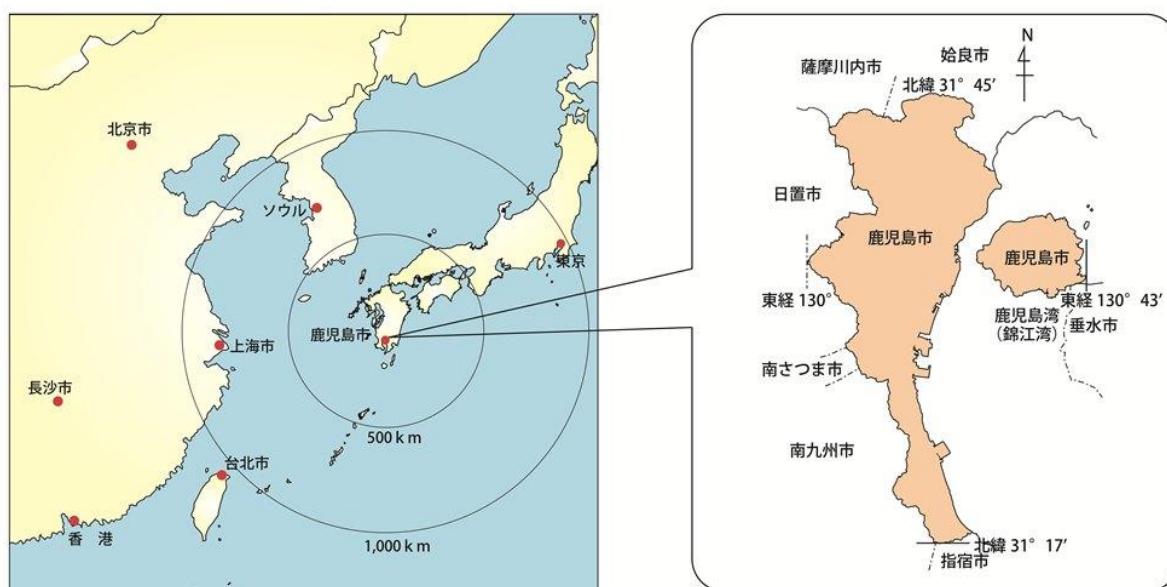
平成8年4月には中核市へ移行し、よりきめ細かな市民サービスの提供と個性豊かな魅力あるまちづくりを積極的に進め、南の拠点都市としてさらなる飛躍を目指すとともに、平成12年4月の地方分権一括法の施行により、地方分権の時代に対応した地域社会づくりの推進に全力を注いでいる。

平成16年11月には、周辺の吉田町、桜島町、喜入町、松元町及び郡山町と合併し、新たな一步を踏み出し、人口は60万人を突破したが、平成25年をピークに減少局面へ移行しており、令和2年の国勢調査時点の人口は593,128人であった。

令和3年度には、第五次総合計画の検証・総括を行うとともに、新型コロナウイルス感染拡大による社会の変化や人口減少・少子高齢化の進行等の時代の潮流を踏まえ、第六次総合計

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

画を策定した。同計画では、目指す都市像を「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」と定め、人もまちも躍動するまちの実現に向け、諸施策を推進している。



鹿児島市の位置

本市の市街地は、標高 100～300mの丘陵地帯に囲まれており、平野部が少ないことから地形的にコンパクトな都市構造となっている。幹線道路網は、市街地中心部から放射状に広がっている。都心部はこれまでの長い歴史の中で、各種商業機能、文化・アミューズメント機能、オフィス・官公庁等の中枢管理機能など様々な高次都市機能が集積する本市のまちの顔として、また南九州随一の繁華街、魅力ある地区として本市の発展に重要な役割を果たしてきた。

しかしながら、都市環境や交通事情の変化、周辺市町等の商業基盤の充実等により、都心部の地位が相対的に低下傾向にあったことから、平成 11 年 5 月に旧中心市街地活性化法に基づく中心市街地活性化基本計画を策定し、平成 16 年 3 月の九州新幹線部分開業を見据えて、鹿児島中央駅（当時：西鹿児島駅）周辺の交通結節機能の強化による公共交通の乗り継ぎ利便性の向上や駅ビル建設、地元商店街による共同イベントなどの様々な事業に取り組み、交流人口の拡大によってにぎわいを創出した。

さらに、平成 19 年には、鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「第 1 期計画」という。）を、平成 25 年には第 2 期鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「第 2 期計画」という。）を、平成 30 年には第 3 期鹿児島市中心市街地活性化基本計画（以下「第 3 期計画」という。）を策定し、それぞれ国の認定を受けた。また、第 3 期計画については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により悪化した目標指標の改善を目指し、国の認定を受け、計画期間を 1 年延長した。第 1 期、第 2 期及び第 3 期計画の 16 年間で、各種プロジェクトを実施したことにより、市街地再開発ビルの整備、大型商業施設の増床、新市立病院の建設、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備等の都市機能の集積が進み、商店街と一体となった多様なイベントに加え、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、新型コロナウイルス感染拡大前までは、年間入込観光客数は着実に増加傾向、空き店舗率も減少傾向にあるなど、本市の中心市街地は一定の活性化が進んだ。一方、令和 2 年 1 月に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、変異を繰り返しながら感染拡大を招き、社会経済に大き

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

な影響を与え、令和2年度の空き店舗数は急激に増加(91店舗、令和元年度比+31店舗)し、令和2年の宿泊観光客数は急激に減少(170万2千人、令和元年比▲151万3千人)した。その後、令和4年度の空き店舗数は78店舗に減少し、令和4年の宿泊観光客数は242万1千人まで回復したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準(空き店舗;令和元年度60店舗、宿泊観光客数;令和元年321万5千人)には回復していない。

(2) 歴史的・文化的資源

本市は、薩摩・大隅(鹿児島県)、日向(宮崎県)の三国を統治した島津氏の城下町として発展してきた。本市が南九州の中心となったのは、第6代氏久が東福寺城を居城にした時(1340年頃)に始まるといわれている。以来500年余りにわたる島津氏の治世を礎として、本市は南九州一の都市として着実に繁栄と進展の歴史をつくりあげた。

また、大陸や南西諸島に近いという立地条件により、琉球を中継地として早くから貿易が活発に行われ、大陸文化やヨーロッパ文化の門戸ともなった。16世紀の中頃、フランシスコ・ザビエルが上陸し、わが国に初めてキリスト教を伝えたことなどは、その代表的な例といえる。

近世に入ってから、19世紀の中頃、新しいヨーロッパの機械文明を取り入れた研究が進み、第28代斉彬のもと磯地区一帯で反射炉や溶鋳炉が造られ、わが国における近代工業の発祥の地となっている。日本近代化の先駆けとなったこれらの薩摩藩の集成館事業の関連資産は、「明治日本の産業革命遺産」として平成27年7月に世界文化遺産に登録された。

明治4年の廃藩置県とともに県庁所在地となり、明治22年4月には市制を施行し、わが国で初めて市となった都市の一つである。

本市は、明治維新の原動力となり大いに活躍した西郷隆盛・大久保利通や歴代総理大臣を務めた黒田清隆・松方正義・山本権兵衛、軍人の西郷従道・大山巖など、教育界では森有礼(初代文部大臣)、実業界では五代友厚など、文化の面では黒田清輝・藤島武二(洋画家)、有島武郎(小説家)など、幾多の優れた人物を輩出している。



西郷隆盛銅像

官公庁街に隣接する鹿児島城(鶴丸城)址は、現在、遺構として石垣や堀、西郷隆盛の私学校跡などが残されている。その石垣には西南戦争の際の弾痕が多数残っており、当時の激しい戦いを物語っている。城址には第七高等学校造士館、鹿児島大学医学部などが置かれたのち、現在は鹿児島県立歴史資料センター「黎明館」、鹿児島県立図書館、鹿児島市立美術館などの文化施設が立地し、市民・県民はもとより、多くの観光客が訪れ、鹿児島の歴史や文化を堪能している。また、付近には県内一の参拝客数を誇る照国神社があり、初詣や六月灯(鹿児島の夏の風物詩、県内各地の寺社等で開かれる夏祭り)では多くの人でにぎわう。

市内の中心部を流れる甲突川の左岸地帯は、西郷隆盛、大久保利通らを筆頭とする維新の英傑を輩出した由緒ある地で、ここにある維新ふるさと館や幕末から明治維新の歴史を感じながら散策できる“維新ふるさとの道”にも多くの観光客が訪れている。

これらの歴史的資源や文化施設は、市民にとってかけがえのないものであり、中心市街地の活性化を図る際にも最大限活用していくことが大切である。

(3) 景観資源

本市は、人口約 60 万人の南九州の中核都市であり、雄大な桜島と波静かな錦江湾に代表される世界に誇れる自然景観や県庁所在地で日本一の源泉数を持つ豊富な温泉を有し、温暖な気候で、都市と自然とが共生する快適な環境の中にある。これらの資源は、市民に癒しと安らぎを与えるかけがえのない財産であると同時に、本市を訪れる人にとっても魅力的な観光資源となっている。



桜島と新幹線

平成 25 年 9 月には、桜島や若尊カルデラを中心とする一帯を範囲とする「桜島・錦江湾ジオパーク」が日本ジオパークに認定された。世界的に稀有な活火山と都市の共生が実現しており、現在、世界ジオパークの認定に向けて取組を進めている。

また、平成 20 年 6 月に施行した鹿児島市景観計画及び景観条例に基づき、城山展望台から桜島への眺望を確保するための規制を設けるなど、市民、事業者、行政が一体となって、良好な景観形成に向けたまちづくりに取り組んでいる。

(4) 社会資本や産業資源

公共公益施設は、市役所等の行政機関や、市立美術館、県立図書館、かごしま近代文学館・メルヘン館等の文化施設が中心市街地に集中して立地している。

このほか、平成 12 年に整備された勤労者交流センターやかごしま市民福祉プラザ、平成 15 年に整備されたかごしま県民交流センター、平成 22 年に整備された観光交流センター及び令和 4 年に整備された鹿児島市立天文館図書館は、人、文化、情報等の拠点施設として、市民福祉の増進と交流人口の拡大に寄与している。

鹿児島中央駅地区では、平成 22 年以降、市街地再開発事業による商業・業務複合施設「アエールプラザ」、商業・共同住宅複合施設「アエールタワー」、民間開発による業務・ホテル・バスターミナル等の複合施設「鹿児島中央ターミナルビル」、駅ビルに隣接する商業施設「アミュプラザ鹿児島プレミアム館」、「Li-Ka1920」、「AMU WE (アミュ ウィー)」が開業したほか、JT 跡地において、「鹿児島市立病院」、「交通局舎・電車施設」、「上荒田の杜公園」が供用開始した。いづろ・天文館地区では、平成 20 年に子育て支援施設「東部親子つどいの広場なかまっち」が開業されたほか、平成 21 年 5 月に閉店した三越鹿児島店跡に商業・交流施設「マルヤガーデンズ」や、シネマコンプレックス・商業施設等の複合施設「LAZO 表参道 (天文館シネマパラダイス)」、「鹿児島銀行本店ビル」、「センテラス天文館」が開業したほか、イベント等に活用できるよう「天文館公園」の再整備が行われ、市立病院跡地において、「加治屋まちの杜公園」の供用を開始した。上町・ウォーターフロント地区では、公園、広場、駐車場を備えた市民等の憩いの場「かんまちあ (上町ふれあい広場・上町の杜公園)」や、「鹿児島駅周辺都市拠点」、「浜町 1 番街区の再開発事業による店舗付共同住宅」を整備するとともに、観光施設の「鶴丸城御楼門」を建設した。

公共交通は、鉄道・バス・路面電車・フェリーなどがあり、アクセス手段が充実している。

鉄道は、平成 23 年 3 月 12 日に九州新幹線が全線開業し、新大阪駅～鹿児島中央駅が最速 3 時間 41 分で結ばれたことにより、関西・中国方面から多くの観光客が訪れている。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

鹿児島空港連絡バスや福岡・熊本方面への都市間高速バス、県内各地に向けて運行されているバスは、いずれも起点が中心市街地に集中している。都市間高速バスは、運賃が比較的に安いことから、新幹線と並んで広域交通手段として広く利用されている。鹿児島中央ターミナルビルには、バスターミナルが整備され、鹿児島空港連絡バス及び都市間高速バス利用の利便性が向上した。

市域内の路線バスもその多くが中心市街地を起点・終点または経由地としている。特に電車通りの高見馬場～金生町はバス路線が集中している。

本市の観光資源の一つにもなっている路面電車（以下「市電」という。）は2系統で運行され、両系統ともに中心市街地に立地する鹿児島駅前を起点・終点とし、多くの停留場を設けている。

大型貨客船等が行き交う鹿児島港は、24時間運航で世界屈指の乗客数を誇る市営桜島フェリー（以下「桜島フェリー」という。）や、世界自然遺産の屋久島や種子島とを結ぶ高速船のターミナルを有するほか、県内離島や沖縄への商業港としての拠点性があり、物流面においても生産地と消費地が近接しているといった優位な特性がある。また、本港区北ふ頭では、国際クルーズ船を受け入れられるよう、保安施設の整備等を行った。



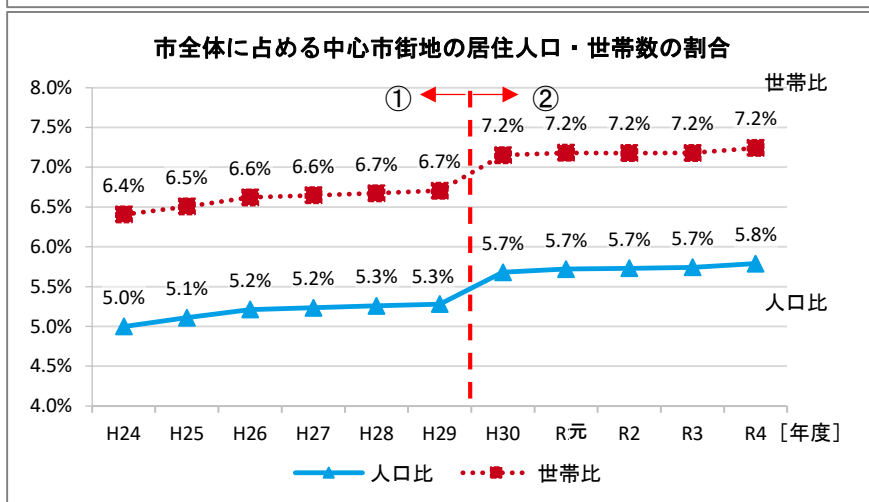
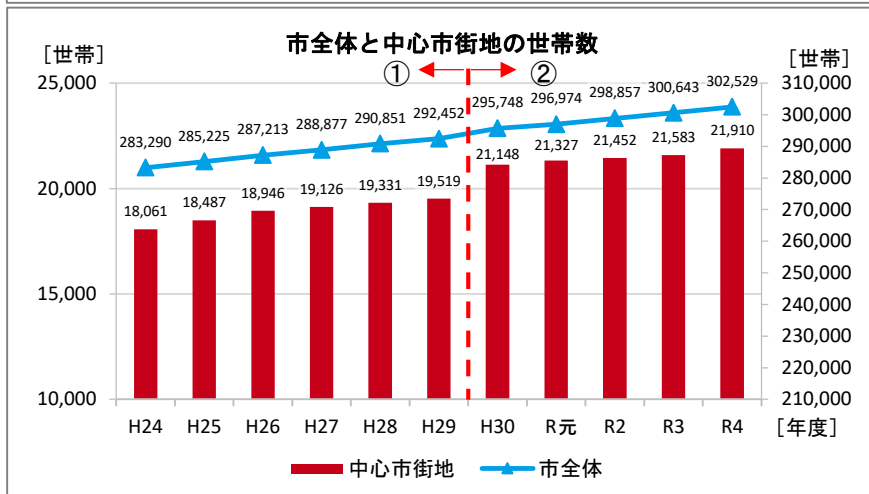
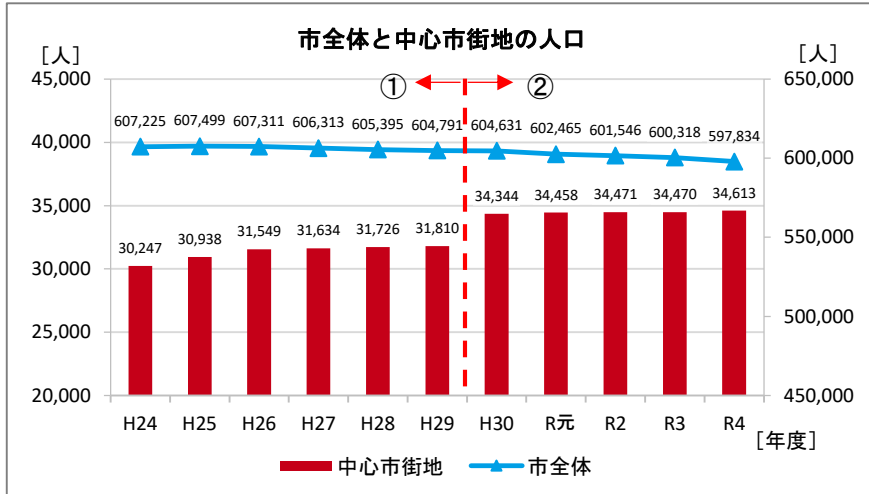
鹿児島市の公共交通網

[2] 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

(1) 人口動態に関する状況

① 市全体と中心市街地の人口・世帯数

本市の人口は平成25年度をピークに減少傾向にあるものの、中心市街地の人口は、市街地再開発事業などの街なか居住の推進や、民間マンションの建設等により横ばいの状態が続いている。一方、中心市街地の世帯数は増加傾向にある。なお、市全体に占める中心市街地の居住人口・世帯数の割合は横ばいにて推移している。



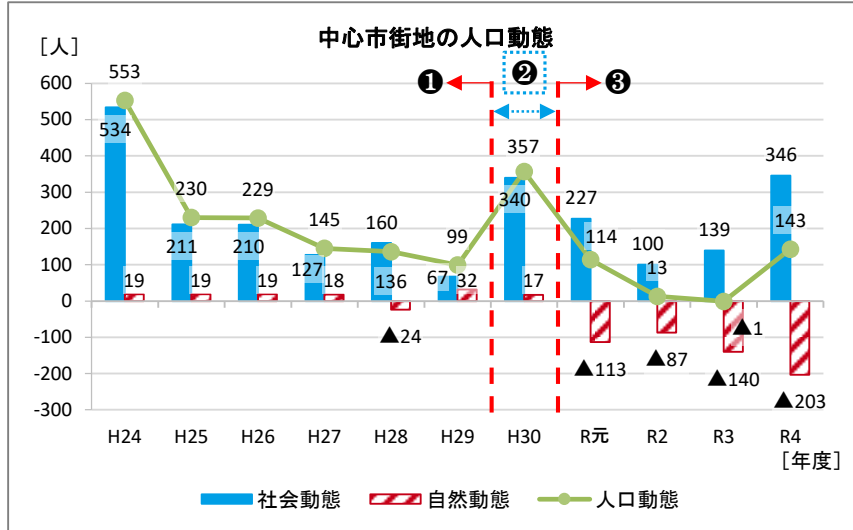
(資料：住民基本台帳)

① 中心市街地：人口・世帯数は、外国人を含まない、面積割で算出。市全体及び中心市街地：4/1 が基準日。
 ② 中心市街地：人口・世帯数は、外国人を含む。地番毎に人口を算出。市全体及び中心市街地：1/1 が基準日。
 ※①と②では中心市街地の算出方法が異なるため、誤差が生じている。
 ※市全体：人口・世帯数は全年度外国人を含む。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

② 中心市街地の人口動態

中心市街地の人口動態のうち社会動態は、増加幅に変動はあるものの、増加にて推移している。自然動態は、平成 30 年度までは平成 28 年度を除き増加していたが、令和元年度以降は減少傾向にある。社会動態と自然動態を比較すると、社会動態が自然動態を大幅に上回っており、令和 2 年度以降増加幅が拡大している。自然動態は、令和 2 年度以降減少幅が拡大している。

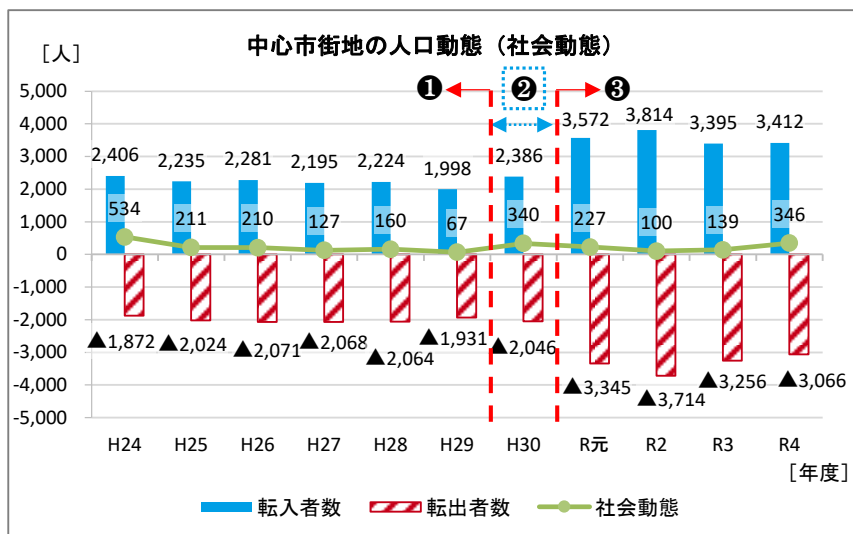


(資料：住民基本台帳)

中心市街地の人口動態

- ① H29 年度までは外国人を含まない。面積割で算出。4/1 が基準日。
 - ② H30 年度は外国人を含む。人口割で算出。1/1 が基準日。
 - ③ R元年度以降は外国人を含む。地番毎に人口を算出。1/1 が基準日。
- ※①・②・③では算出方法が異なるため、誤差が生じている。

中心市街地の社会動態の内訳をみると、転入者数は、平成 25 年度から平成 30 年度までは 2,200 人前後で推移していたが、令和元年度以降は 3,500 人前後で推移している。転出者数は平成 25 年度から平成 30 年度までは 2,000 人前後で推移していたものの、令和元年度以降は 3,000 人台で推移している。



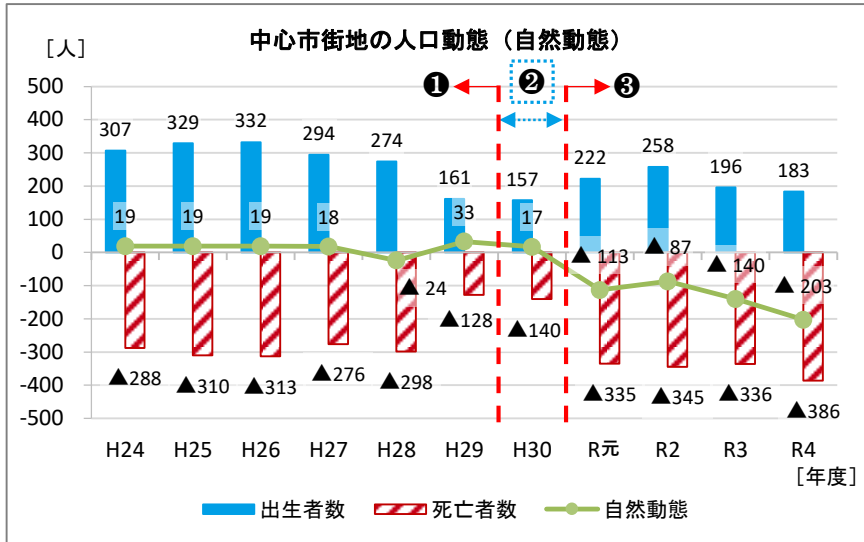
(資料：住民基本台帳)

中心市街地の人口動態

- ① H29 年度までは外国人を含まない。面積割で算出。4/1 が基準日。
 - ② H30 年度は外国人を含む。人口割で算出。1/1 が基準日。
 - ③ R元年度以降は外国人を含む。地番毎に人口を算出。1/1 が基準日。
- ※①・②・③では算出方法が異なるため、誤差が生じている。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

中心市街地の自然動態の内訳をみると、出生者数は、平成26年度まで増加したものの、平成30年度まで減少が続いた。その後、令和2年度までは増加に転じたものの、令和3年度以降は約200人で推移している。死亡者数は、平成28年度まで300人前後の推移となったが、平成29年度及び平成30年度は130人前後の推移と大幅に減少した。しかしながら、令和元年度には335人と大幅な増加に転じ、令和3年度までは同水準にて推移したが、令和4年度は再び増加した。



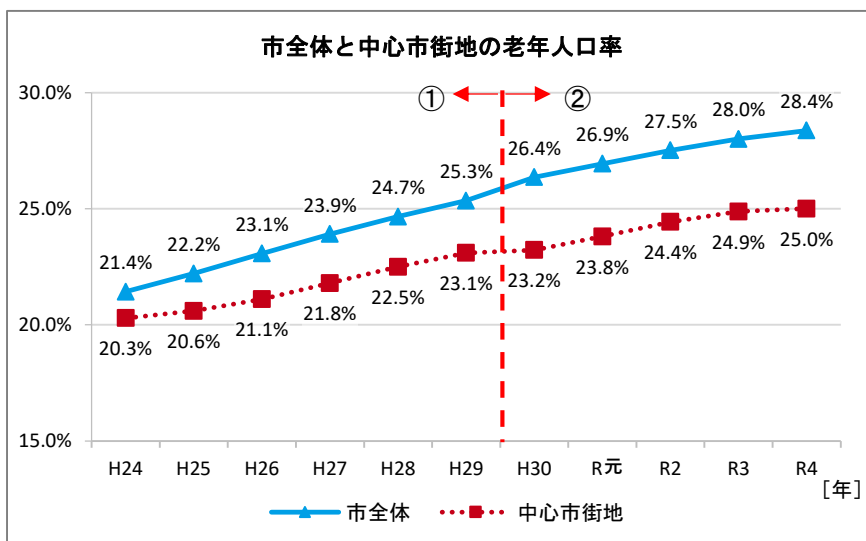
(資料：住民基本台帳)

中心市街地の人口動態

- ① H29年度までは外国人を含まない。面積割で算出。4/1が基準日。
 - ② H30年度は外国人を含む。人口割で算出。1/1が基準日。
 - ③ R元年度以降は外国人を含む。地番毎に人口を算出。1/1が基準日。
- ※①・②・③では算出方法が異なるため、誤差が生じている。

③ 市全体と中心市街地の老年人口率

中心市街地の老年人口率は、市全体を下回る状況が続いているが、増加傾向にある。

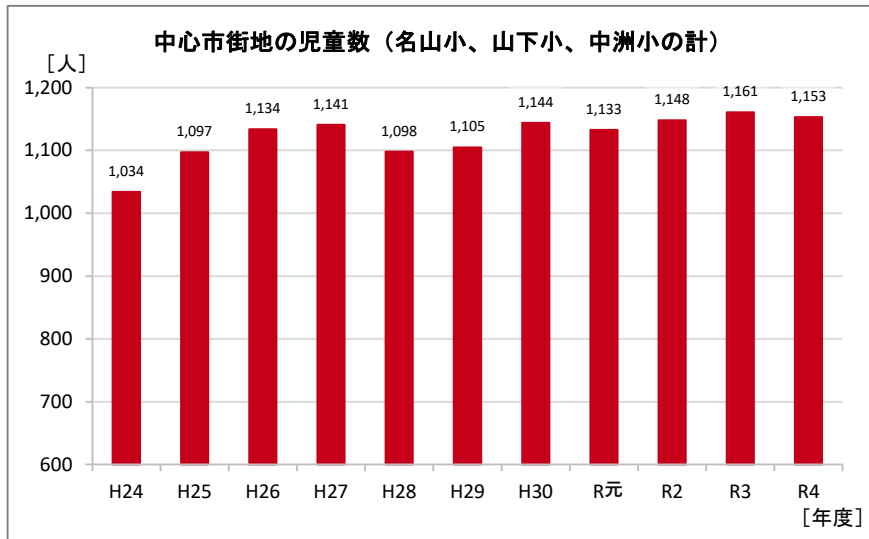


(資料：住民基本台帳)

- ① 中心市街地: 人口・世帯数は、外国人を含まない、面積割で算出。市全体及び中心市街地: 4/1が基準日。
 - ② 中心市街地: 人口・世帯数は、外国人を含む。地番毎に人口を算出。市全体及び中心市街地: 1/1が基準日。
- ※①と②では中心市街地の算出方法が異なるため、誤差が生じている。
 ※市全体: 人口・世帯数は全年度外国人を含む。

④ 中心市街地の児童数

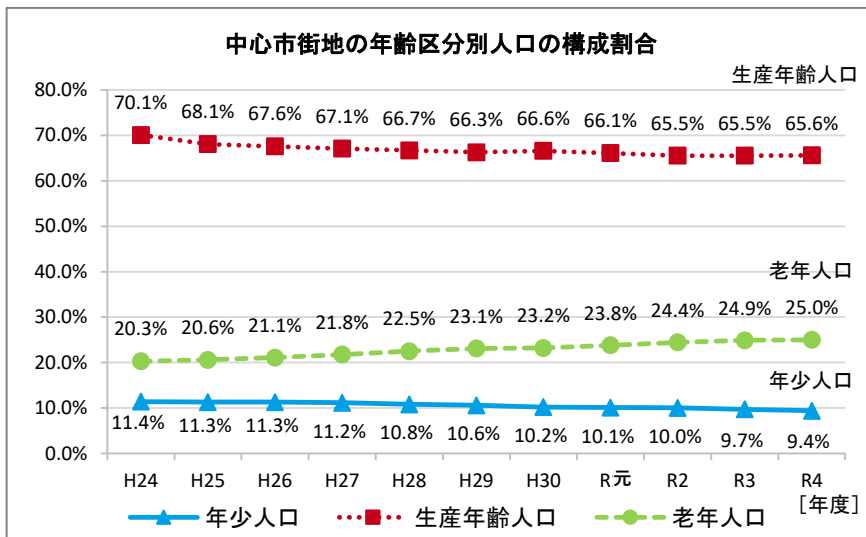
中心市街地の児童数（計画区域内の名山小、山下小、中洲小）は平成24年度からの増加が平成28年度に一服するも、平成29年度に再び増加に転じ、平成30年以降は1,150人前後での横ばいの状態となっている。



（資料：市教育委員会）

⑤ 中心市街地の年齢区分別人口

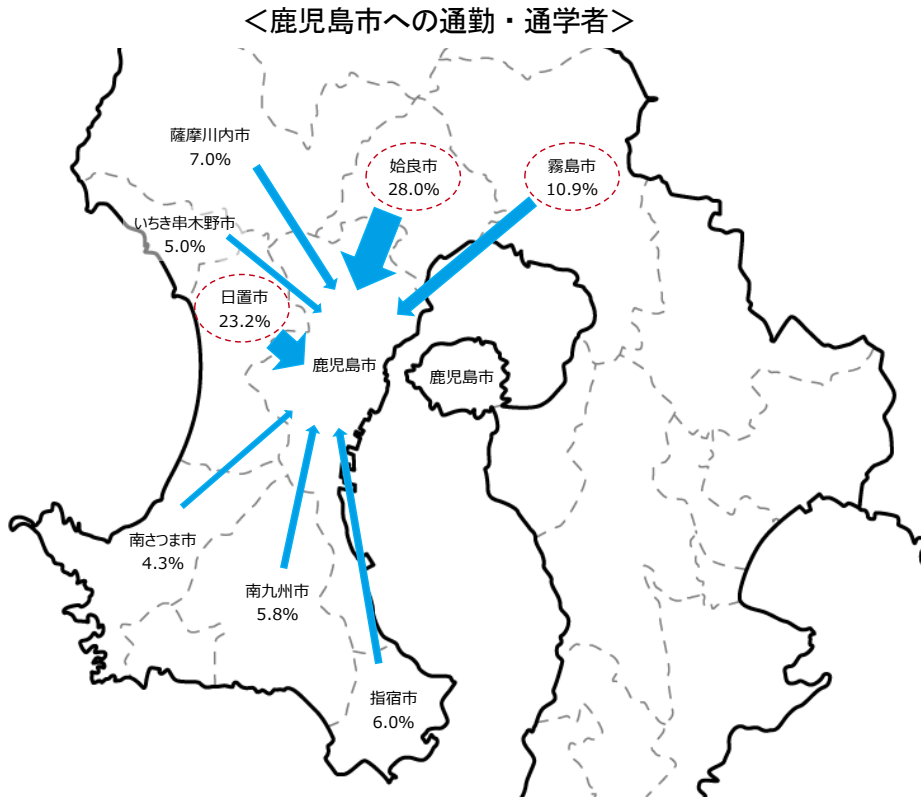
中心市街地の年少人口（14歳以下）及び生産年齢人口（15～64歳）の割合は緩やかな減少傾向にあり、中心市街地の年少人口は令和3年度に10%を下回り、生産年齢人口は65%程度となっている。一方、老年人口（65歳以上）の割合は緩やかな増加傾向にあり、令和4年度には25%と全体の4分の1を占めている。



（資料：住民基本台帳）

⑥ 通勤・通学者の状況

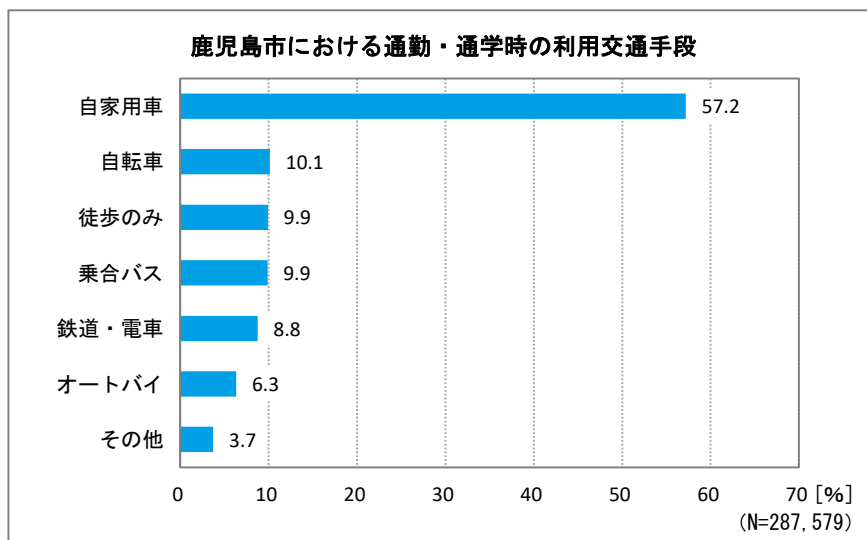
本市以外の市町村で、本市への通勤・通学者の割合が10%以上となっている市町村としては、始良市が28.0%で最も高く、次いで日置市、霧島市となっており、これらの地域と日常的な生活圏域が構成されていることがうかがえる。



※すべての就業・通学者比（資料：令和2年国勢調査）

また、通勤・通学時の利用交通手段は、自家用車が57.2%と半数を超え、続いて利用割合が高い順に自転車、徒歩のみ、乗合バス、鉄道・電車、オートバイの順となっている。

＜通勤・通学時の利用交通手段＞



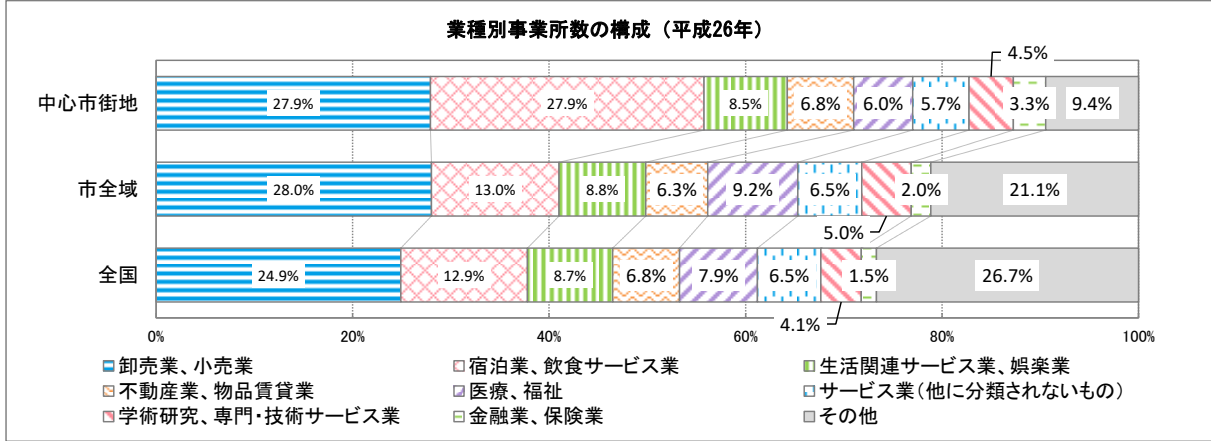
(資料：令和2年国勢調査)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(2) 経済活力に関する状況

① 業種別事業所数

平成 26 年の業種別事業所数の構成をみると、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業、飲食サービス業」の割合が高く、「卸売業、小売業」と合わせると 55.8%と半数を超えている。



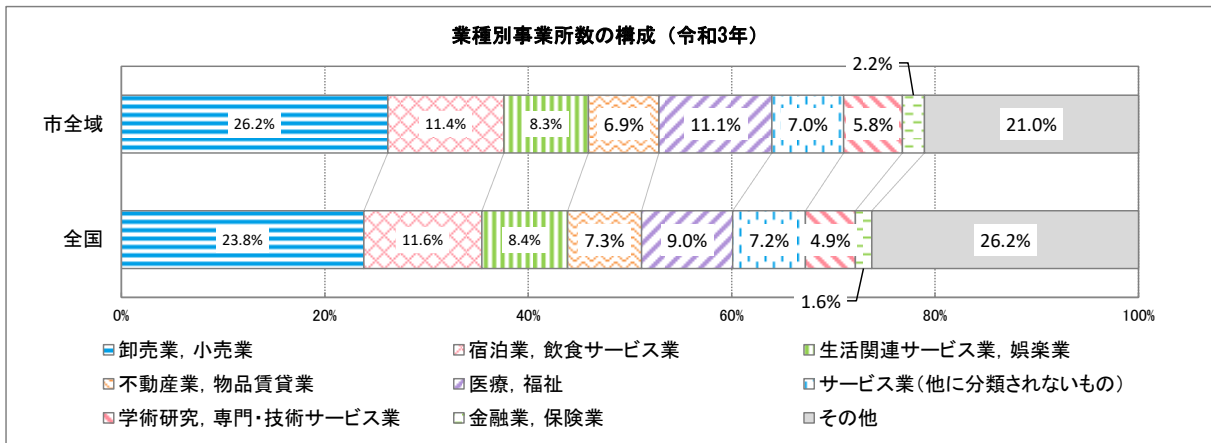
※その他の内訳は、「教育、学習支援業 (2.7%, 3.8%, 4.0%)」、「建設業 (2.1%, 8.3%, 9.1%)」、「情報通信業 (1.8%, 0.9%, 1.2%)」、「製造業 (1.4%, 4.4%, 8.6%)」、「運輸業、郵便業 (1.1%, 2.6%, 2.4%)」、「複合サービス事業 (0.2%, 0.6%, 0.6%)」、「農林漁業 (0.1%, 0.3%, 0.6%)」、「電気・ガス・熱供給・水道業 (0.0%, 0.1%, 0.2%)」、「鉱業、砕石業等 (0.0%, 0.0%, 0.0%)」。(※ () 内の割合は、中心市街地、市全域、全国の順。)

※割合は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。(以下同様)

(資料：平成 26 年経済センサス)

※中心市街地のデータは平成 26 年が最新

鹿児島市全域及び全国における令和 3 年の業種別事業所数の構成をみると、鹿児島市全域は全国に比べ、「卸売業、小売業」及び「医療、福祉」の割合が高くなっている。



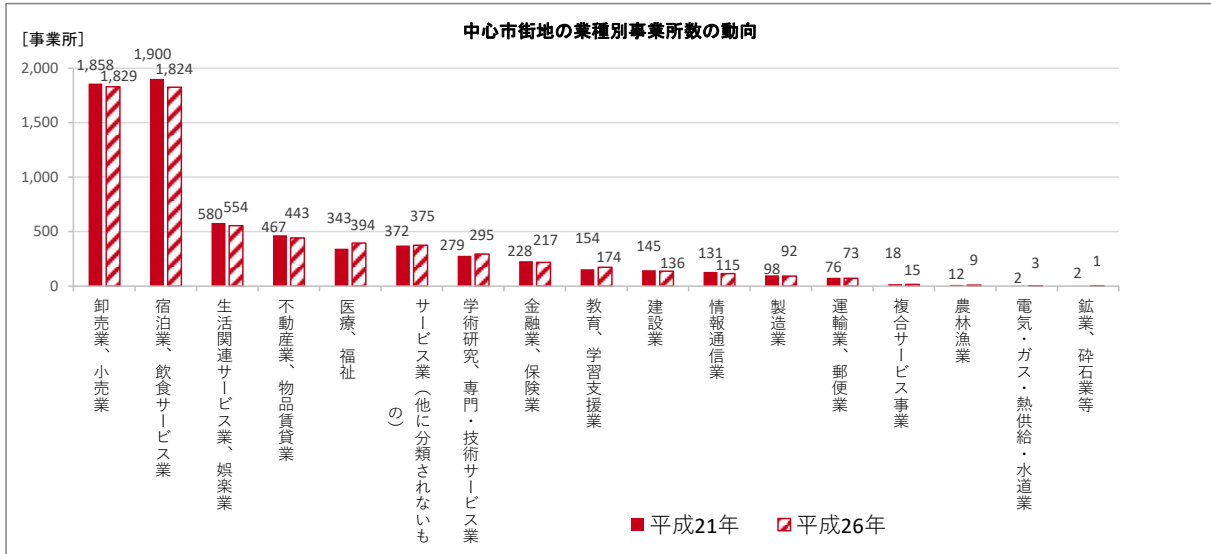
※その他の内訳は、「教育、学習支援業 (3.2%, 3.2%)」、「建設業 (8.7%, 9.4%)」、「情報通信業 (1.2%, 1.5%)」、「製造業 (4.2%, 8.0%)」、「運輸業、郵便業 (2.5%, 2.5%)」、「複合サービス事業 (0.6%, 0.6%)」、「農林漁業 (0.3%, 0.8%)」、「電気・ガス・熱供給・水道業 (0.2%, 0.2%)」、「鉱業、砕石業等 (0.0%, 0.0%)」。(※ () 内の割合は、市全域、全国の順。)

(資料：令和 3 年経済センサス)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

② 業種別事業所数の動向

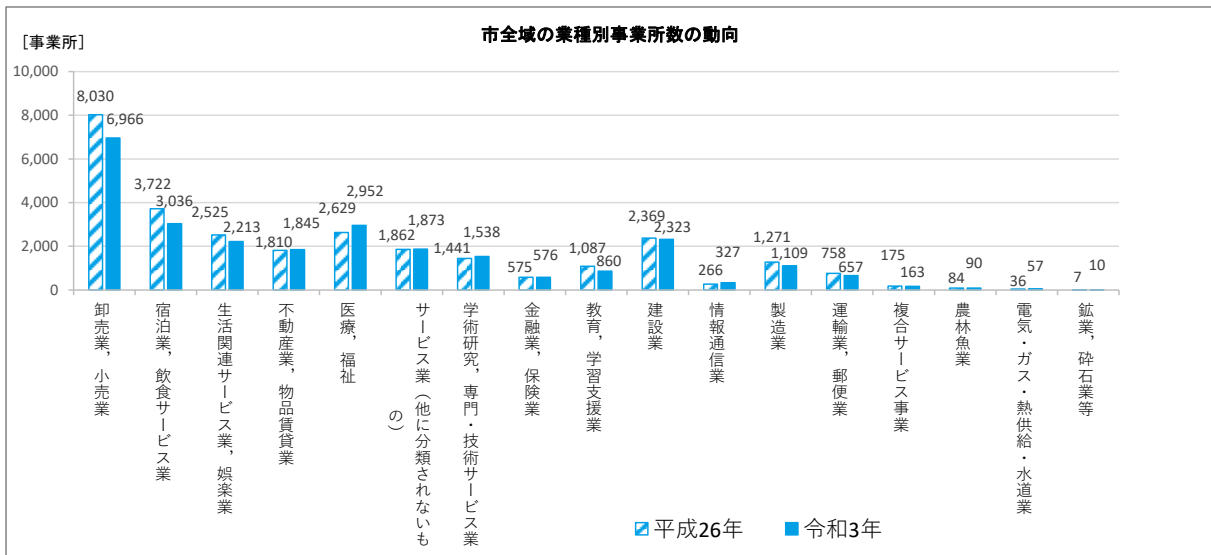
中心市街地における平成 26 年の業種別事業所数を平成 21 年と比較すると、「医療、福祉」、「教育、学習支援業」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。



(資料：平成 21 年、平成 26 年経済センサス)

※中心市街地のデータは平成 26 年が最新

市全域における令和 3 年の業種別事業所数を平成 26 年と比較すると、「医療、福祉」、「不動産業、物品賃貸業」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。

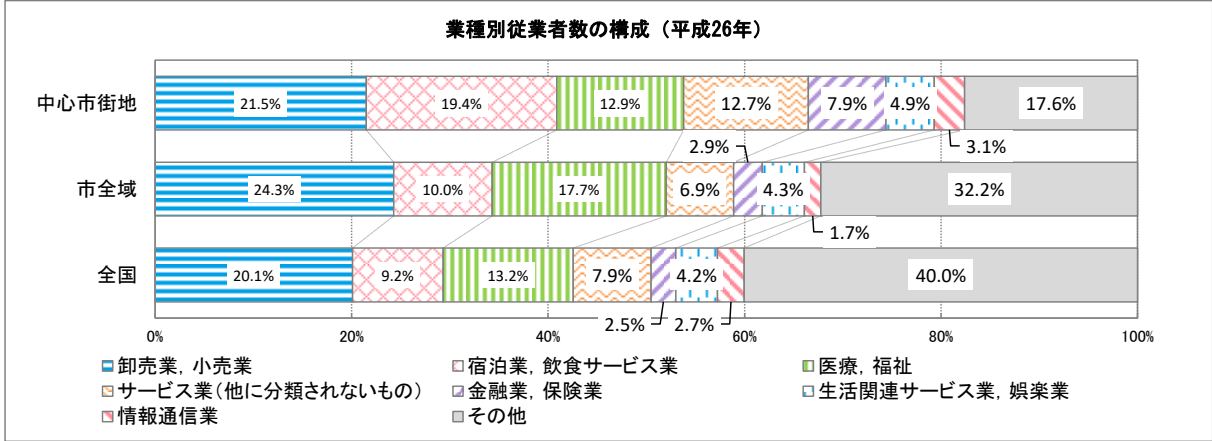


(資料：平成 26 年、令和 3 年経済センサス)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

③ 業種別従業者数

平成 26 年の業種別従業者数の構成をみると、中心市街地は市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」の割合が高くなっている。また、「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」を合わせた割合は 40.9%と 4 割を超えている。

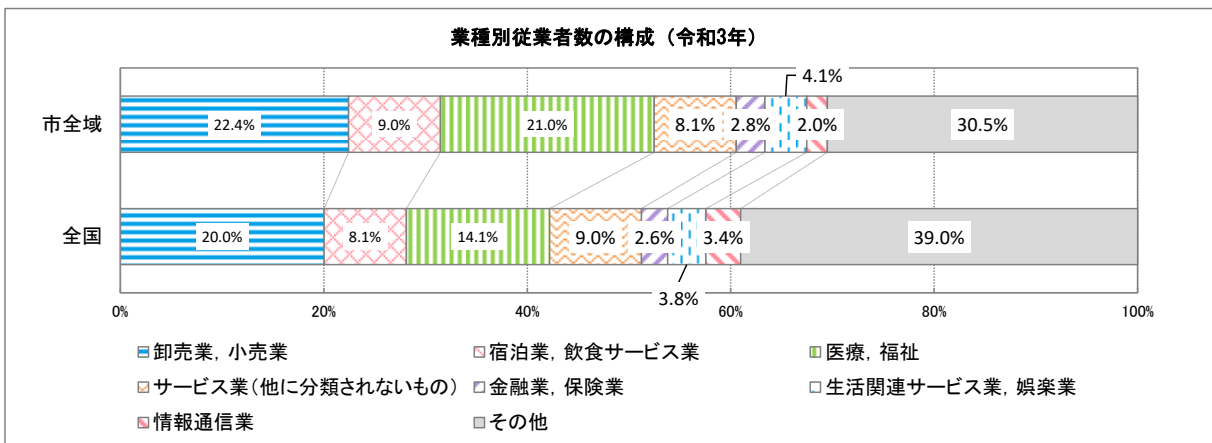


※その他の内訳は、「学術研究、専門・技術サービス業（2.9%, 3.2%, 3.2%）」、「運輸業、郵便業（2.9%, 6.0%, 5.5%）」、「不動産業、物品賃貸業（2.8%, 2.3%, 2.5%）」、「教育、学習支援業（2.7%, 6.2%, 5.2%）」、「建設業（2.4%, 6.7%, 6.3%）」、「複合サービス事業（2.1%, 1.0%, 0.9%）」、「製造業（1.1%, 6.0%, 15.3%）」、「電気・ガス・熱供給・水道業（0.5%, 0.6%, 0.5%）」、「農林漁業（0.1%, 0.2%, 0.6%）」、「鉱業、砕石業等（0.0%, 0.0%, 0.0%）」。（※（ ）内の割合は、中心市街地、市全域、全国の順。）

（資料：平成 26 年経済センサス）

※中心市街地のデータは平成 26 年が最新

一方、令和 3 年の業種別従業者数の構成をみると、市全域は全国に比べ、「医療、福祉」の割合が 21.0%（全国比+6.9%）と高く、「卸売業、小売業」の割合は 22.4%（全国比+2.4%）、「宿泊業・飲食サービス業」の割合は 9.0%（全国比+0.9%）とやや高くなっている。



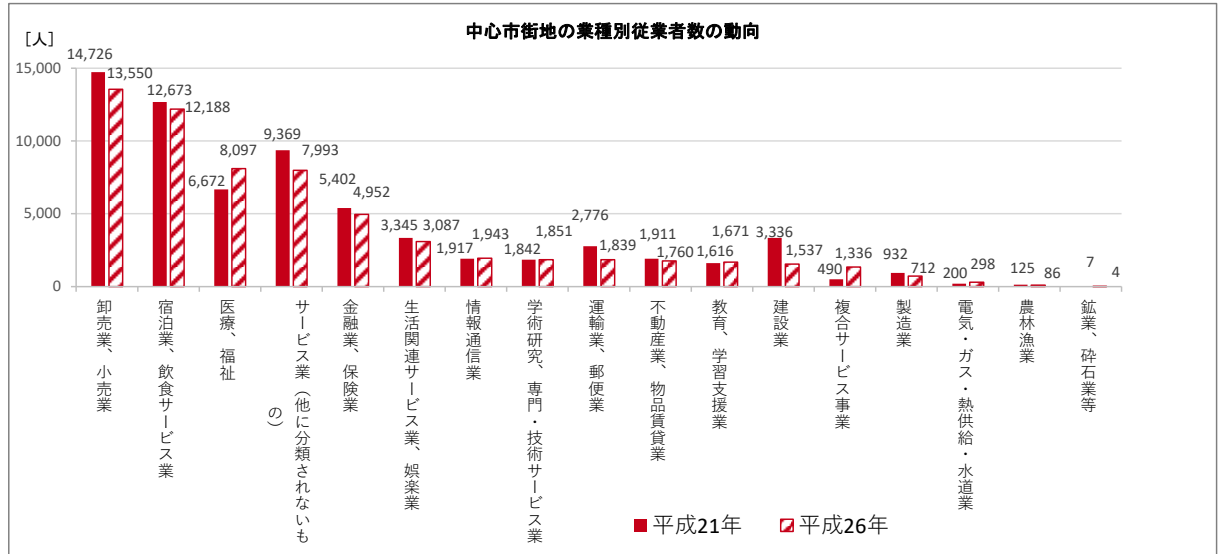
※その他の内訳は、「学術研究、専門・技術サービス業（3.3%, 3.7%）」、「運輸業、郵便業（5.5%, 5.6%）」、「不動産業、物品賃貸業（2.6%, 2.8%）」、「教育、学習支援業（4.3%, 3.4%）」、「建設業（7.2%, 6.4%）」、「複合サービス事業（0.8%, 0.8%）」、「製造業（6.0%, 15.2%）」、「電気・ガス・熱供給・水道業（0.4%, 0.3%）」、「農林漁業（0.5%, 0.8%）」、「鉱業、砕石業等（0.0%, 0.0%）」。（※（ ）内の割合は、市全域、全国の順。）

（資料：令和 3 年経済センサス）

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

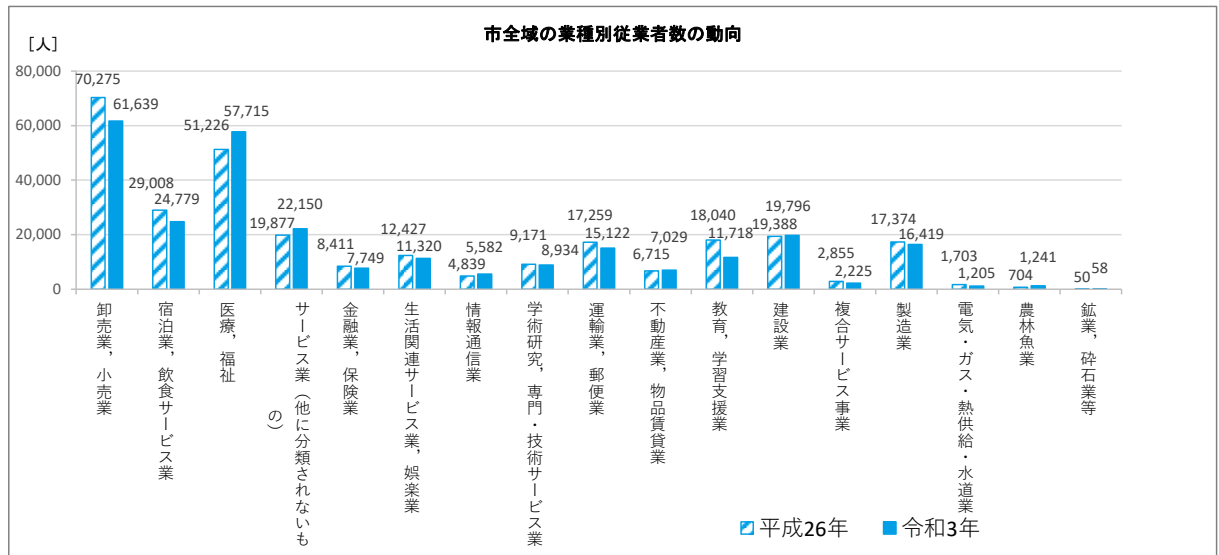
④ 業種別従業者数の動向

中心市街地における平成 26 年の業種別従業者数を平成 21 年と比較すると、「医療、福祉」、「複合サービス事業」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。



(資料：平成 21 年、平成 26 年経済センサス)
※中心市街地のデータは平成 26 年が最新

市全域における令和 3 年の業種別従業者数を平成 26 年と比較すると、「医療、福祉」などが増加している一方で、「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」などは減少している。

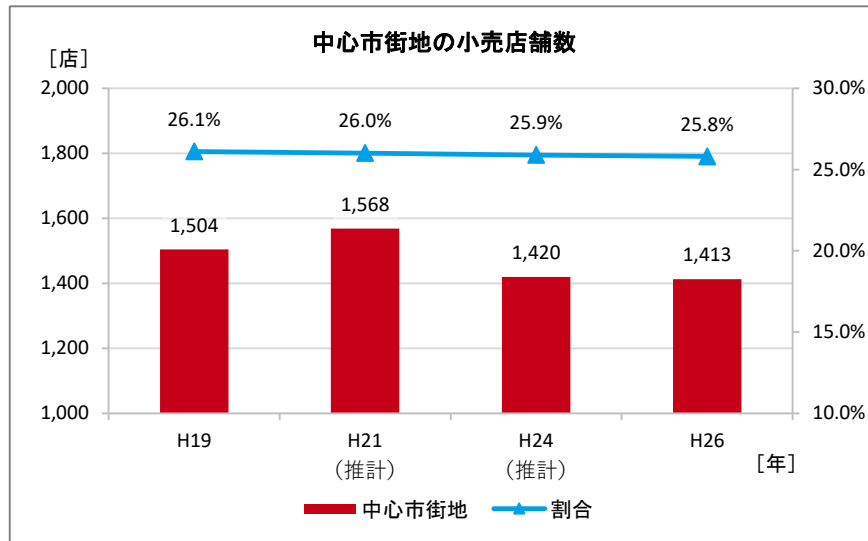


(資料：平成 26 年、令和 3 年経済センサス)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑤ 中心市街地の小売店舗数

中心市街地の小売店舗数は、平成21年まで一旦増加したものの、その後は減少に転じた。市全体に占める、中心市街地の小売店舗数の割合は微減傾向にあった。

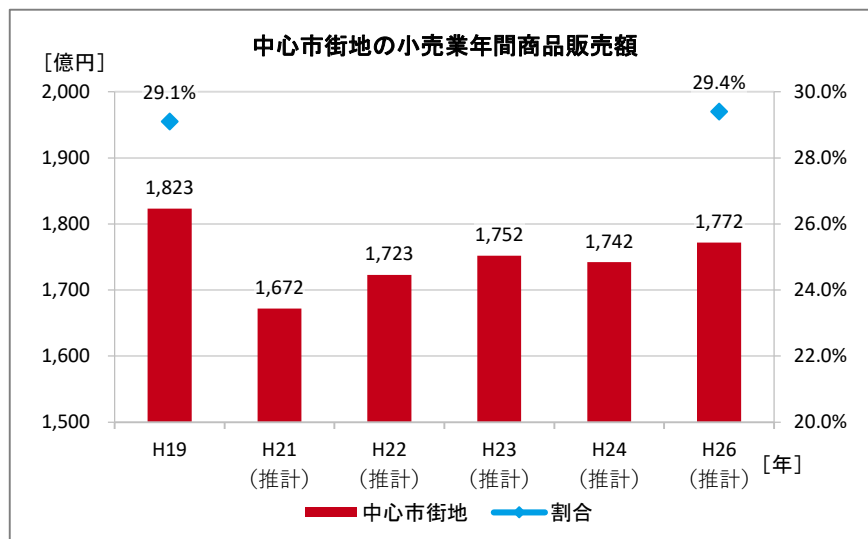


(資料：商業統計調査、経済センサス)

※中心市街地のデータは平成26年が最新

⑥ 中心市街地の小売業年間商品販売額

中心市街地の小売業年間商品販売額は、平成19年から平成21年にかけて大幅に減少し、その後やや持ち直し、ほぼ横ばいの状態が続いていた。市全体に占める中心市街地の小売業年間商品販売額の割合は3割弱であった。



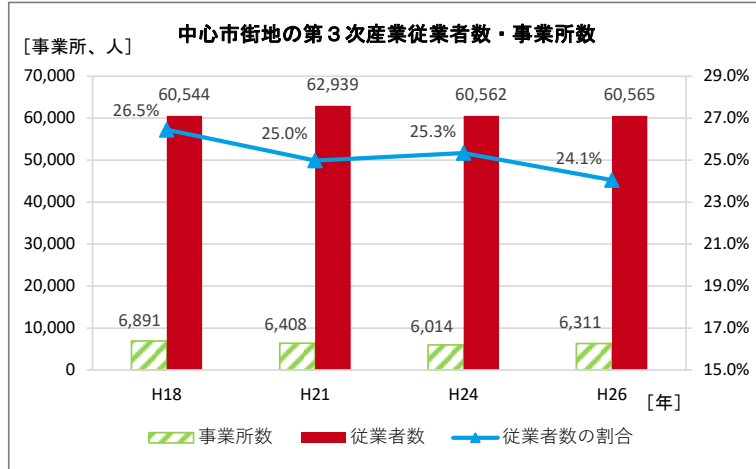
(資料：商業統計調査、経済センサス)

※中心市街地のデータは平成26年が最新

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑦ 中心市街地の第3次産業従業者数・事業所数

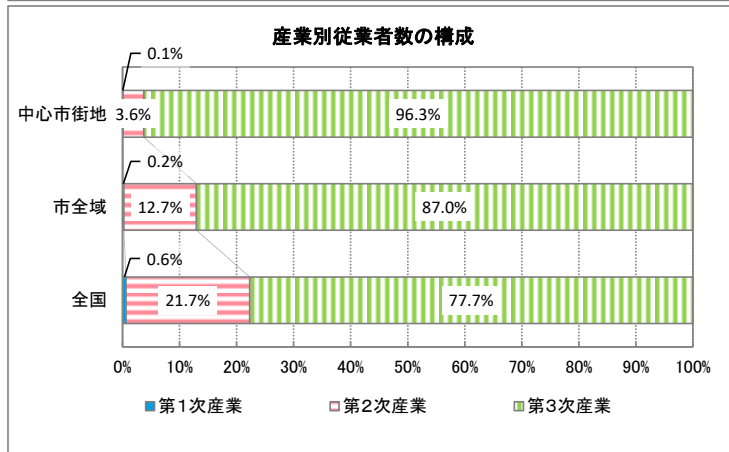
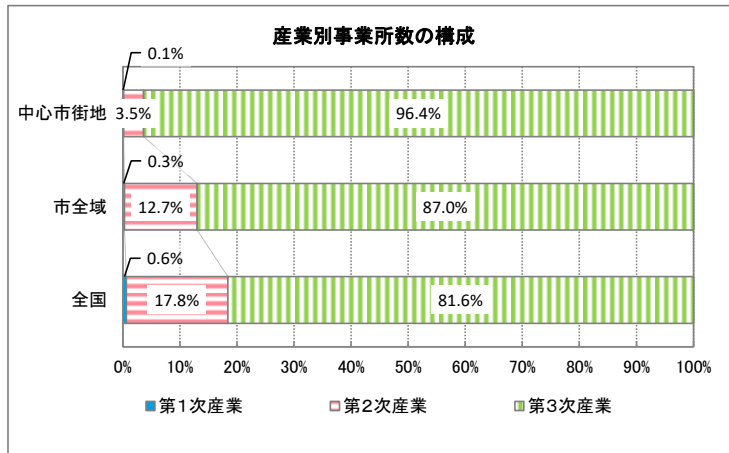
中心市街地の第3次産業の従業者数は、平成18年から平成21年にかけて増加し、平成24年に減少した後、横ばいとなっている。市全体に対する割合は平成18年以降減少傾向となっている。



(資料：事業所・企業統計調査、経済センサス)
※中心市街地のデータは平成26年が最新

⑧ 産業別事業所数・従業者数

平成26年の産業別事業所数・従業者数の割合をみると、中心市街地はいずれも第3次産業が96%を超えており、市全域や全国に比べても高い割合となっている。

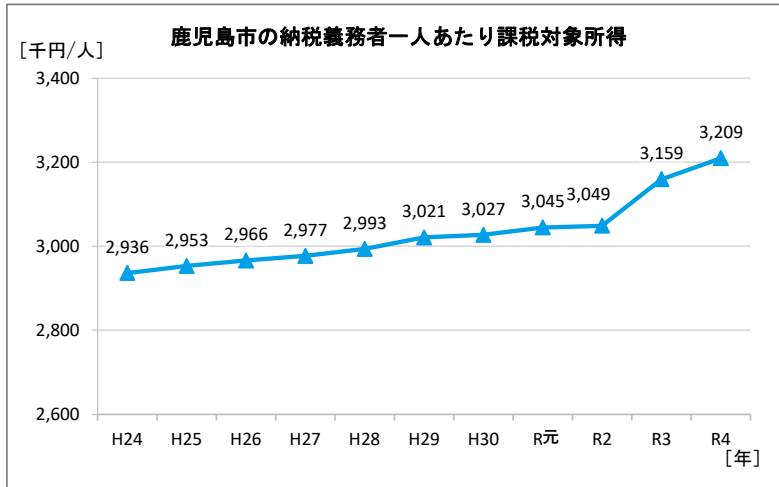


※割合は小数点第2位を四捨五入、計が100%とならない場合がある。
(資料：平成26年経済センサス)
※中心市街地のデータは平成26年が最新

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

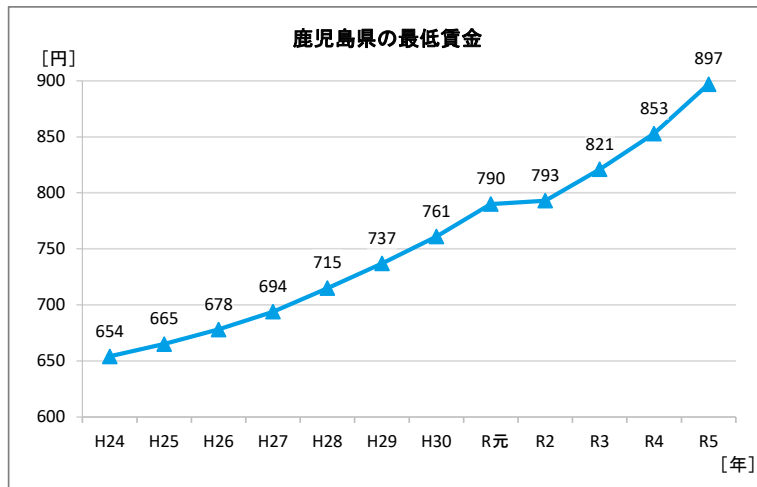
⑨ 課税所得及び地域別最低賃金の状況

本市の納税義務者一人あたり課税対象所得は増加傾向にあり、令和3年は3,159千円と前年比+110千円と大幅に増加し、さらに、令和4年は3,209千円と50千円増加した。県庁所在地46都市（東京都を除く。）中37位である。



(資料：内閣府)

また、本県の最低賃金は増加し続けており、令和5年10月には897円（前年比+44円増加、平成24年の654円と比べて約250円上昇）となり、過去最高を更新したものの、最低賃金額改定ランクは全国最低ランクのC区分となっている。



(資料：厚生労働省)

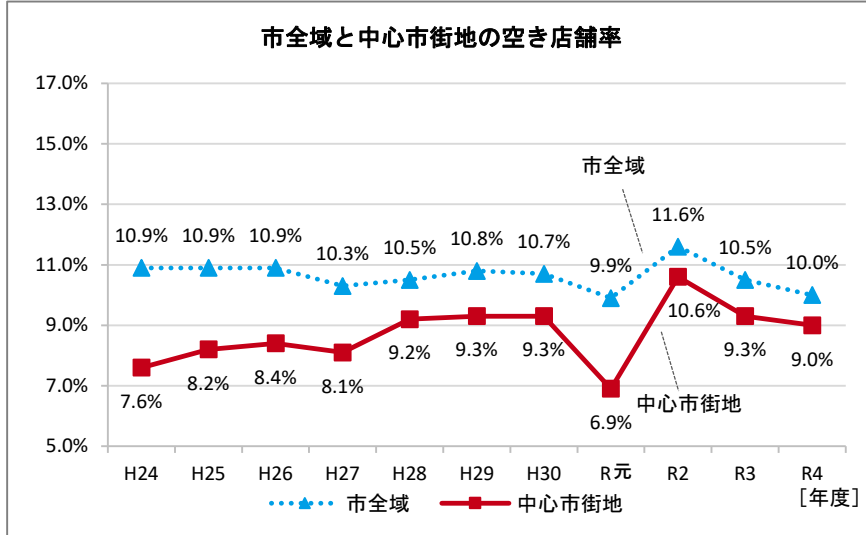
令和5年度地域別最低賃金額改定ランクの目安（令和5年7月）

ランク	都道府県
A	埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、大阪
B	北海道、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、三重、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、福岡
C	青森、岩手、秋田、山形、鳥取、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、 <u>鹿児島</u> 、沖縄

(資料：厚生労働省)

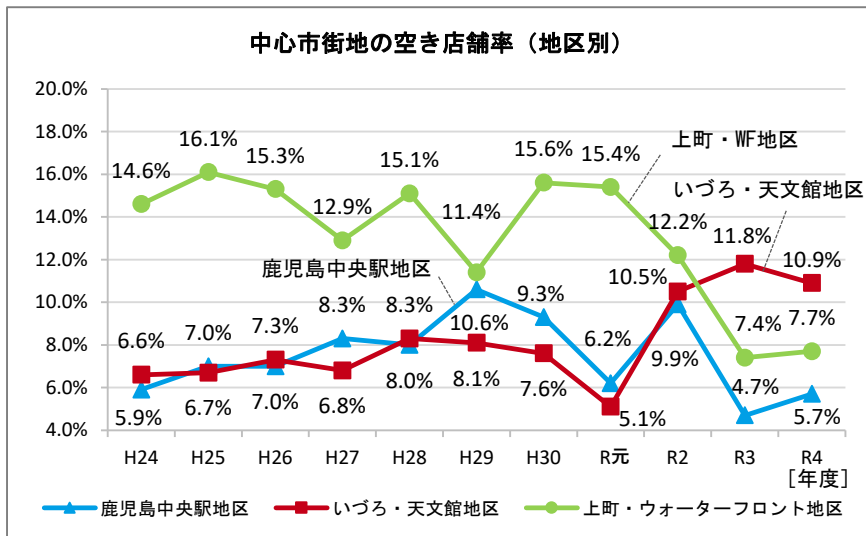
⑩ 中心市街地の空き店舗率

中心市街地の空き店舗率は、市全域を下回る推移をしている。平成30年度まで増加傾向にあった中心市街地の空き店舗率は、令和元年度に急激に減少したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け始めた令和2年度には10.6%（前年比+3.7%）にまで増加した。その後、市全域及び中心市街地ともに減少し、中心市街地では令和4年度に9.0%と、新型コロナウイルス感染拡大以前の平成28年度（9.2%）と同水準になっている。



※毎年度1～2月に調査を実施（資料：市産業支援課）

地区別では、いづろ・天文館地区及び鹿児島中央駅地区は、平成29年度から令和元年度まで減少傾向にあったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け始めた令和2年度にいづろ・天文館地区で10.5%（前年度比+5.4%）、鹿児島中央駅地区で9.9%（前年度比+3.7%）と急増した。その後、いづろ・天文館地区では、令和4年度は10.9%と、新型コロナウイルス感染拡大以前の水準に回復していないが、鹿児島中央駅地区では、令和3年度に4.7%（前年度比▲5.2%）と大幅に減少、令和4年度も5.7%と高水準であり、3地区で一番低い。一方、上町・ウォーターフロント地区は、平成30年度以降減少傾向にあり、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染拡大局面においても減少し続けた。これは、マンションの建設工事等により総店舗数が減少したことに伴い、空き店舗数も減少したと推察される。



※毎年度1～2月に調査を実施（資料：市産業支援課）

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

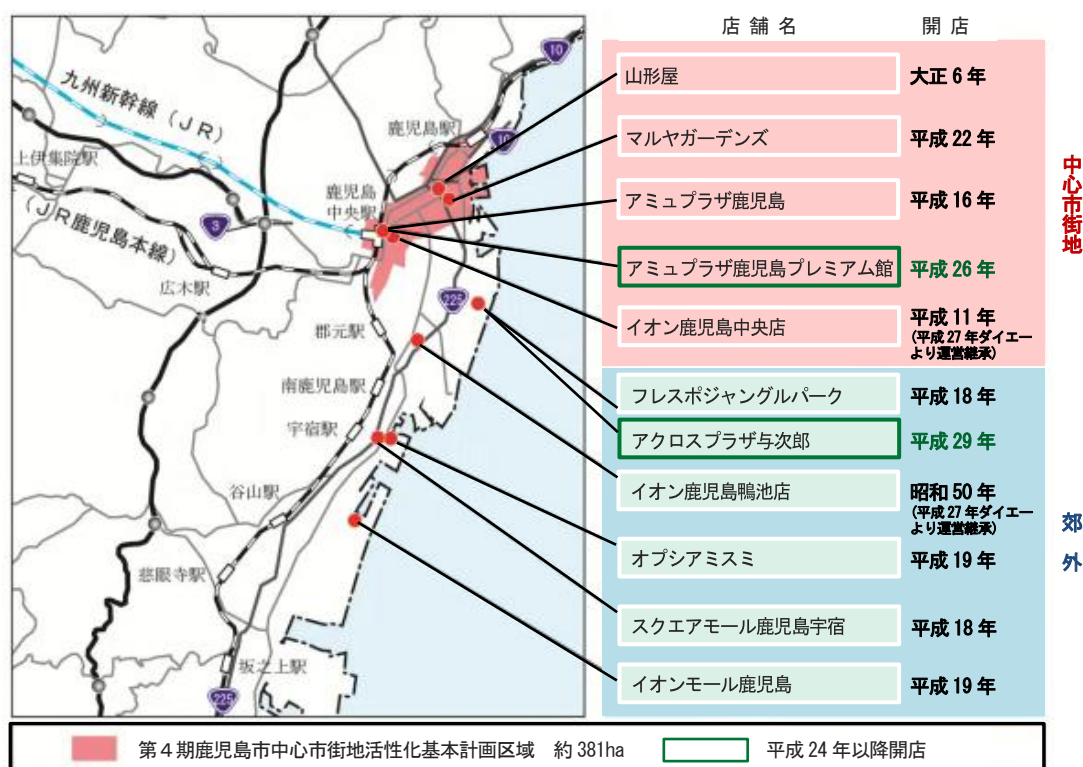
⑪ 大規模小売店舗の状況

本市には1万㎡を超える大規模小売店舗が12店舗あり、中心市街地には、山形屋、アミュプラザ鹿児島、西鹿児島駅東口10番街区市街地再開発ビル（イオン鹿児島中央店）、マルヤガーデンズの4店舗がある。

番号	店舗名	所在地	中心市街地	店舗面積 (㎡)	開店日
1	イオンモール鹿児島	東開町		49,239	当初H19.10 変更H25.11
2	山形屋	金生町	○	30,328	T6.6
3	アミュプラザ鹿児島（プレミアム館含む）	中央町	○	25,542	当初H16.9 変更H26.9
4	鹿児島ショッピングプラザ （イオン鹿児島鴨池店）	鴨池二丁目		20,420	S50.7
5	N's CITY（ニシムタ谷山店）	卸本町		19,394	当初H12.11 変更H21.3
6	オプシァミスミ	宇宿二丁目		18,300	H19.11
7	西鹿児島駅東口10番街区市街地再開発ビル （イオン鹿児島中央店）	中央町	○	17,124	H11.6
8	フレスポジャングルパーク	与次郎一丁目		13,770	H18.10
9	スクエアモール鹿児島宇宿	宇宿二丁目		12,141	H18.9
10	マルヤガーデンズ	呉服町	○	11,517	当初S11.6 変更H22.4
11	アクロスプラザ与次郎	与次郎一丁目		10,766	H29.4
12	ホームプラザナフコ谷山店	下福元町		10,399	当初H13.1 変更H19.10

（資料：市産業支援課調べ）

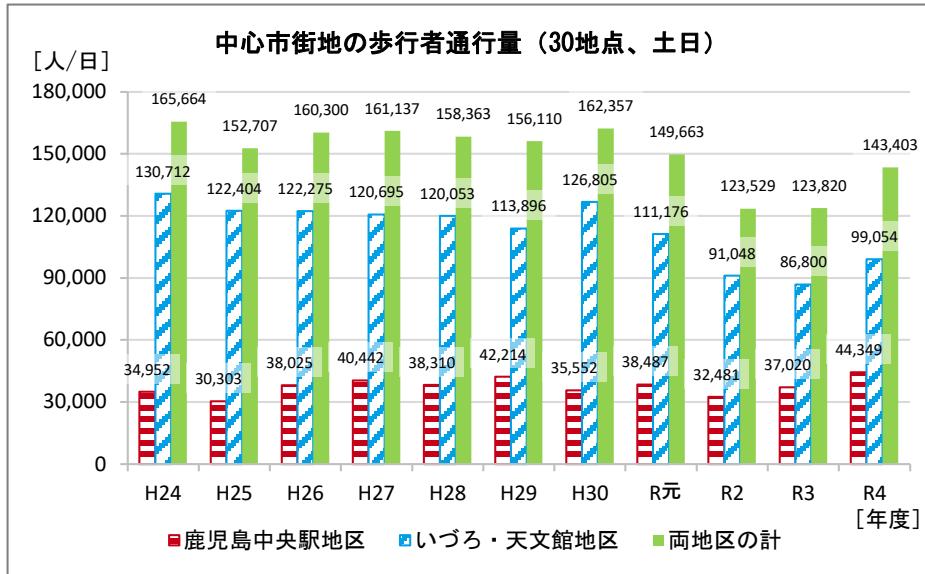
＜主な大規模小売店舗（10,000㎡以上）の立地状況＞



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑫ 中心市街地の歩行者通行量

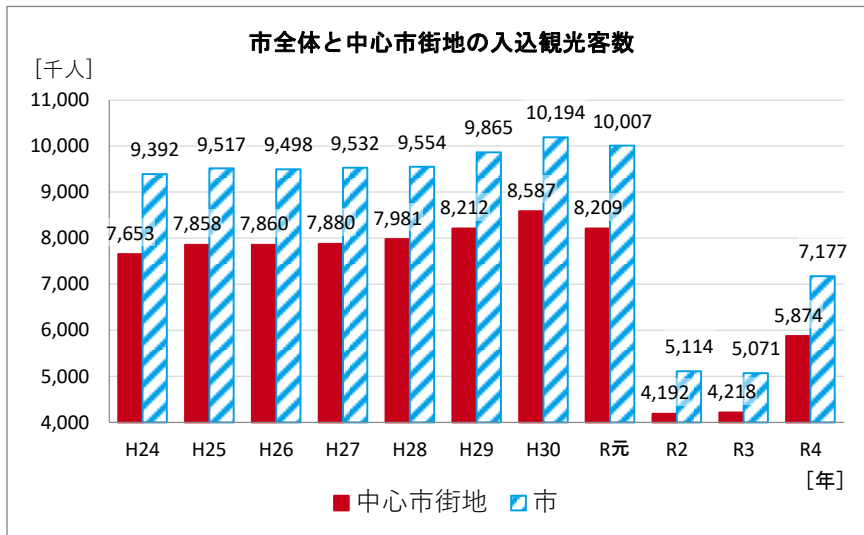
平成29年度にかけて減少傾向にあった中心市街地の歩行者通行量（30地点、土日平均）は、平成30年度に一時的に回復したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は123,529人にまで減少した。その後増加したが、令和4年度も143,403人と以前の水準には回復していない。地区別ではいづろ・天文館地区（20地点）が同様の推移をしている一方、鹿児島中央駅地区（10地点）は、平成25年度に一時30,303人に減少した後、令和元年度まで38,000人前後にて推移していたが、令和2年度に32,481人に減少した。その後増加し、令和4年度は平成24年度以来最高の44,349人となった。



(資料：市歩行者通行量調査)

⑬ 市全体と中心市街地の入込観光客数

本市の入込観光客数は、平成23年に九州新幹線が全線開業した後、緩やかな増加傾向にあり、平成30年は1,019万4千人に増加したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年は急激に減少した。一方、中心市街地の入込観光客数も同様の傾向を示しており、平成30年は858万7千人に増加したが、令和2年には急激に減少した。その後、増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には回復していない。

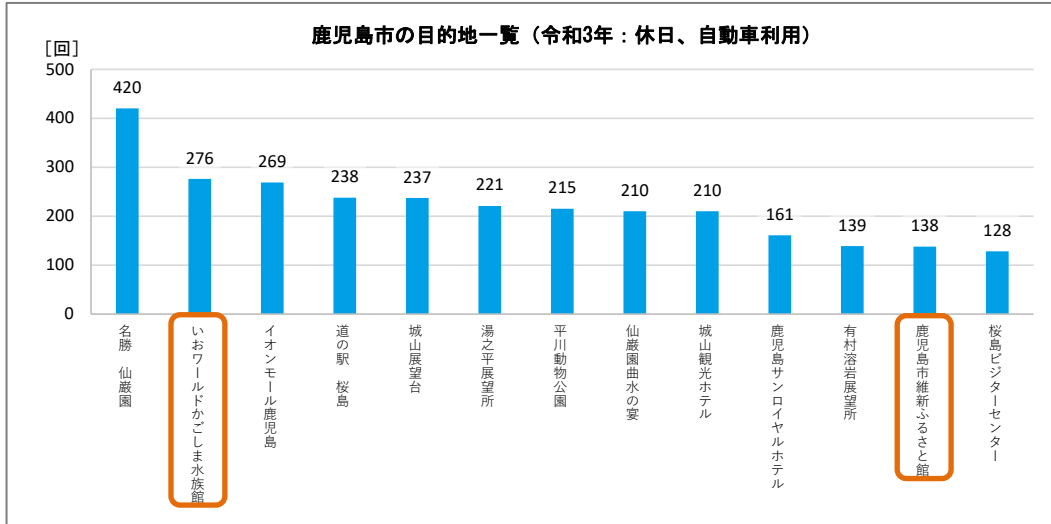


(資料：市観光統計)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

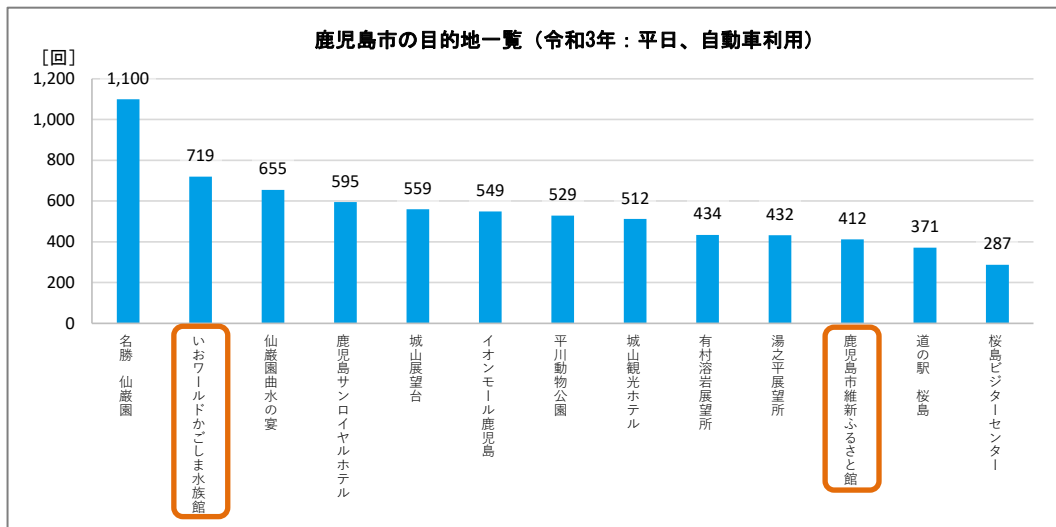
なお、地域経済分析システム（RESAS）を用いて令和3年の鹿児島市内の目的地検索ランキング（自動車利用）をみると、中心市街地にあるスポット・施設では「いおワールドかごしま水族館」（休日・平日ともに2位）、「鹿児島市維新ふるさと館」（休日12位・平日11位）がランクインしている。

<鹿児島市の目的地一覧（令和3年：休日、自動車利用）>



※令和3年の全休日における検索回数の合計

<鹿児島市の目的地一覧（令和3年：平日、自動車利用）>



※令和3年の全平日における検索回数の合計

※ 印：中心市街地内のスポット・施設

※検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数

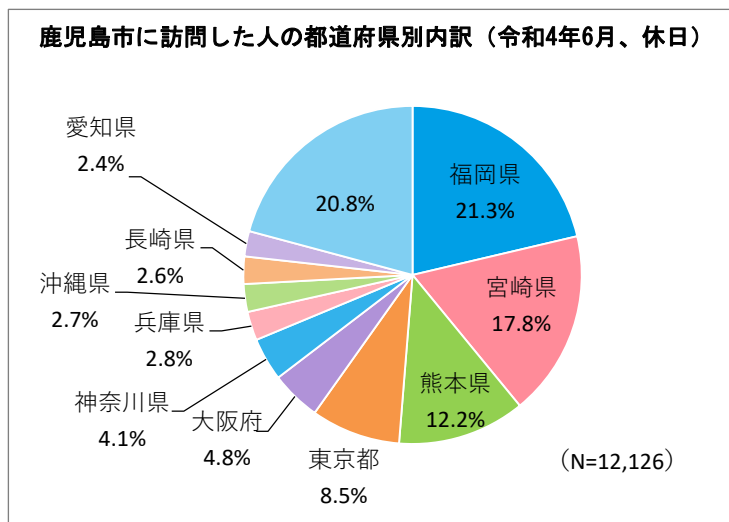
（資料：地域経済分析システム（RESAS））

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

また、令和4年の鹿児島市への来訪者（県内除く。）を都道府県別にみると、休日・平日ともに、九州、関東、関西の各地方からの訪問が多くなっており、上位3県が福岡県、宮崎県、熊本県と九州内で占められている。

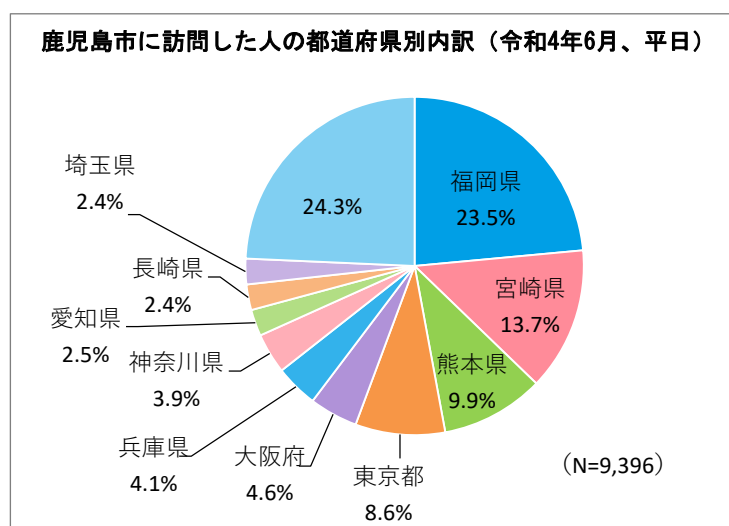
<鹿児島市に訪問した人の都道府県別内訳（令和4年6月）>

（休日）



順位	都道府県	滞在人口（人）
1位	福岡県	2,585
2位	宮崎県	2,153
3位	熊本県	1,480
4位	東京都	1,036
5位	大阪府	581
6位	神奈川県	499
7位	兵庫県	334
8位	沖縄県	322
9位	長崎県	318
10位	愛知県	293
	その他	2,525

（平日）

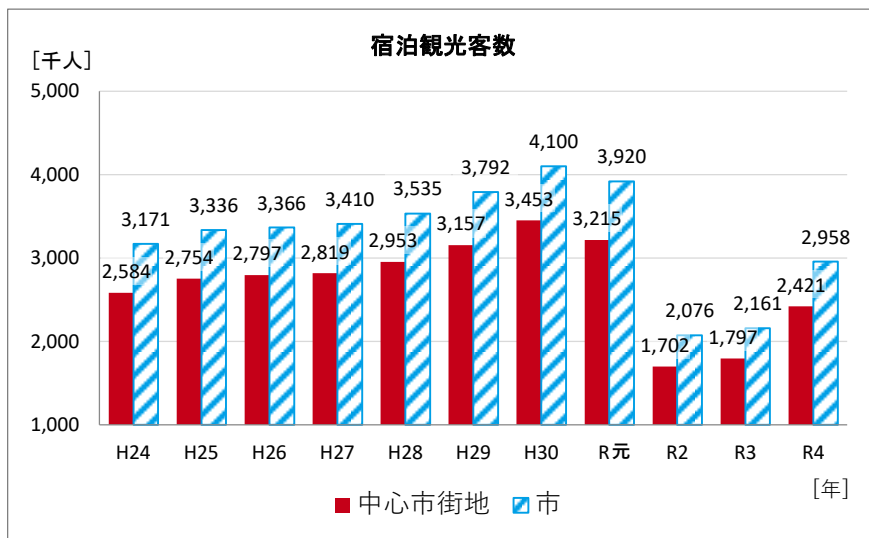


順位	都道府県	滞在人口（人）
1位	福岡県	2,210
2位	宮崎県	1,287
3位	熊本県	928
4位	東京都	806
5位	大阪府	435
6位	兵庫県	385
7位	神奈川県	364
8位	愛知県	238
9位	長崎県	230
10位	埼玉県	230
	その他	2,283

（資料：地域経済分析システム（RESAS））

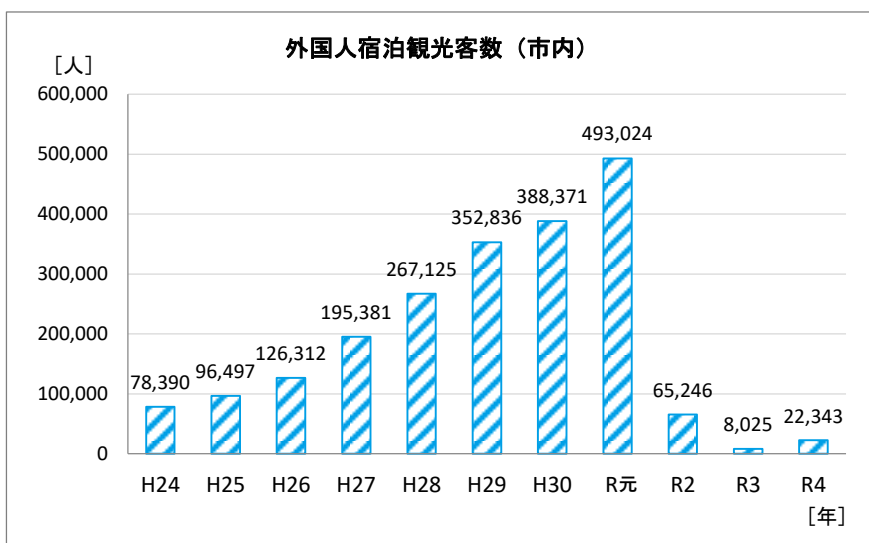
⑭ 市全体と中心市街地の宿泊観光客数

宿泊観光客数は、市全体、中心市街地ともに、九州新幹線全線開業後の平成24年以降平成30年まで緩やかに増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年は急激に減少した。その後、増加傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には回復していない。



(資料：市観光統計)

中でも、市全体の外国人宿泊観光客数は、令和元年まで急激に増加し、令和元年時点では本市宿泊施設の収容人員の約8割が中心市街地に集中していたことを考慮すると、中心市街地でも外国人宿泊観光客数が急増したと考えられる。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年は急激に減少し、水際対策に伴い、令和3年はさらに減少した。その後、水際対策が順次緩和されたことにより、令和4年には22,343人となったものの、令和元年の4.5%となっており、依然として少ない状況にある。



(資料：市観光統計)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

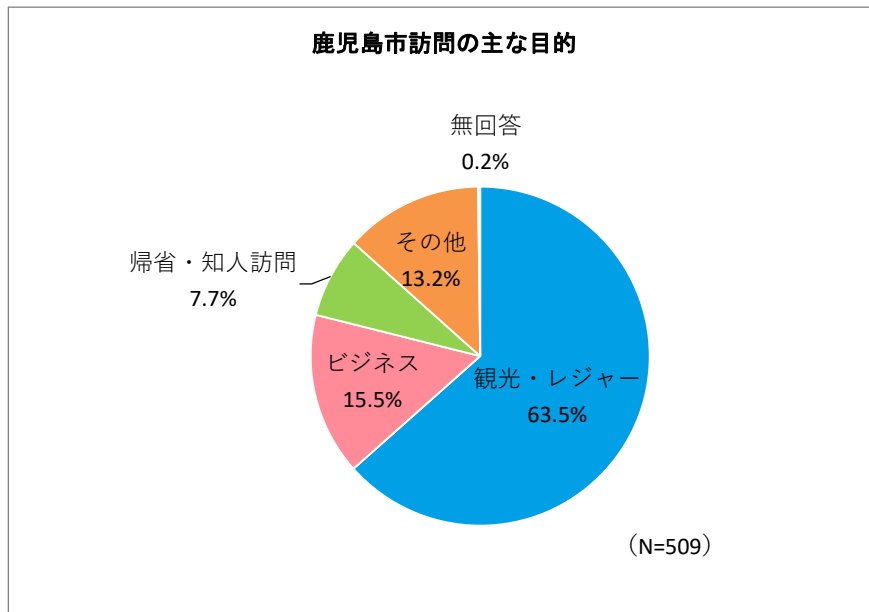
■ 宿泊施設の集積状況

	中心市街地 (A)	鹿児島市 (B)	対市割合 (A/B)
宿泊施設	91 施設	168 施設	54.2%
一日あたりの収容人員	11,539 人	16,816 人	68.6%

(資料：令和4年市観光統計)

⑮ 鹿児島市訪問の主な目的

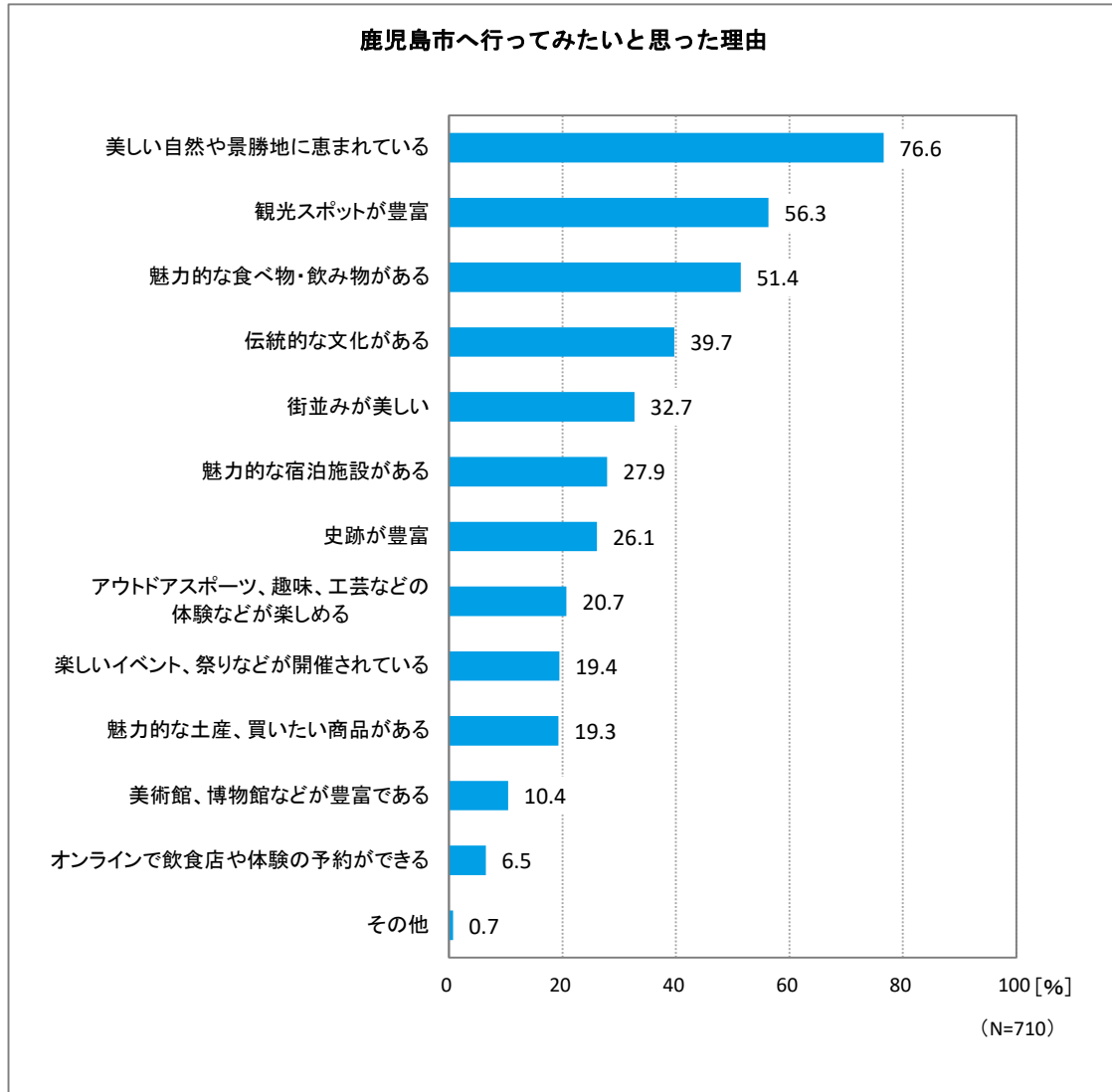
鹿児島市内に宿泊した16歳以上の日本人観光客を対象にしたアンケート調査では、本市訪問の主な目的は「観光・レジャー」が63.5%で最も多く、次いで「ビジネス」が15.5%などとなっている。



(資料：令和4年度鹿児島市観光消費額調査・マーケティング分析報告書)

⑩ 海外（東アジア4都市）居住者の鹿児島訪問時にしたいこと

東アジア4都市（台湾・香港・中国・韓国）の居住者の内、訪日経験者に対し、「来鹿動機（楽しみにしていること）」を尋ねたところ、「美しい自然や景勝地に恵まれている」が76.6%で最も多く、次いで「観光スポットが豊富」が56.3%、「魅力的な食べ物・飲み物がある」が51.4%などとなっている。

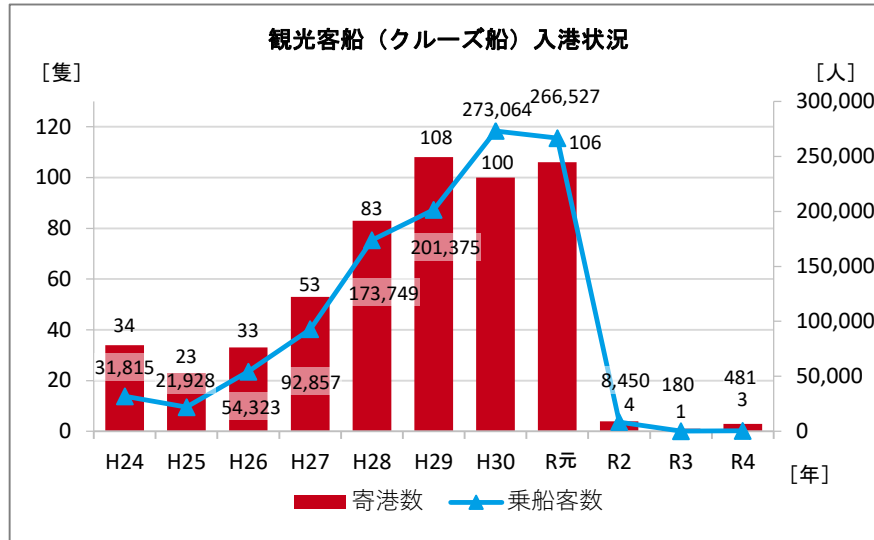


(資料：令和4年度鹿児島市観光消費額調査・マーケティング分析報告書)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑰ 観光客船（クルーズ船）入港状況

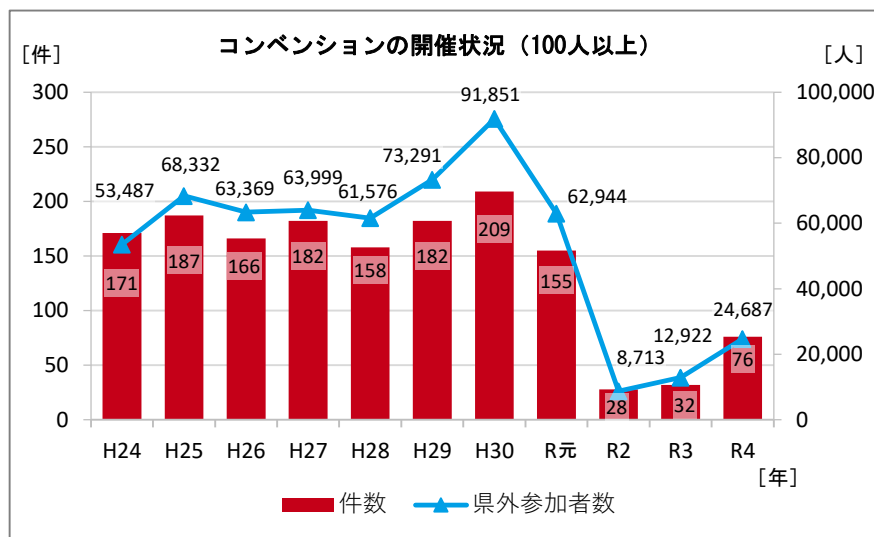
クルーズ船の本市寄港数は平成25年に一時的に減少したものの、その後増加傾向にあり、平成29年には108隻と、平成25年の23隻と比べて4倍を超える水準となり、令和元年まで同水準にて推移した。また、乗船客数についても平成30年には273,064人まで増加し、平成25年の約12倍となった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年は急激に減少し、令和4年も3隻と、令和元年の2.8%となっており、依然として少ない状況にある。



(資料：市観光統計)

⑱ コンベンション開催件数

100人以上が参加するコンベンション（各種大会・会議等）の本市における開催件数及び県外参加者数は、平成24年から平成25年にかけての増加は一服していたものの、平成28年から平成30年にかけて大幅に増加した。しかしながら、令和元年に減少し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年には急激に減少した。その後、増加しているが、令和元年以前の水準には回復していない。

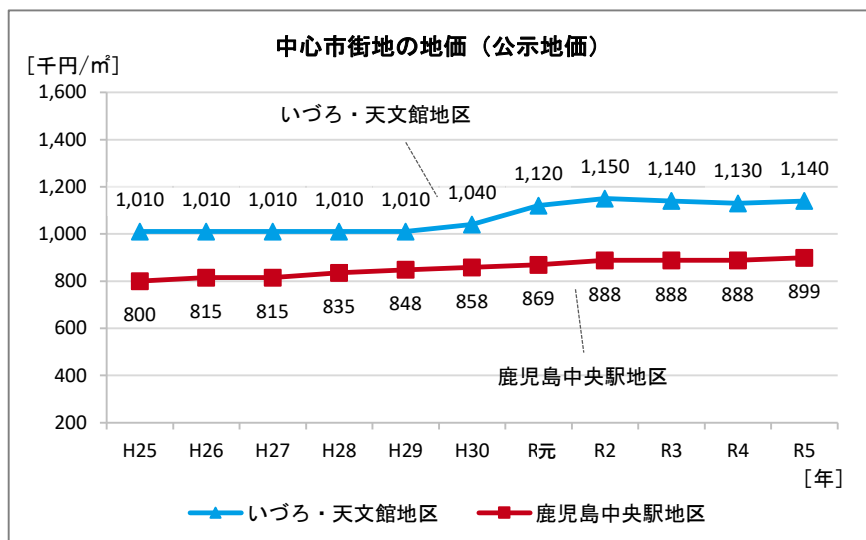


(資料：市観光統計)

(3) 土地・建物に関する状況

① 中心市街地の地価

中心市街地の公示地価は、いづろ・天文館地区（東千石町）では平成29年までは横ばいにて推移、平成29年から令和2年まで上昇したが、上昇は一服し、令和5年は横ばいにて推移している。鹿児島中央駅地区（中央町）では平成25年以降上昇傾向にある。



(資料：国土交通省地価公示)

② 不特定多数が利用する大規模建築物の状況

中心市街地には、不特定多数が利用する大規模建築物（階数3以上かつ5,000㎡以上など）のうち耐震改修等が必要な建物が2棟あり、いずれも耐震改修工事中あるいは工事予定である。

■耐震化状況（令和5年4月時点）

建物名称	状況
マルヤガーデンズ	耐震改修工事中
ホテルタイセイアネックス	耐震改修工事予定

(資料：市建築指導課)

③ 中心市街地及び中心市街地に隣接する主な都市福利施設の状況

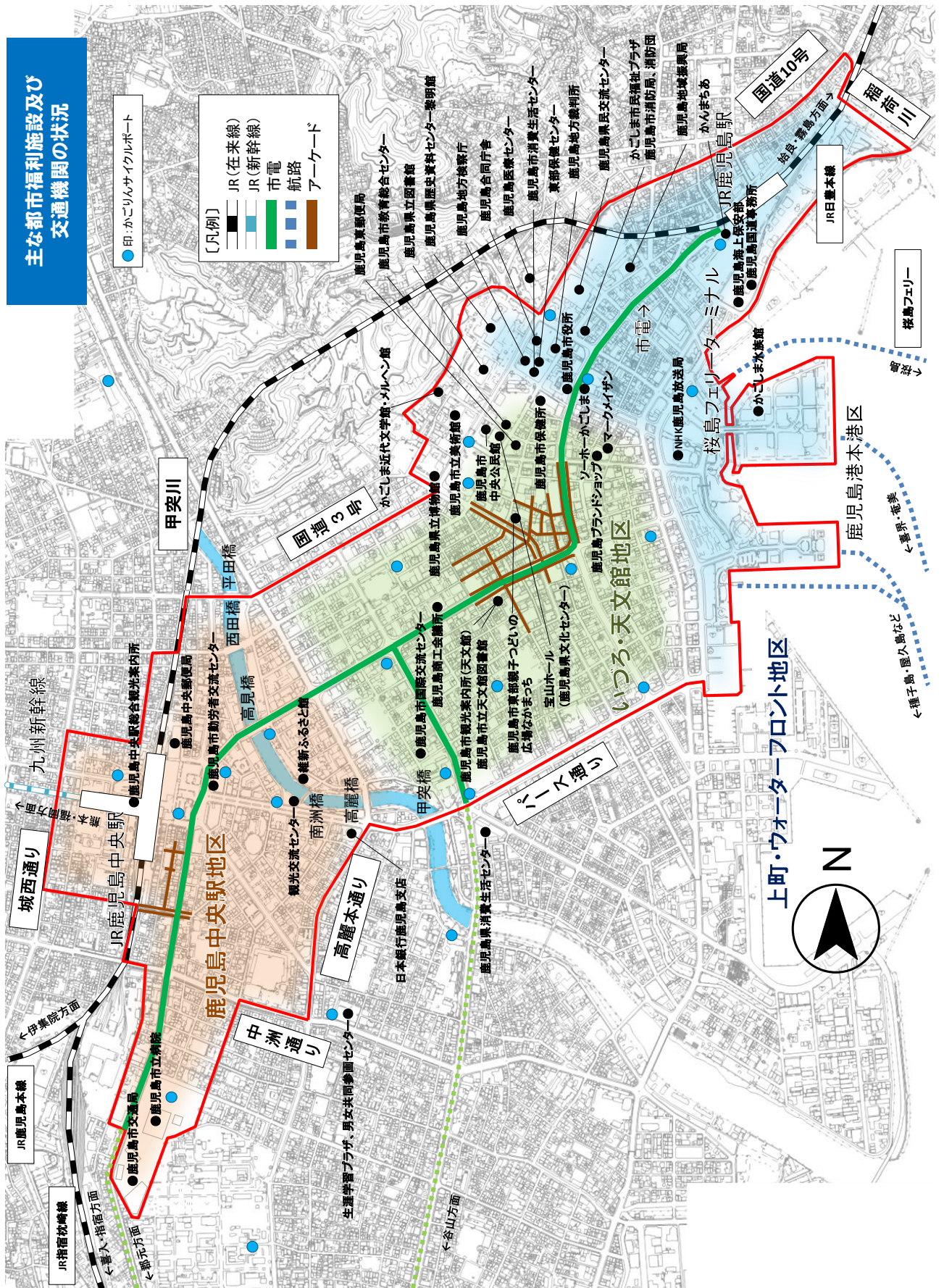
平成30年度には鹿児島市役所別館に自走式立体駐車場が完成し、mark MEIZAN（マークメイザン）がリニューアルしたほか、令和元年度には鹿児島海上保安部が泉町から浜町に移転、令和2年度には鹿児島市役所本館周辺敷地の整備が行われるとともに、鹿児島市国際交流センター（加治屋町）が開館した。また、令和4年度にはセンテラス天文館（千日町）が開業したことに伴い、同施設内に、「鹿児島市観光案内所（天文館）」が移転、鹿児島市立天文館図書館が新設された。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

■中心市街地及び中心市街地に隣接する主な都市福利施設の状況（令和5年8月現在）

施設名	所在地	備考
鹿児島市役所	山下町	平成30年度別館自走式立体駐車場完成 令和2年度本館周辺敷地整備
鹿児島市国際交流センター	加治屋町	令和2年度開館
鹿児島市消費生活センター	山下町	
かごしま市民福祉プラザ	山下町	
鹿児島市保健所・東部保健センター	山下町	
鹿児島市東部親子つどいの広場なかもっち	中町	
ソーホーかごしま	易居町	
mark MEIZAN（マークメイザン）	名山町	平成30年度リニューアル(旧ソフトプラザかごしま)
鹿児島市勤労者交流センター	中央町	
鹿児島中央駅総合観光案内所	中央町	
鹿児島市観光案内所（天文館）	千日町	令和4年度：東千石町（中心市街地内）から移転
観光交流センター	上之園町	
維新ふるさと館	加治屋町	
かごしま水族館	本港新町	
鹿児島市消防局、消防団	山下町	
鹿児島市教育総合センター	山下町	
鹿児島市中央公民館	山下町	
鹿児島市立美術館	城山町	
かごしま近代文学館・メルヘン館	城山町	
鹿児島市立天文館図書館	千日町	令和4年度開館
鹿児島市立病院	上荒田町	
鹿児島市交通局	上荒田町	
鹿児島地域振興局	小川町	
かごしま県民交流センター	山下町	
宝山ホール（鹿児島県文化センター）	山下町	
鹿児島県立図書館	城山町	
鹿児島県歴史資料センター黎明館	城山町	
鹿児島県立博物館	城山町	
鹿児島ブランドショップ	名山町	
鹿児島合同庁舎	山下町	
鹿児島国道事務所	浜町	
鹿児島地方裁判所	山下町	
鹿児島地方検察庁	山下町	
鹿児島海上保安部	浜町	令和元年度：泉町（中心市街地内）から移転
日本銀行鹿児島支店	上之園町	
鹿児島中央郵便局	中央町	
鹿児島東郵便局	山下町	
鹿児島商工会議所	東千石町	
NHK 鹿児島放送局	本港新町	
生涯学習プラザ	荒田一丁目	（※中心市街地に隣接）
男女共同参画センター		
鹿児島県消費生活センター	新屋敷町	（※中心市街地に隣接）
鹿児島医療センター	城山町	（※中心市街地に隣接）

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針



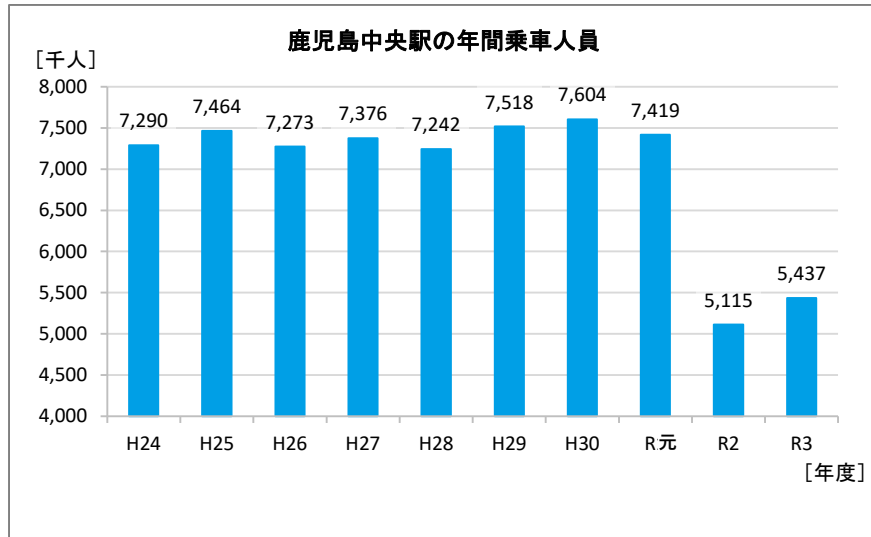
主な都市福利施設及び
交通機関の状況

- 印・かごりんサイクルポート
- [凡例]
- BRT (在来線)
 - JR (新幹線)
 - 市電
 - 航空路
 - アーケード

(4) 交通に関する状況

① JR鹿児島中央駅の乗車人員

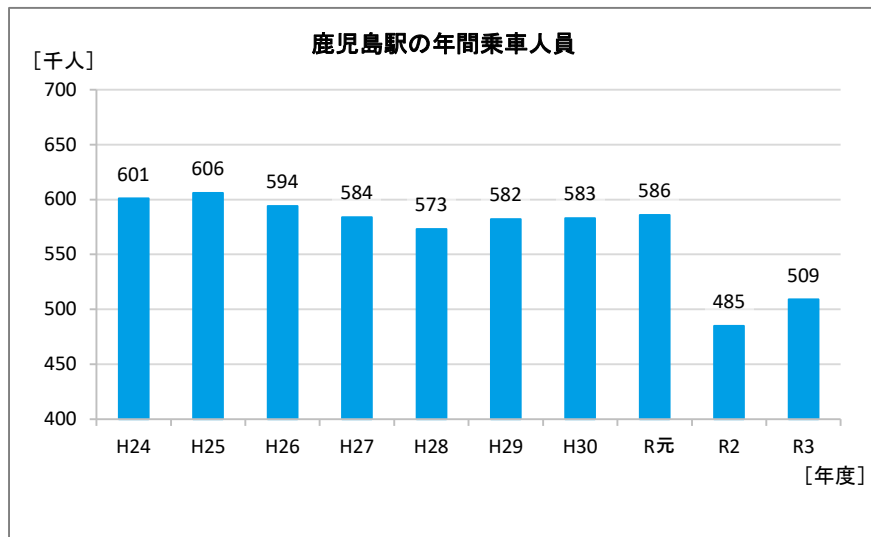
平成23年の九州新幹線全線開業後の推移をみると、鹿児島中央駅の乗車人員は、平成28年度まで横ばいの状態であったが、平成30年度にかけて緩やかに増加した。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は急激に減少し、令和3年度も543万7千人と依然として低水準である。



(資料：市統計書)

② JR鹿児島駅の乗車人員

鹿児島駅の乗車人員は、平成24年度から平成28年度まで緩やかに減少し、その後、令和元年度まで横ばいであったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度に急激に減少した。令和3年度は50万9千人に回復したが、依然として低水準である。



(資料：市統計書)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

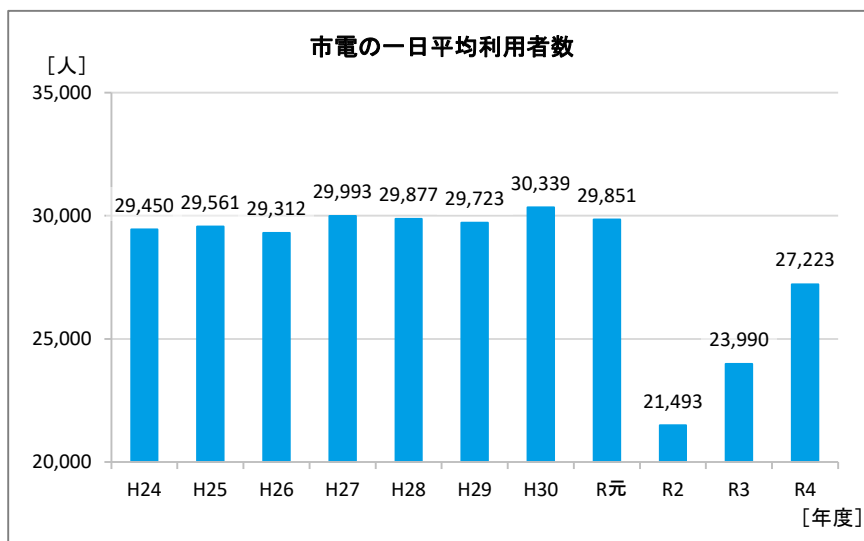
○ 鹿児島市における鉄道の運行概要

	九州新幹線	JR 鹿児島本線	JR 日豊本線	JR 指宿枕崎線
起終点	博多 ～鹿児島中央	門司港～八代 川内～鹿児島	小倉～鹿児島	鹿児島中央 ～枕崎
主な運転系統	博多 ～鹿児島中央 熊本 ～鹿児島中央 川内 ～鹿児島中央	川内 ～鹿児島中央 串木野 ～鹿児島中央 伊集院 ～鹿児島中央	宮崎 ～鹿児島中央 都城 ～鹿児島中央 国分 ～鹿児島中央	鹿児島中央 ～喜入 鹿児島中央 ～指宿 鹿児島中央 ～山川 鹿児島中央 ～枕崎
上り運行本数	39 本/日	42 本/日	47 本/日	47 本/日
下り運行本数	38 本/日	42 本/日	46 本/日	49 本/日

※令和3年10月時点 平日運行本数（新幹線は、臨時便を含む）
（資料：第二次鹿児島市公共交通ビジョン）

③ 市営電車の日平均利用者数

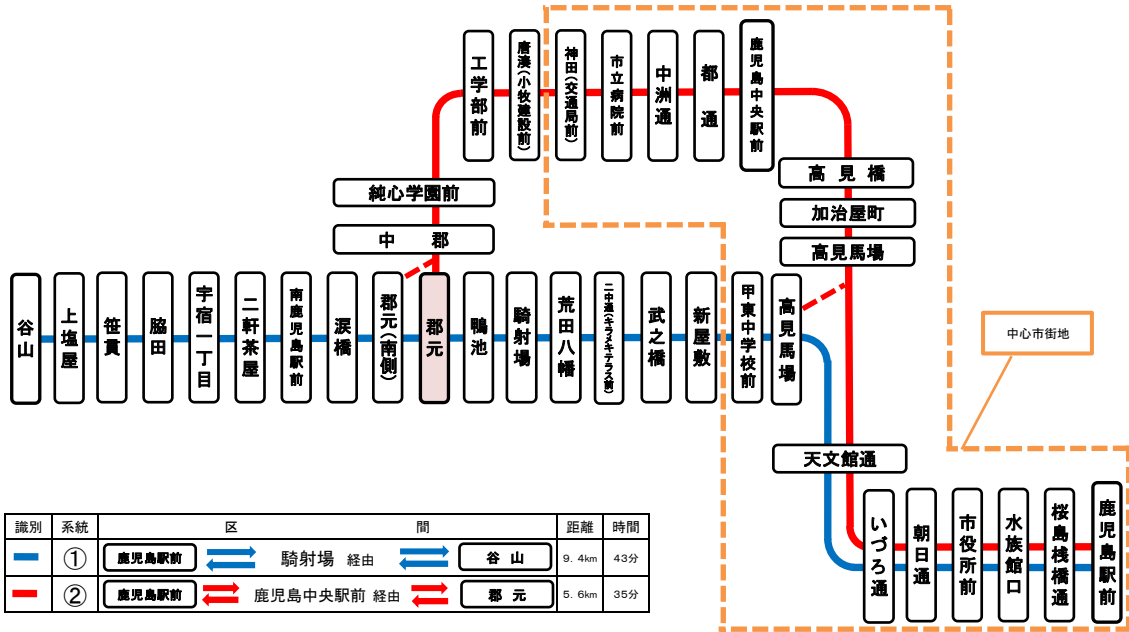
市電の日平均利用者数は、平成24年度以降令和元年度まで概ね横ばいの状態であったが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大幅に減少した。その後、回復傾向にあり、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大前の約9割まで回復している。



（資料：市交通局）

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

<路面電車(市電)のネットワーク>



※郡元と高見馬場で 1系統⇄2系統 の乗換ができます。(ただし、鹿兒島駅前～天文館通で乗車した場合を除く) (資料：市交通局)

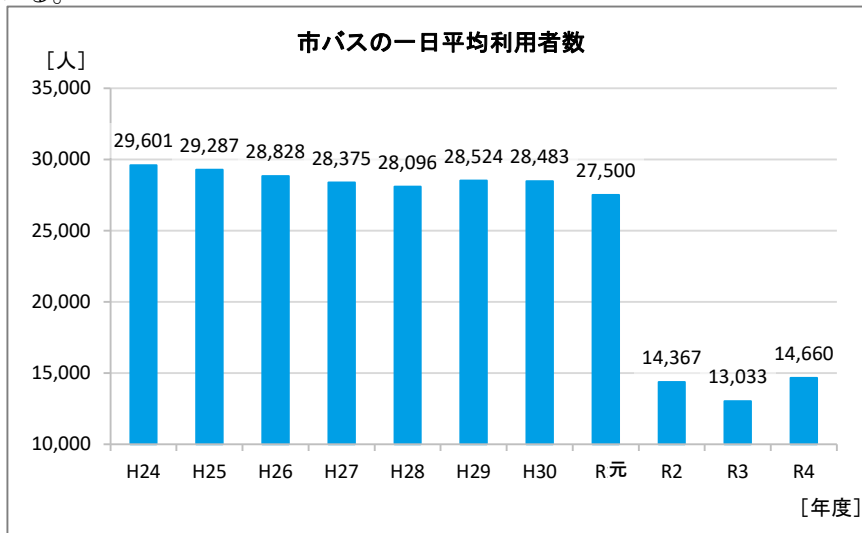
<路面電車(市電)の運行状況>

	1系統	2系統	中央駅方面直通便
起点/終点	鹿兒島駅前～谷山 (騎射場経由)	鹿兒島駅前～郡元 (鹿兒島中央駅前経由)	鹿兒島駅前～谷山 (鹿兒島中央駅前経由)
上り運行本数 (平日)	140本/日	132本/日	5本/日
下り運行本数 (平日)	139本/日	131本/日	4本/日 (うち脇田止まり3本)

(資料：市交通局 (令和5年4月時点))

④ 市営バスの一日常利用者数

市営バス(以下「市バス」という。)の一日常利用者数は、減少傾向が続いていたが、令和2年度から令和3年度にかけて路線の約5割、便数の約4割を民間のバス事業者に移譲し、減少したほか、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により更に減少した。路線移譲による減少(市バスの平均利用者数 約8,700人/日)を考慮すると、令和3年度以降回復傾向にあり、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大前の約8割まで回復している。

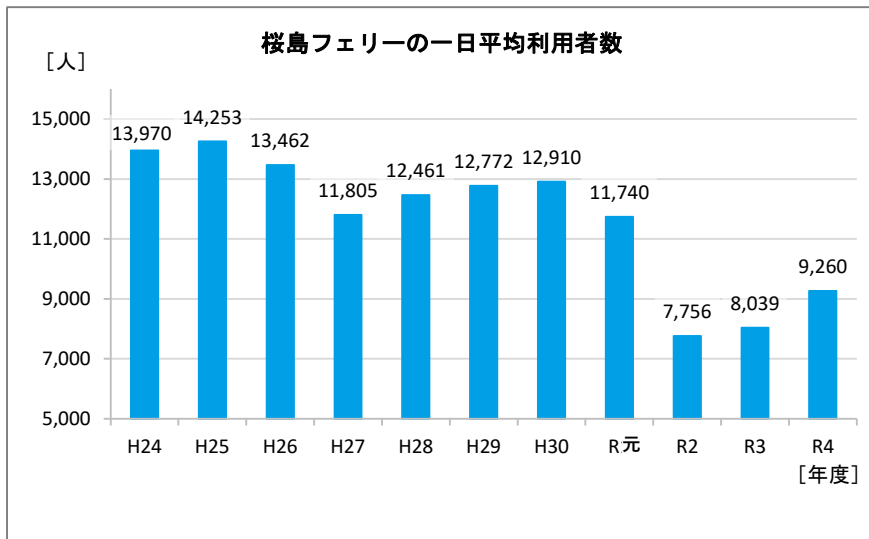


(資料：市交通局)

⑤ 市営桜島フェリーの一日常利用者数

桜島フェリーは、桜島住民の中心市街地への唯一の公共交通であるとともに、観光客の桜島へのアクセス手段であり、さらには、大隅半島と薩摩半島を繋ぐ、人・物流の重要な交通・輸送手段であることから、その役割は中心市街地の発展にも大きな影響を与えている。

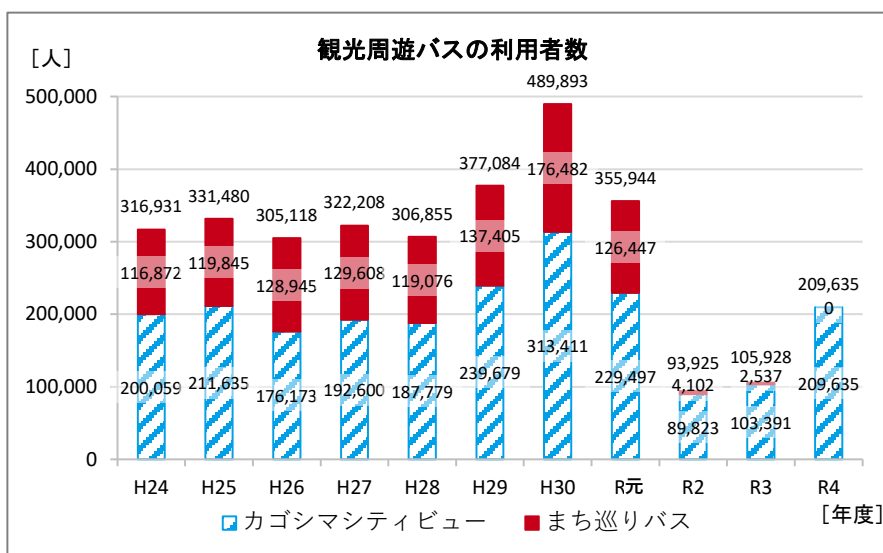
桜島フェリーの利用者は、平成24年度以降は、九州新幹線全線開業の効果もあり、持ち直しつつあったものの、平成27年度は東九州自動車道の延伸や桜島の噴火警戒レベル引き上げの影響を受け、大幅に減少した。平成28年度から平成30年度まではクルーズ船寄港の増加や大河ドラマ「西郷どん」の放送で注目を集めたこと等により、増加傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度から大幅に減少した。



(資料：市船舶局)

⑥ 観光地周遊バスの利用者数

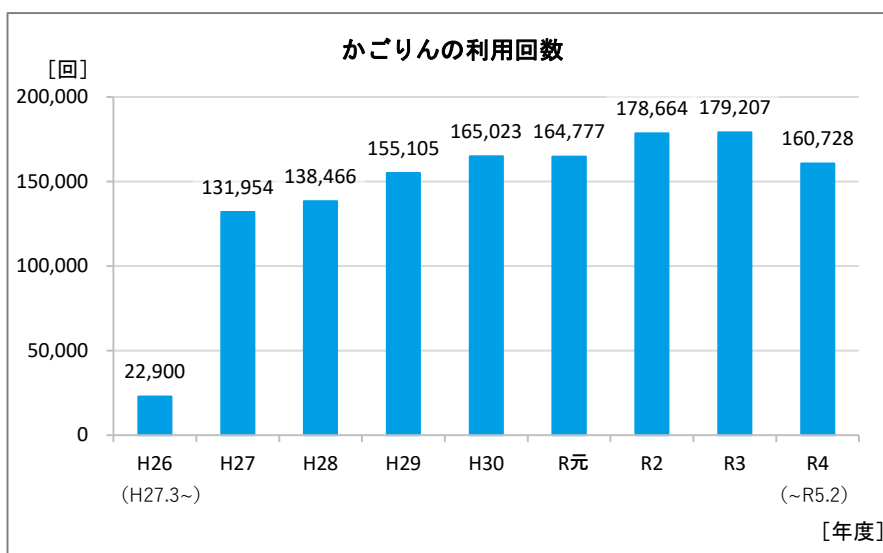
市内の主要観光スポットを巡る周遊バス、カゴシマシティビューの利用者は、平成26年度に一時減少したものの、大河ドラマ「西郷どん」の放送で注目を集めたこと等により、平成30年度までは増加傾向にあり、過去最高の313,411人を記録した。その後、減少し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度には急激に減少した。一方、まち巡りバスは、利用者が12万3千人前後で推移していたが、平成28年度から平成30年度にかけて増加し、176,482人となったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、令和2年度から急激に減少し、令和4年度は運休となった。



(資料：鹿児島交通㈱、市観光振興課)

⑦ コミュニティサイクル「かごりん」の利用回数

中心市街地20か所と中心市街地周辺7か所の計27か所にサイクルポートを配置し、どのサイクルポートでも貸出・返却ができるコミュニティサイクル「かごりん」は、環境にやさしい移動手段として平成27年3月の供用開始以降緩やかに利用回数が増加し、新型コロナウイルス感染拡大の状況下においても増加し続け、令和3年度には179,207回となり、中心市街地の回遊性向上に寄与している。なお、シェアサイクル「かごりん」の導入のため、コミュニティサイクル「かごりん」は令和5年2月末で運用を終了した。



(資料：市環境政策課)

【3】地域住民のニーズ等の把握・分析

(1) 令和4年度鹿児島市中心市街地来街者の回遊性・満足度調査

【調査概要】

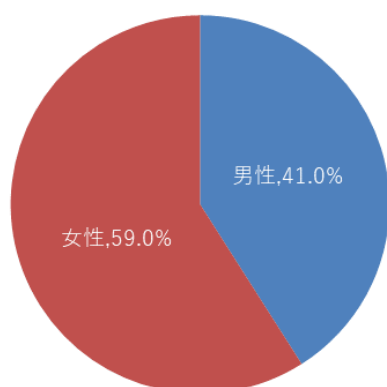
- 調査日：令和4年11月2日（水）、6日（日）の2日間
- 調査時間：10時30分～18時30分の8時間
- 調査地点：いづろ・天文館地区（5地点）、鹿児島中央駅地区（5地点）、上町・ウォーターフロント地区（4地点）の計14地点
- 調査方法：①WEBアンケート（来街者に二次元コードを記載した調査依頼文を配布、インターネットによる回収）
②郵送による回収（来街者に調査票を配布、郵送による回収）
- 対象者：高校生以上の来街者（観光客を含む。）
- サンプル数：597件

【調査結果】

1. 性別

男性 41.0%、女性 59.0%

【性別】

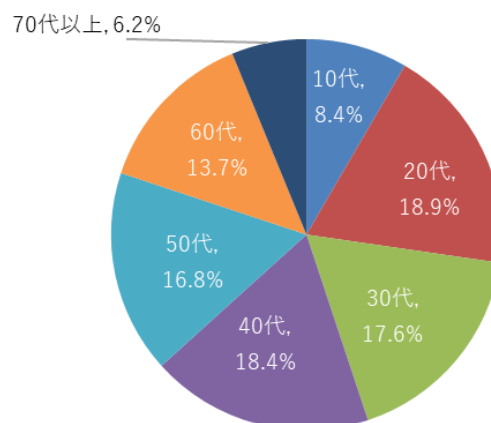


(N=593)

2. 年齢

10代	8.4%
20代	18.9%
30代	17.6%
40代	18.4%
50代	16.8%
60代	13.7%
70代以上	6.2%

【年齢】

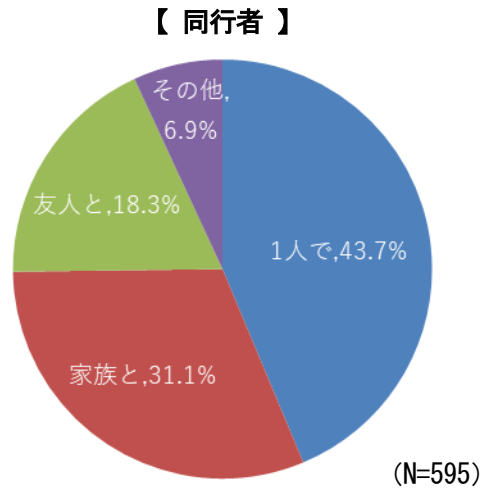


(N=597)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

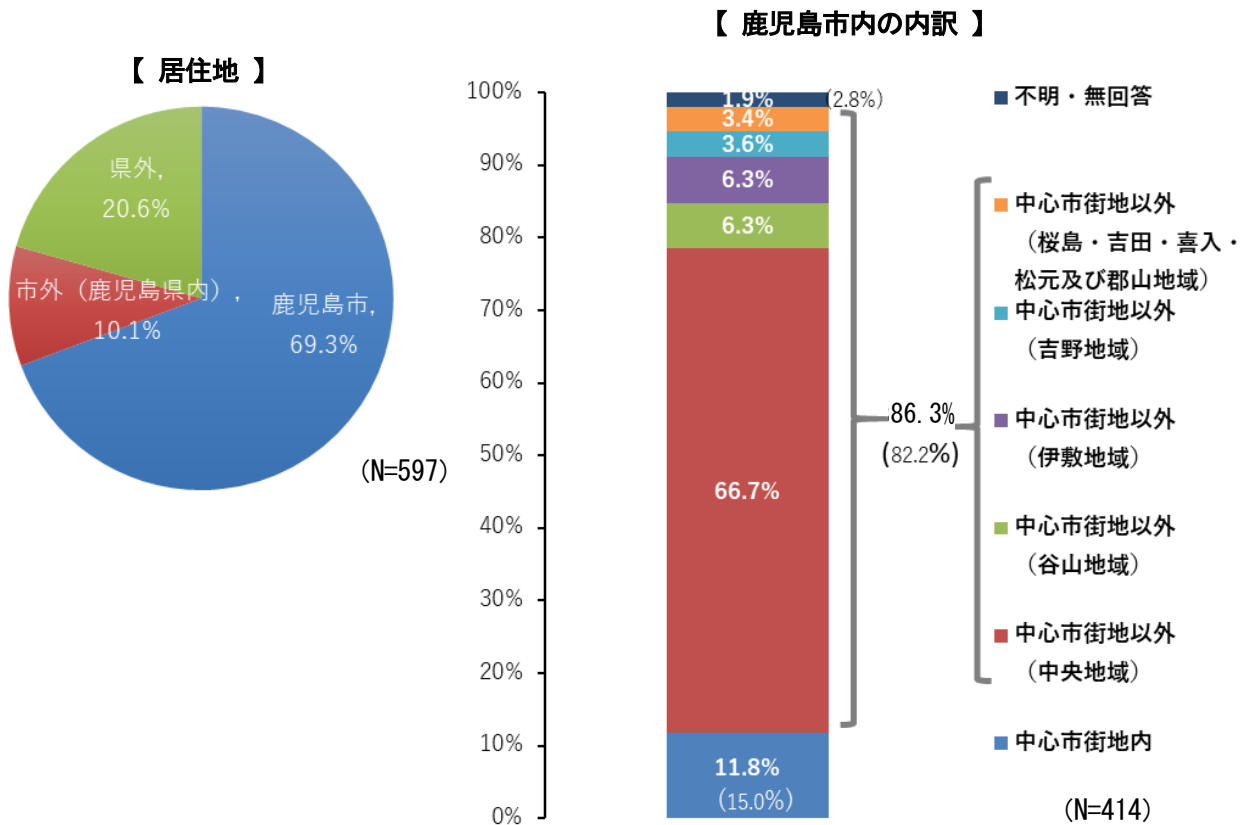
3. 同行者

- 1人で 43.7%
- 家族と 31.1%
- 友人と 18.3%
- その他 6.9%



4. 居住地

- 鹿児島市内 69.3%、市外（鹿児島県内） 10.1%、県外 20.6%
- （市内のうち、中心市街地内が 11.8%、中心市街地以外が 86.3%、無回答が 2.8%）

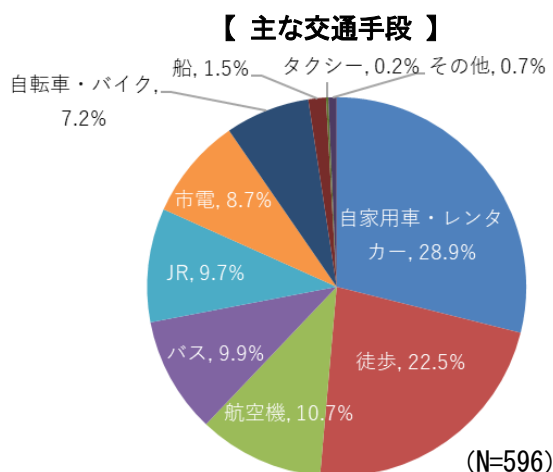


※ () 内は前回調査 (R3年調査) における割合。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

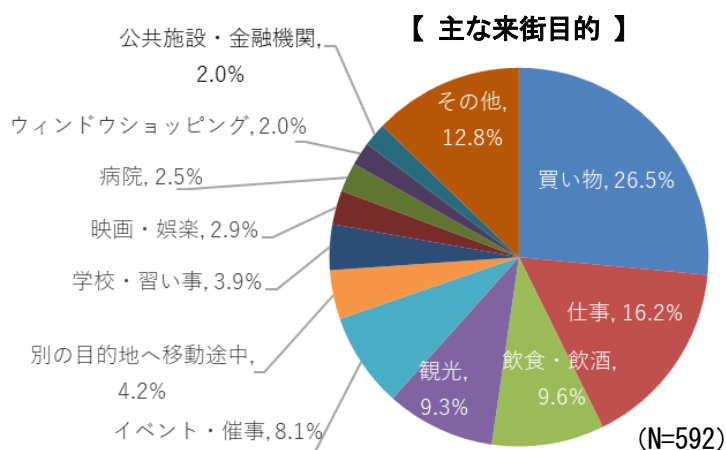
5. 主な交通手段

① 自家用車・レンタカー	28.9%
② 徒歩	22.5%
③ 航空機	10.7%
④ バス	9.9%
⑤ JR	9.7%
⑥ 市電	8.7%
⑦ 自転車・バイク	7.2%
⑧ 船	1.5%
⑨ タクシー	0.2%



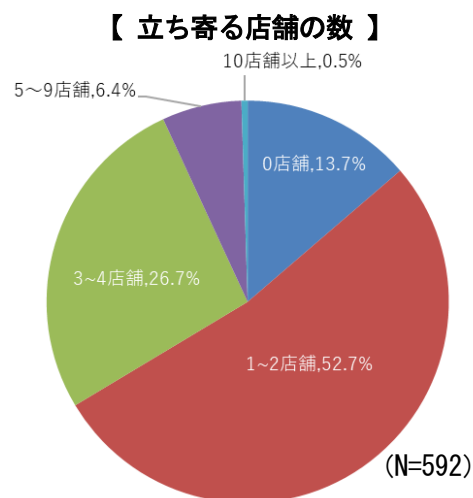
6. 主な来街目的 (上位5項目)

① 買い物	26.5%
② 仕事	16.2%
③ 飲食・飲酒	9.6%
④ 観光	9.3%
⑤ イベント・催事	8.1%



7. 立ち寄る店舗の数

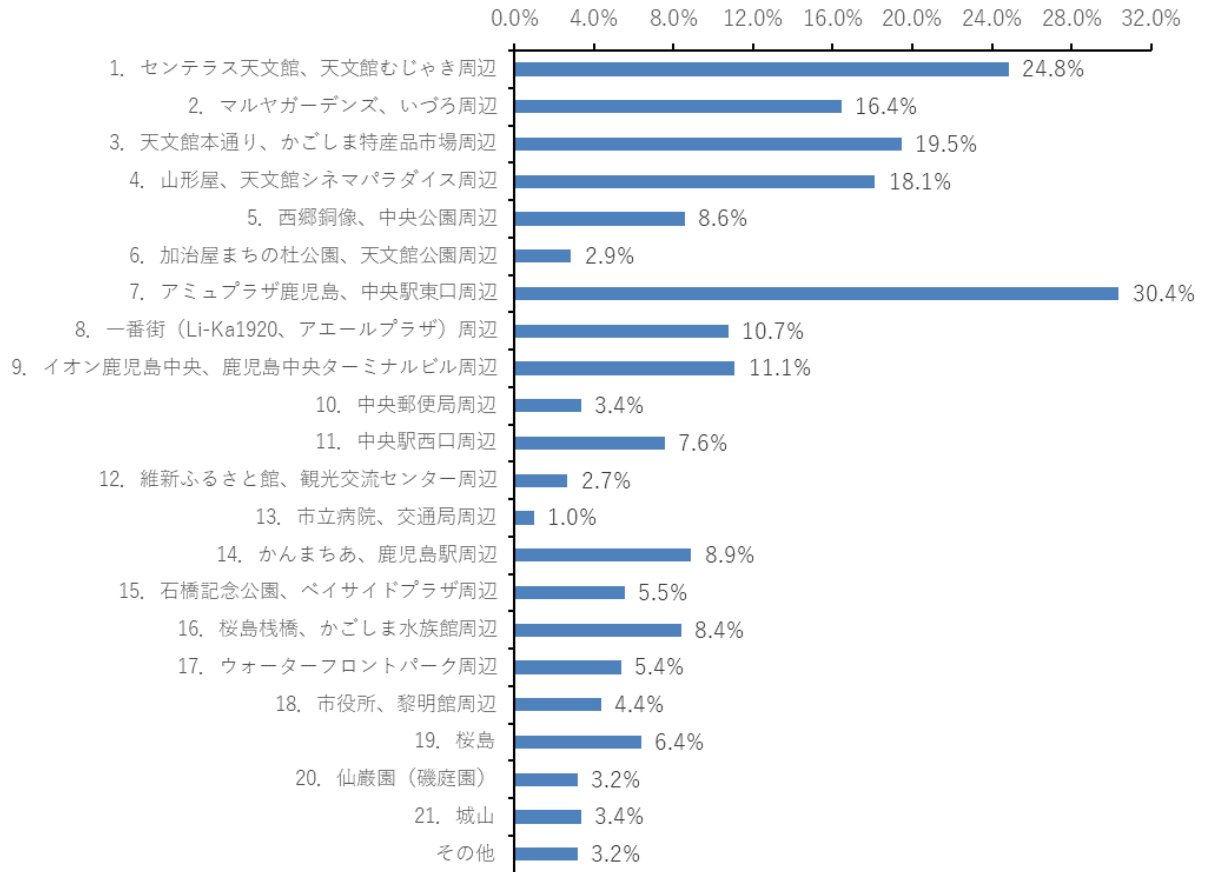
0店舗	13.7%
1～2店舗	52.7%
3～4店舗	26.7%
5～9店舗	6.4%
10店舗以上	0.5%



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

8. 訪問地点

【本日訪れた（訪れる予定の）地点、施設】



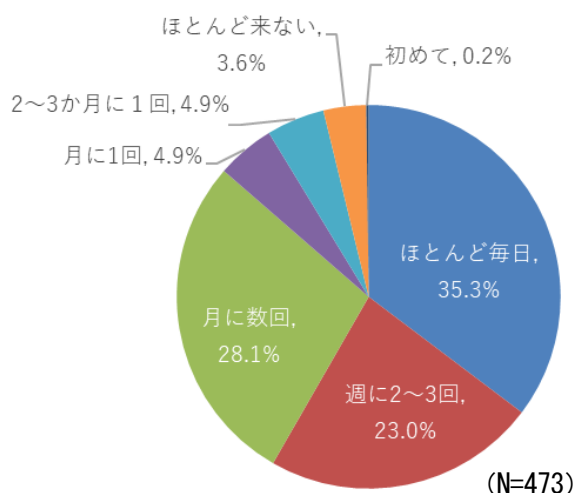
(N=596)

9. 来街頻度

市内・県内

ほとんど毎日	35.3%
週2~3回	23.0%
月に数回	28.1%
月1回	4.9%
2~3か月に1回	4.9%
ほとんど来ない	3.6%

【 来街頻度（市内・県内） 】

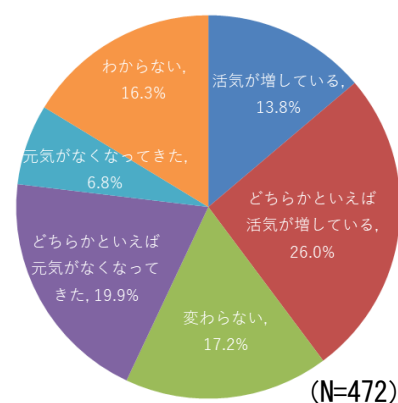


10. にぎわい（人通りや活気）の5年前との変化

市内・県内

活気が増している	13.8%
どちらかといえば活気が増している	26.0%
変わらない	17.2%
どちらかといえば元気がなくなってきた	19.9%
元気がなくなってきた	6.8%
わからない	16.3%

【 にぎわいの変化（市内・県内） 】



11. 来街機会

ここ1~2年の来街機会の増減（「増えた」、「やや増えた」と答えた人の割合（A）から「減った」、「やや減った」と答えた人の割合（B）を差し引いたもの）

市内・県内

	A「増えた」+「やや増えた」	B「やや減った」+「減った」	A-B
①いづろ・天文館地区	43.6%	22.0%	21.6pt
②鹿児島中央駅地区	49.3%	19.6%	29.7pt
③上町・ウォーターフロント地区	18.9%	32.3%	-13.4pt
④郊外の大型店等	30.9%	28.7%	2.2pt

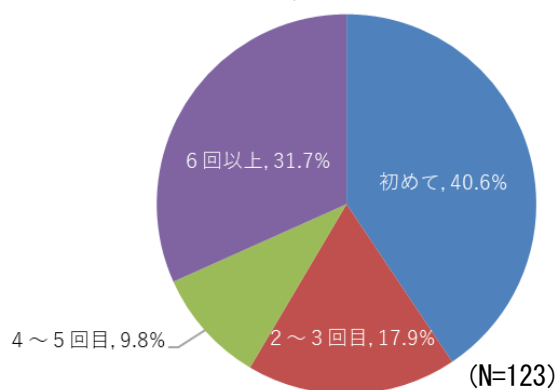
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

12. 来街頻度

県外

初めて	40.6%
2～3回目	17.9%
4～5回目	9.8%
6回以上	31.7%

【来街頻度（県外）】



13. 来訪機会

ここ1～2年の来街機会の増減（「増えた」、「やや増えた」と答えた人の割合（A）から「減った」、「やや減った」と答えた人の割合（B）を差し引いたもの）

県外

	A「増えた」+ 「やや増えた」	B「やや減った」+ 「減った」	A-B
鹿児島市	39.2%	17.6%	21.6pt

14. 中心市街地の良い点・満足している点（上位3項目）

市内・県内

【良い点、満足している点の回答件数（地区別）】

地区名	回答件数	うち、「なし」の件数	差引
いづろ・天文館地区	693	14(2.0%)	679(98.0%)
鹿児島中央駅地区	697	15(2.2%)	682(97.8%)
上町・ウォーターフロント地区	528	102(19.3%)	426(80.7%)
回答総数	1918	131(6.8%)	1787(93.2%)

※（ ）内は回答件数に占める割合

➤いづろ・天文館地区

- ① 飲食、娯楽等の機能が集積 40.0%
- ② 魅力ある個店がある 34.2%
- ③ 何でも手に入る 28.2%

➤鹿児島中央駅地区

- ① 飲食、娯楽等の機能が集積 39.4%
- ② 何でも手に入る 36.8%
- ③ 魅力ある個店がある 26.9%

➤上町・ウォーターフロント地区

- ① なし 21.9%
- ② 魅力ある個店がある 20.9%
- ③ 飲食、娯楽等の機能が集積 17.4%

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

県外

【良い点、満足している点の回答件数（中心市街地全体）】

回答件数	うち、「なし」の件数	差引
270	2(0.7%)	268(99.3%)

※（ ）内は回答件数に占める割合

➤中心市街地全体

- ① 観光地、名所が多い 37.4%
- ② 飲食、娯楽等の機能が集積 35.0%
- ③ 街並み、景観がきれい 31.7%

15. 中心市街地の悪い点・不満な点（上位3項目）

市内・県内

【悪い点、不満な点の回答件数（地区別）】

地区名	回答件数	うち、「なし」の件数	差引
いづろ・天文館地区	544	73(13.4%)	471(86.6%)
鹿児島中央駅地区	491	122(24.8%)	369(75.2%)
上町・ウォーターフロント地区	547	88(16.1%)	459(83.9%)
回答総数	1582	283(17.9%)	1299(82.1%)

※（ ）内は回答件数に占める割合

➤いづろ・天文館地区

- ① 用事が1か所で済まず不便 27.9%
- ② 魅力ある個店がない 15.9%
- ③ なし 15.9%

➤鹿児島中央駅地区

- ① なし 26.6%
- ② 魅力ある個店がない 17.4%
- ③ 用事が1か所で済まず不便 16.1%

➤上町・ウォーターフロント地区

- ① 用事が1か所で済まず不便 21.4%
- ② 魅力ある個店がない 20.3%
- ③ 希望の品が手に入らない 19.4%

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

県外

【悪い点、不満な点の回答件数（中心市街地全体）】

回答件数	うち、「なし」の件数	差引
154	51(33.1%)	103(66.9%)

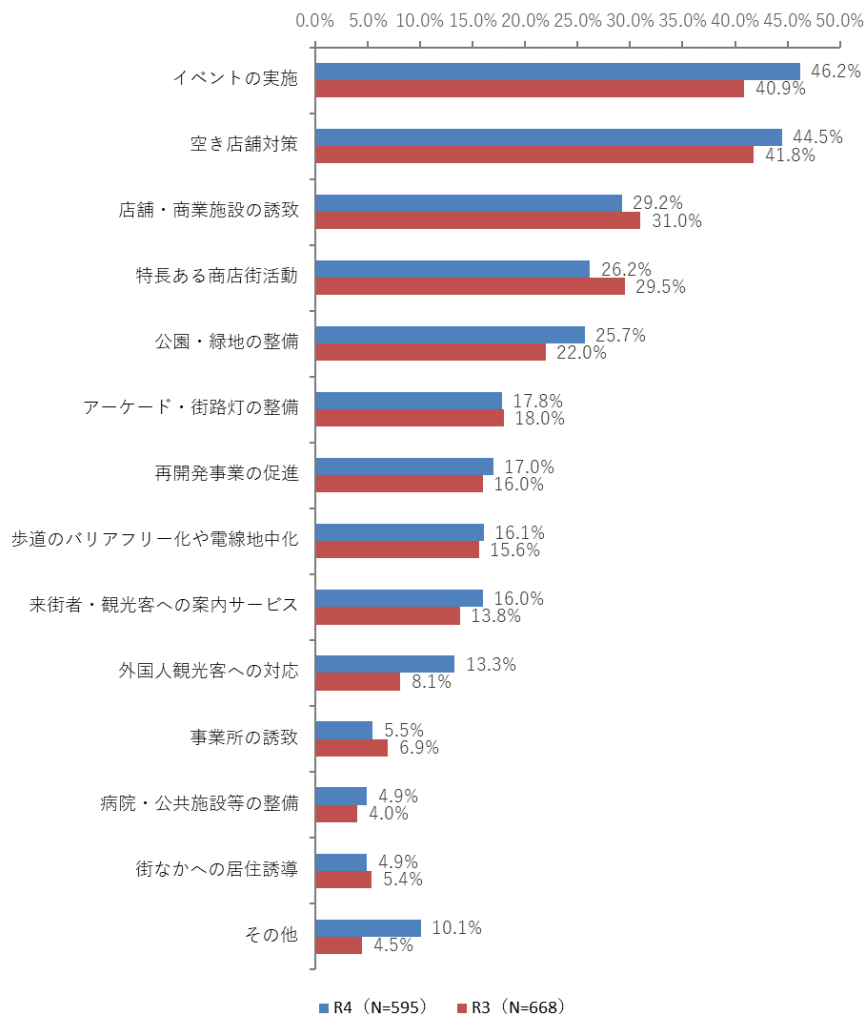
※（ ）内は回答件数に占める割合

➤中心市街地全体

- ① なし 41.5%
- ② 交通の便が悪い 13.8%
- ③ 魅力ある個店がない 11.4%
- あちこち行くところがない 11.4%

16. 中心市街地活性化に必要な取組（上位3項目）

- ① イベントの実施 46.2%
- ② 空き店舗対策 44.5%
- ③ 店舗・商業施設の誘致 29.2%



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

17. この1年間で変わったと思うこと、印象に残ったこと

(全体の傾向)

- ・市内各地の再開発に伴い、にぎわいが生まれ、まちに活気が出ているといった意見が多くあった一方、魅力的な店が少ない、駐車場が少ないといった意見のほか、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により空き店舗が増えているといった意見等も挙げられた。
- ・市内の再開発が一段落しつつある中、今後は各地区の一体感や回遊性向上を期待する声も挙げられた。

(いづろ・天文館地区)

- ・センテラス天文館の開業や各施設のイベント開催により、来街者が増え、まちににぎわいが戻りつつあるといった意見がある一方、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により空き店舗が増えているといった意見もみられた。

(鹿児島中央駅地区)

- ・Li-Ka1920 開業により、周辺施設も含めて来街者が増え、地区全体が活性化されているといった意見や、鹿児島中央駅周辺のペDESTリアンデッキが整備されたことで便利になったとの意見などがみられた。

(上町・ウォーターフロント地区)

- ・鹿児島駅周辺整備できれいになったなどプラスの意見がみられた。

【自由回答（主な意見）】

- ・地区毎及び地区を限定しない主な意見が以下の通り寄せられた。

いづろ・天文館地区

●人・往来に関する変化

- ・外国人だけでなく日本人の観光も増えた、若い方が増えた、センテラス天文館が開業して人が増えた 等

●商業施設・商店街に関する変化

- ・センテラス天文館の開業、天文館図書館の開設、店の数が増えて魅力的に感じる機会が増えた、マルヤガーデンズが魅力的になった、家族・こども連れが増えた、何でも手に入る、県外にある店舗やホテルが増えた。
- ・裏通りはごちゃごちゃしていて治安が良いとは言えない、センテラス天文館の店舗に魅力がない、旧タカプラのほうが若い人が多かった、個人商店があった頃の魅力がなくなった、ランチを食べたいお店がない、空き店舗が増えている 等

●土地・施設整備に関する変化

- ・天文館図書館が良い。

●イベントに関する変化

- ・イベントを頑張っている、センテラス天文館のスクエア広場でのイベント、新しい商業施設が増えてイベントが増えた、歩行者天国、山形屋の北海道物産展が集客している 等

鹿児島中央駅地区

●商業施設・商店街に関する変化

- ・Li-Ka1920 ができて街が活性化した、屋台村の復活、アミュプラザが魅力的、アミュプラザが充実している。
- ・店舗に魅力がない 等

●土地・施設整備に関する変化

- ・中央駅のペデストリアンデッキが整備された、Li-Ka1920 ができて街がきれいになった、Li-Ka1920 前の歩道が整備されて便利になった、中央駅から商店街への行き来がしやすくなった、西口の新しいビルができた 等

上町・ウォーターフロント地区

●商業施設・商店街に関する変化

- ・鹿児島駅から市役所周辺に飲食店が少ない、ドルフィンポートがなくなって残念。

●土地・施設整備に関する変化

- ・鹿児島駅が新しくなった、かんまちあ付近の環境が良くなった。

●街並み・景観に関する変化

- ・鹿児島駅がモダンになった、鹿児島駅周辺がきれいになった。

●交通に関する変化

- ・かんまちあの駐車場代が高い。

●その他の意見

- ・桜島を眺められるウォーターフロントパークは落ち着ける場として残してほしい。

地区を特定しない意見

●人・往来に関する変化

- ・店舗の増減に伴い人の多さが変わってきた、往来する人が増えた、商業施設に人が増えた、コロナ禍より人が増えた、再開発が進んで人が増えた。
- ・人が減っている。外国人観光客の減少。少子高齢化とコロナの影響により若い方の姿が減った 等

●商業施設・商店街に関する変化

- ・街がにぎやかになった、商業施設が増えている、再開発のおかげできれいな街の雰囲気が出ている、買い物がしやすくなった、洋服店が増えた、コンビニが増えた、飲食店の活気を感じる、有名店や鹿児島初出店のお店が増えた。
- ・空き店舗が増えた、シャッター街が目立つ、子供を連れて行きにくい、店舗の種類が減った、同じ店舗や同系統の店舗が多く偏りがある、郊外に商業施設が乱立しすぎ、魅力的なお店が少ない、新しいビルは増えたが面白みがない、良い施設はできたが中の店舗の個性がない。
- ・店がよく変わる、若者向けの店が良くも悪くも増えている、大型商業施設が増えた 等

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

●土地・施設整備に関する変化

- ・新しい建物が増えた、道路の整備が進んだ、点としての開発から面としての開発へ繋がることを期待、公園が増えた 等

●にぎわい全般に関する変化

- ・飲食店に活気が無くなってきた、コロナで活気がなくなった 等

●街並み・景観に関する変化

- ・交通局跡地と市立病院跡地の開発は素晴らしい、川がきれいになった、街がきれい、百貨店や路面電車など近代を感じさせるようなきれいな街並み、都会にあるようなセンスが建物にみられる。

●交通に関する変化

- ・バスの運行本数の減少、タクシーの台数が少なくなった、駐車場がない、駐車場が狭い、公共交通機関が不便 等

●その他の意見

- ・飲み屋街が多くてランチを探すのは大変、車道の白線が不鮮明、若い人の元気がない、新しい店舗が増えたが案内が少なく分かりにくい、夜の暴走族が増えた、コロナの影響が続いている。
- ・大型店と個店の共存が必要、天文館と中央駅で二極化した、商業施設の分散化、県外からの人の流れ、人が親切で温かい、これからの期待、中央駅～高見馬場～天文館～いづろ～ウォーターフロント地区の一体感・回遊性を高めてほしい 等

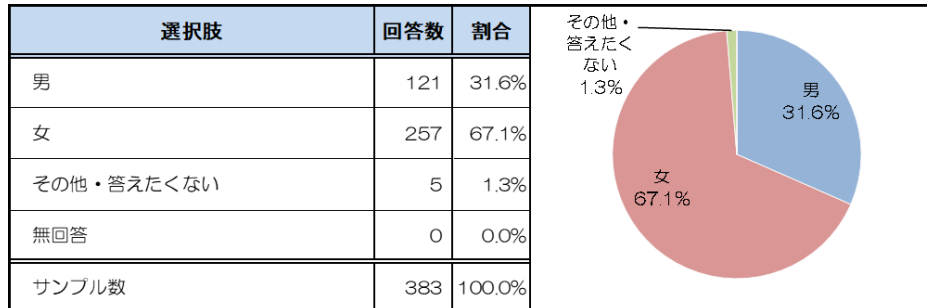
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

(2) まちかどコメンテーターアンケート調査

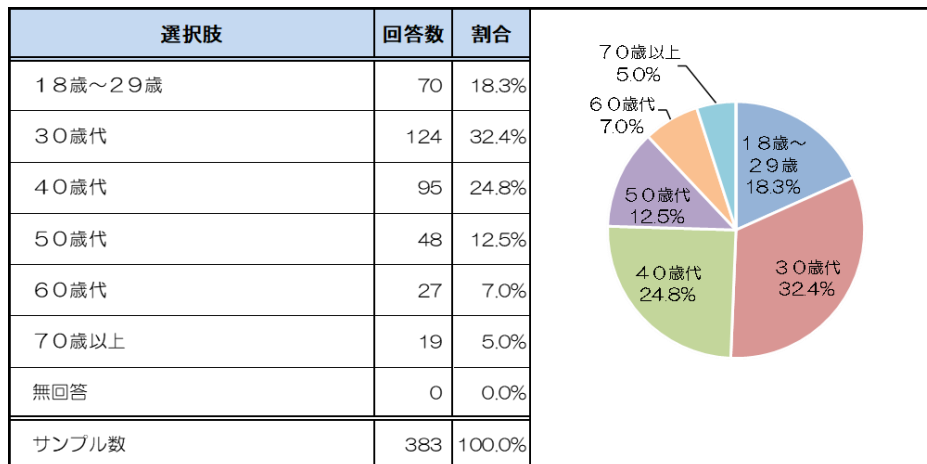
【調査概要】

- 調査期間：令和5年6月5日（月）～6月23日（金）
- 調査方法：下記対象者への送付調査
- 対象者：市内に住むか通勤・通学する18歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民2,500人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方
- サンプル数：383人

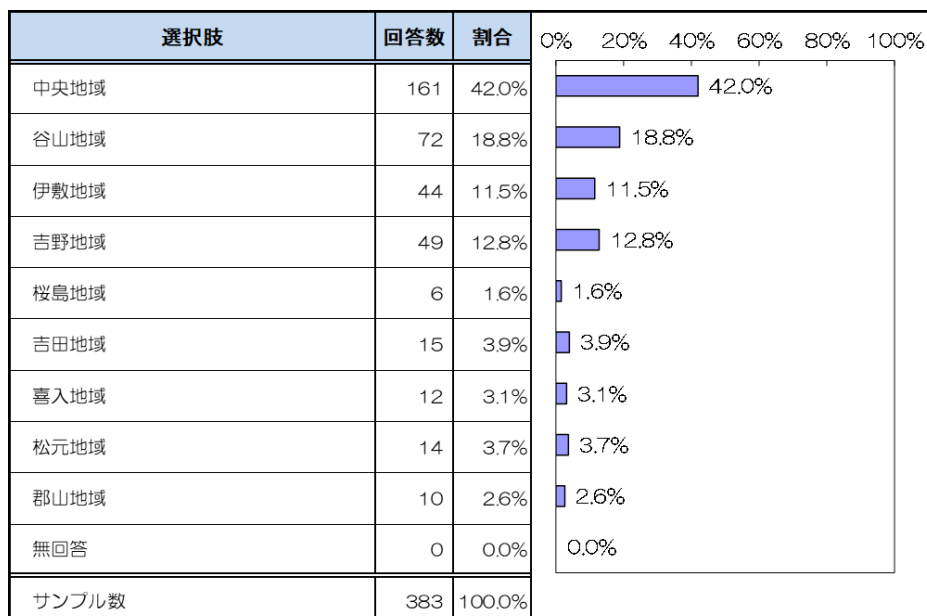
【性別】



【年代】



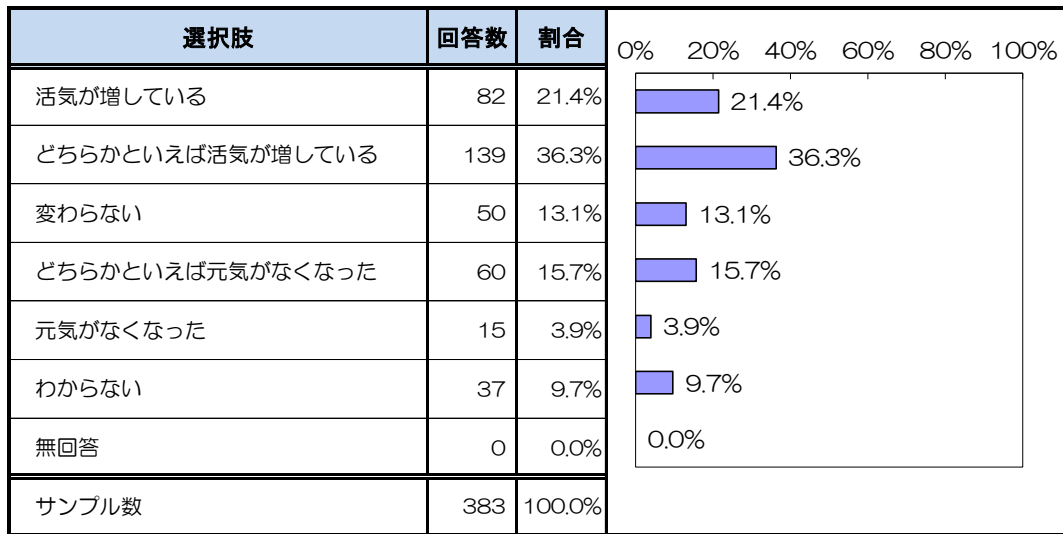
【居住地域】



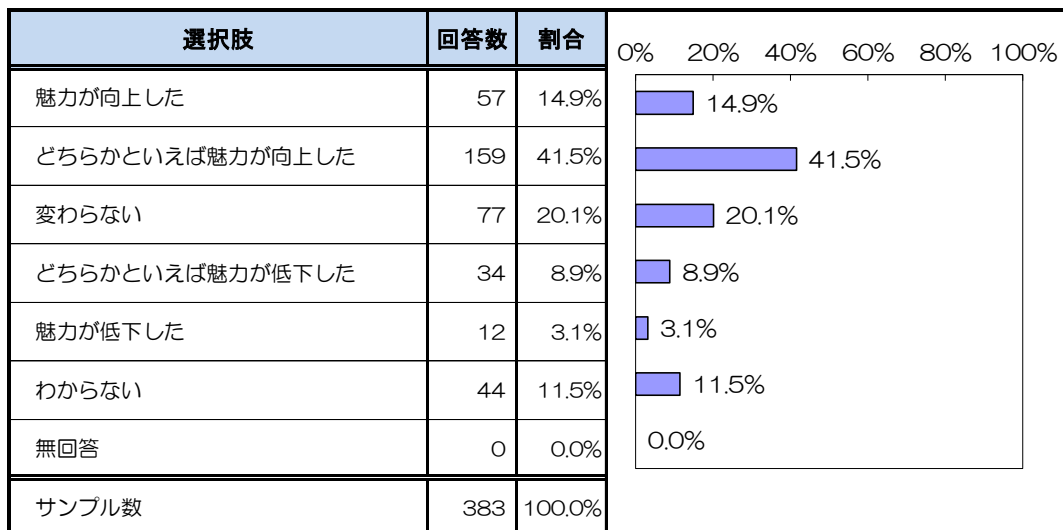
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

【調査結果】

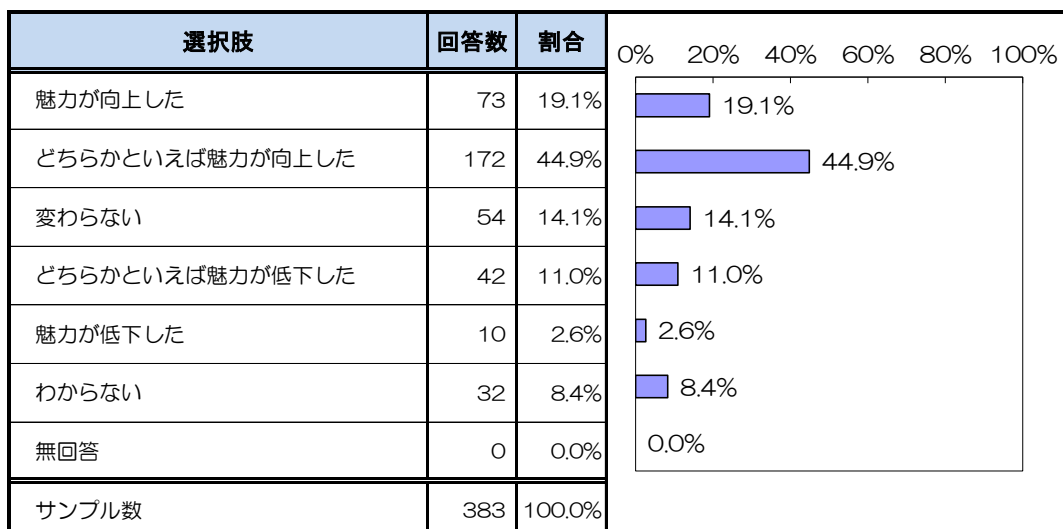
1. 中心市街地のにぎわい（人通りや活気）は、5年前と比べてどうなったと思いますか。



2. 中心市街地の観光面（観光施設、観光イベント、おもてなし等）での魅力は、5年前と比べてどうなったと思いますか。

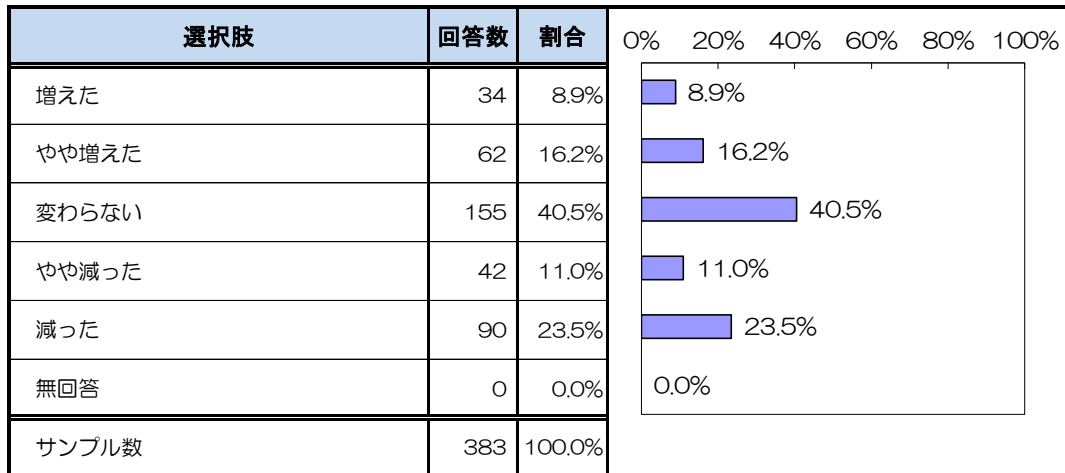


3. 中心市街地の商業面（商業施設、商店街イベント等）での魅力は、5年前と比べてどうなったと思いますか。

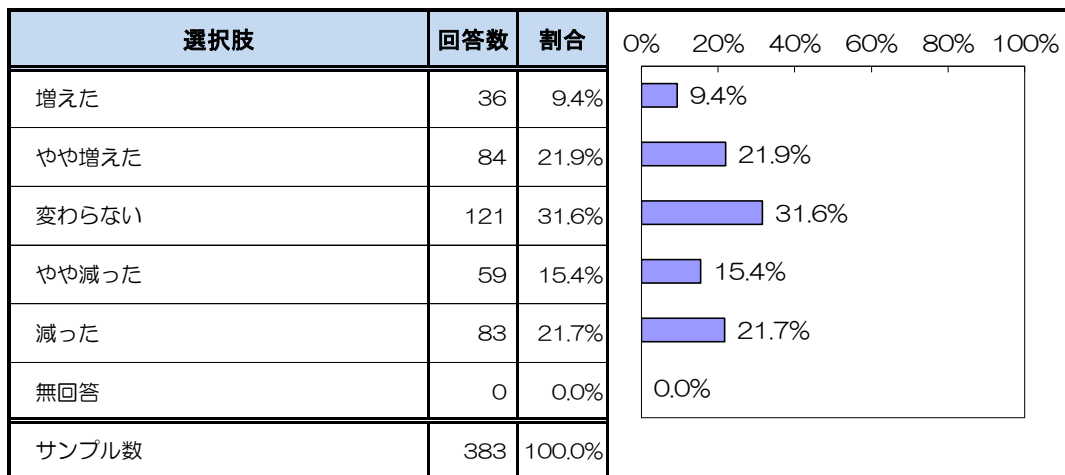


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

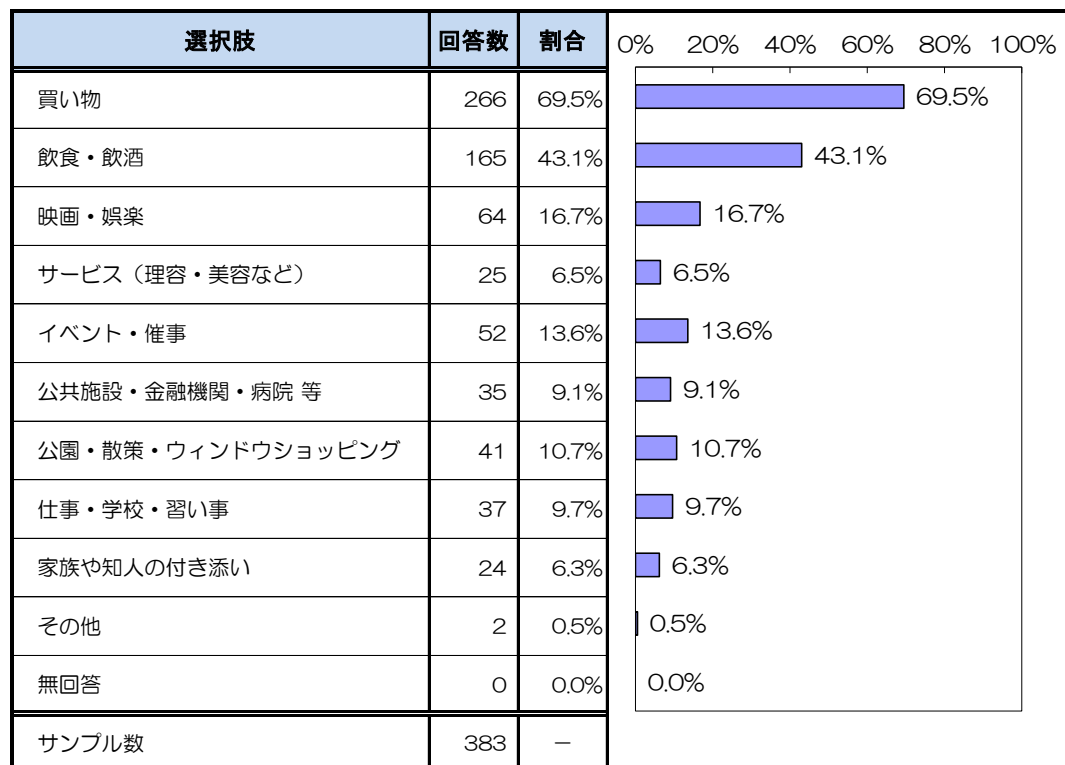
4. 平日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。



5. 休日に、中心市街地に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。

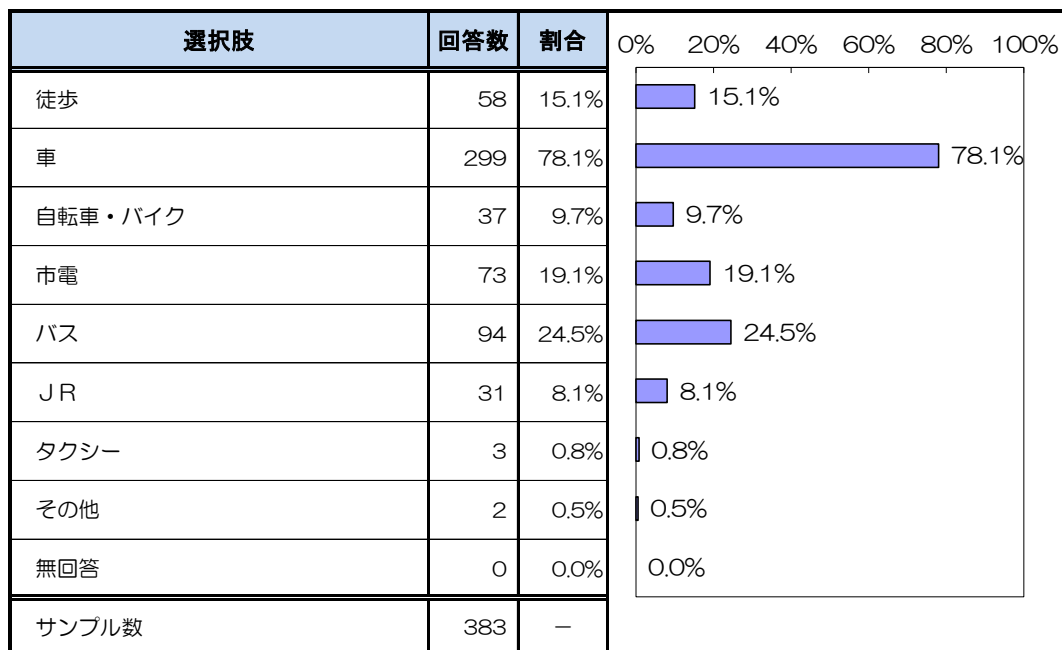


6. 中心市街地に出かける際の主な目的を教えてください。(2つまで)

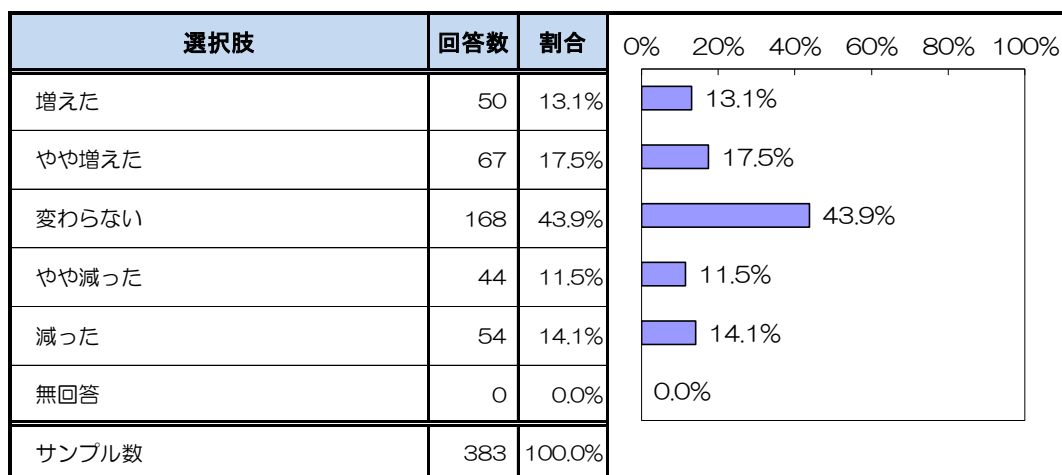


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

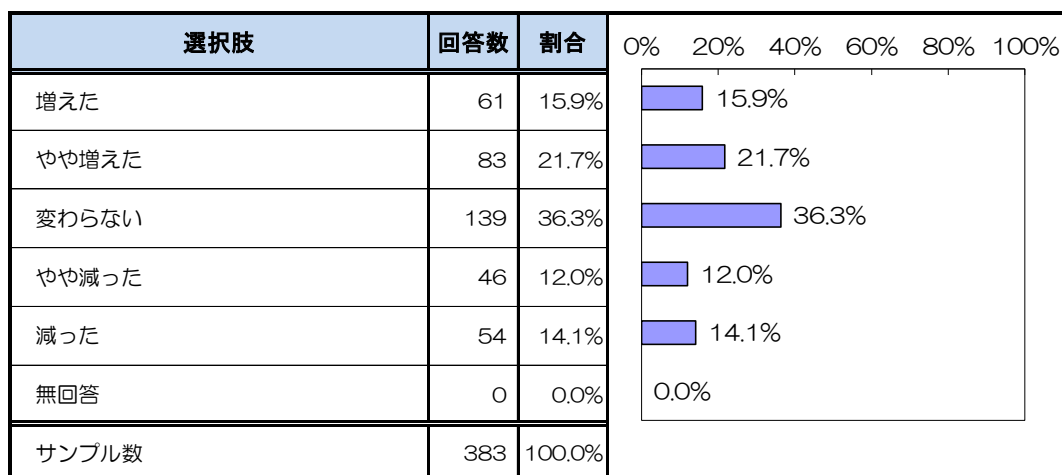
7. 中心市街地に出かける際の主な交通手段を教えてください。(2つまで)



8. 平日に、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。

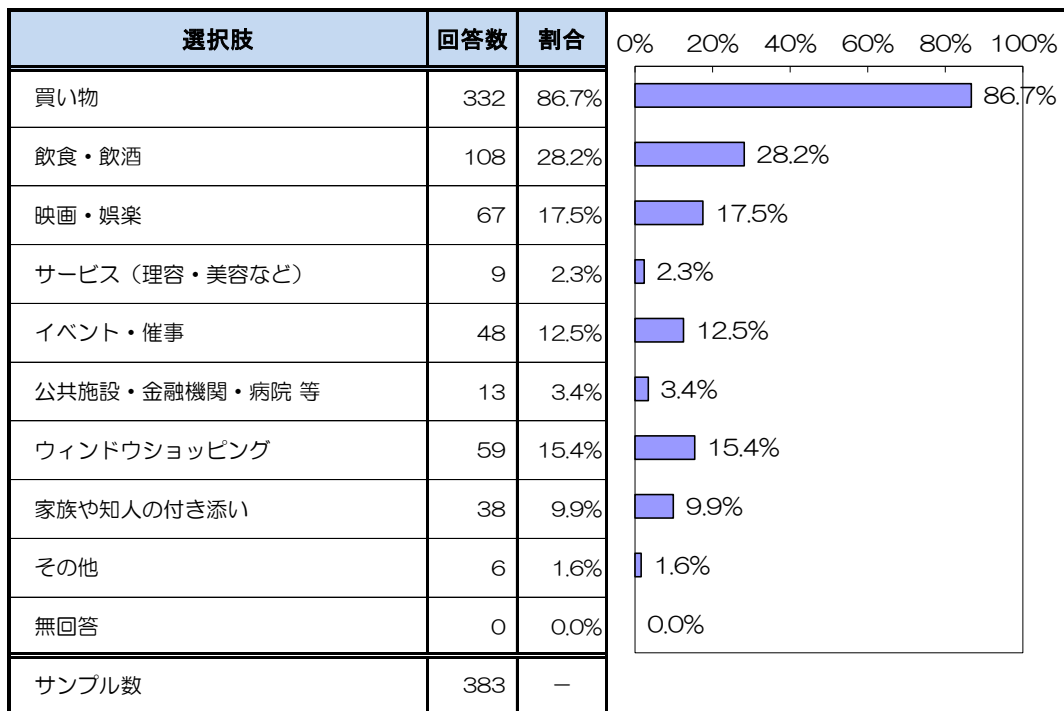


9. 休日に、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、5年前と比べてどうなりましたか。

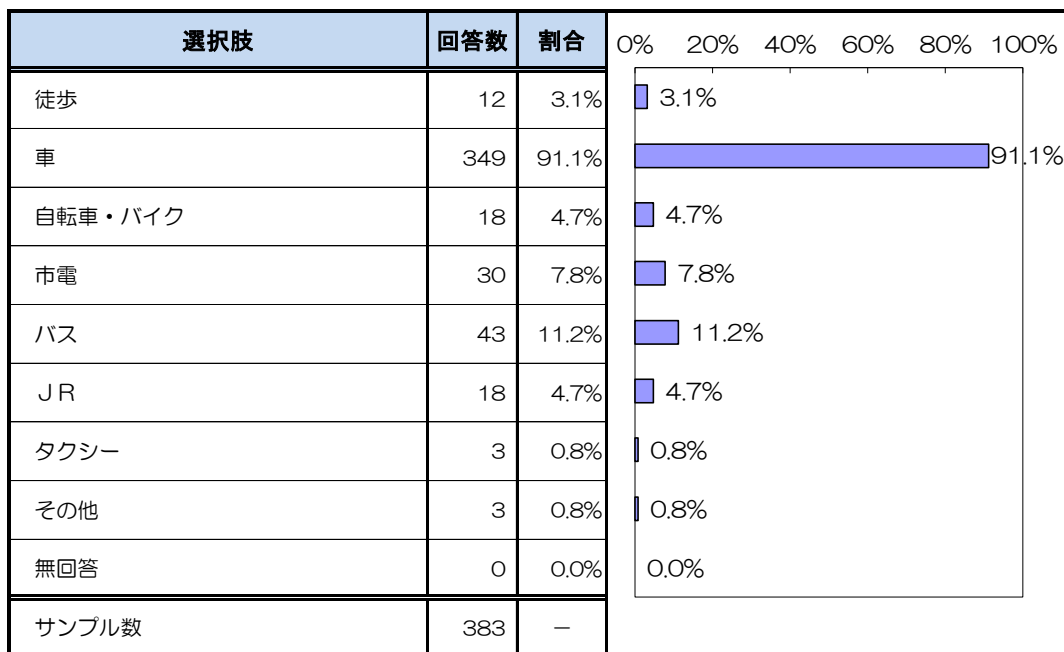


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

10. 中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける際の主な目的を教えてください。(2つまで)

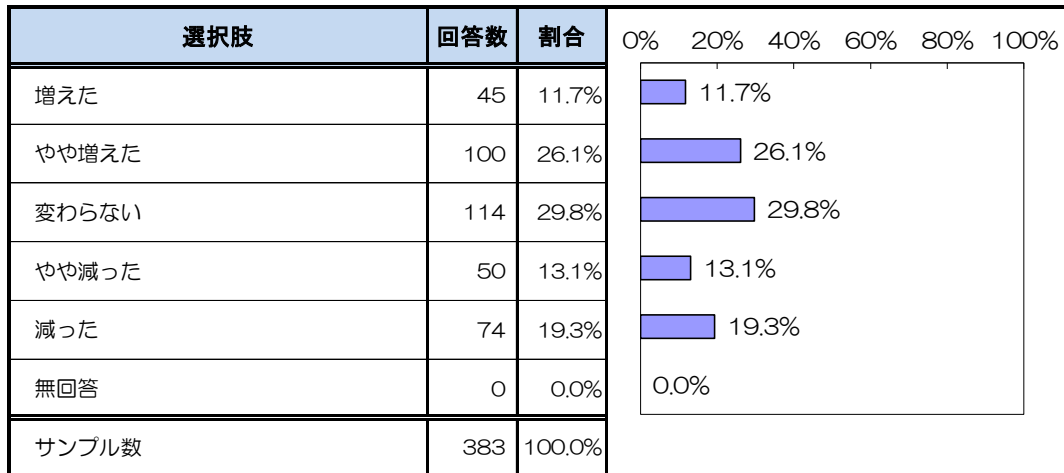


11. 中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける際の主な交通手段を教えてください。(2つまで)



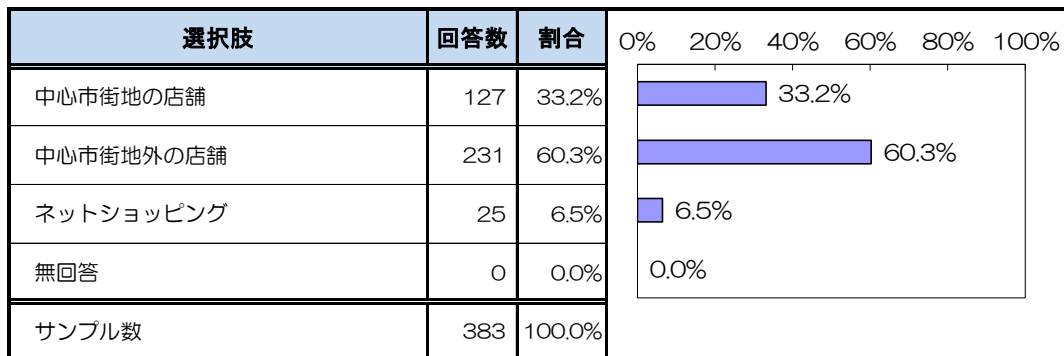
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

12. 中心市街地での消費額は、5年前と比べてどうなりましたか。

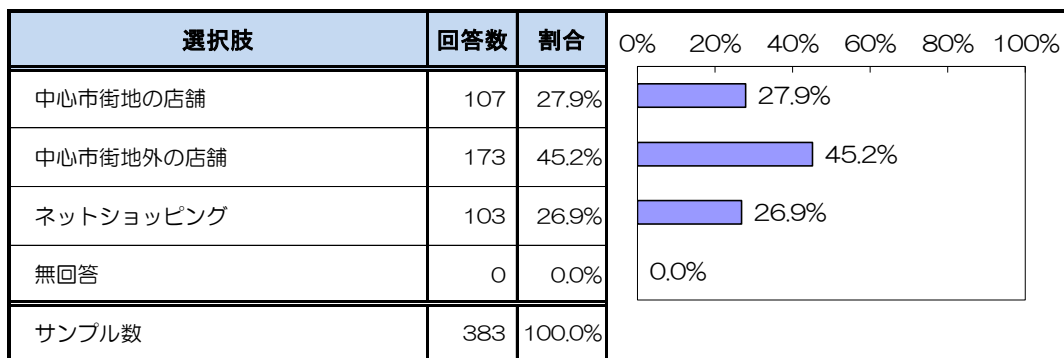


13. 買い物の主な手段を教えてください。

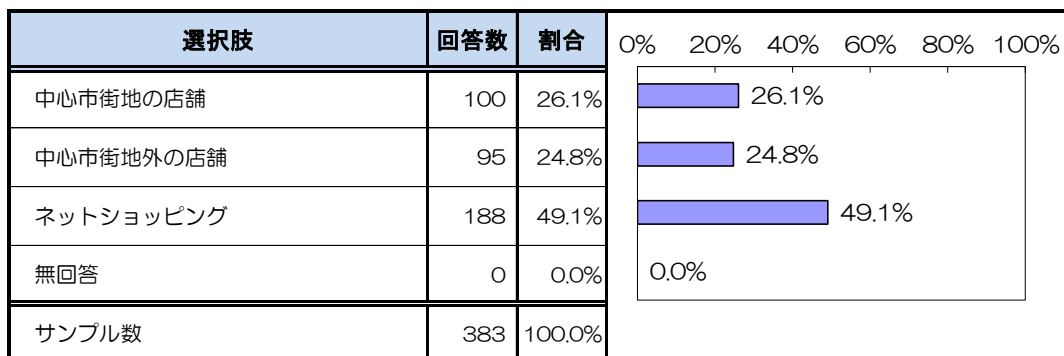
13. 1) 食品、飲料、酒類の購入



13. 2) 生活家電、AV機器、PC・周辺機器等の購入

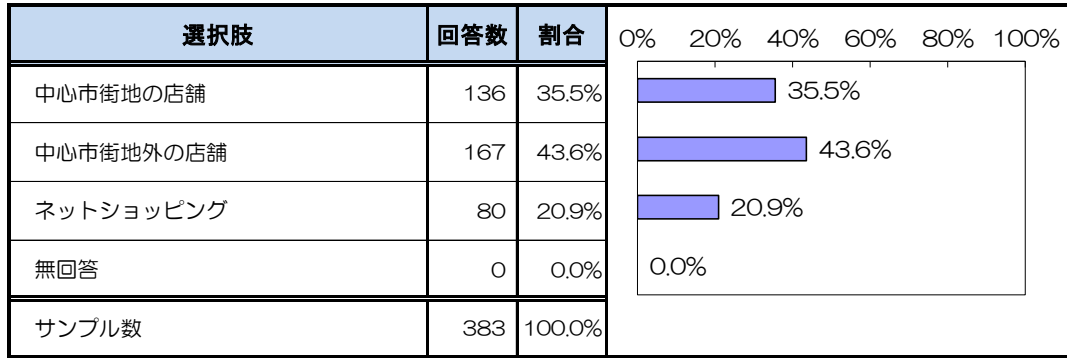


13. 3) 書籍、映像・音楽ソフトの購入

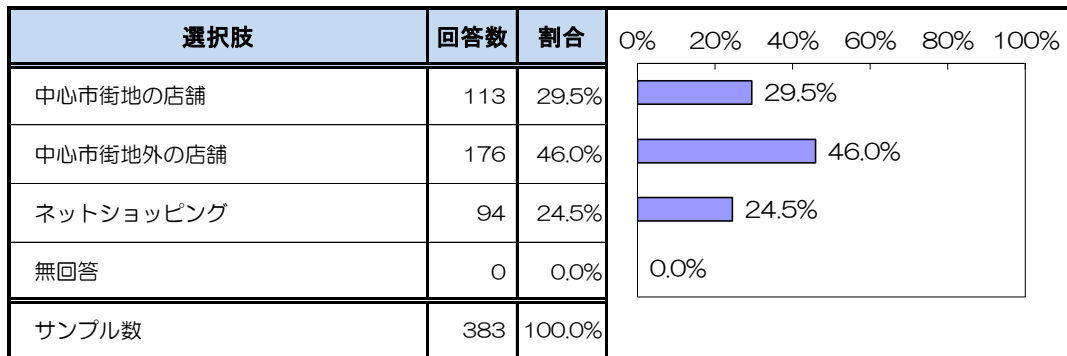


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

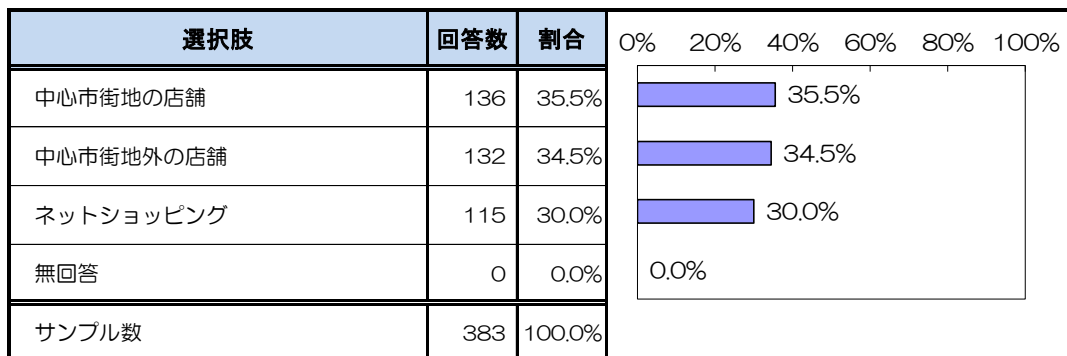
13. 4) 化粧品、医薬品の購入



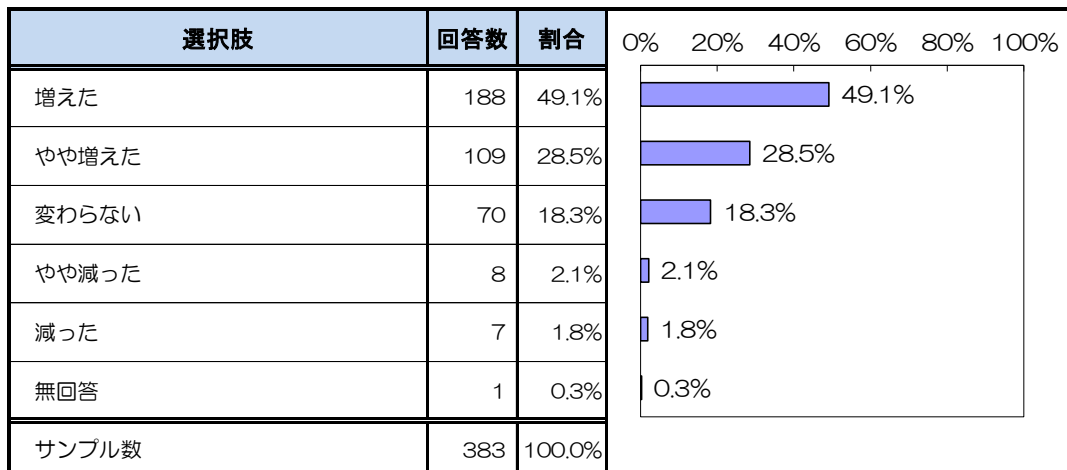
13. 5) 生活雑貨、家具、インテリアの購入



13. 6) 衣類・服装雑貨等の購入

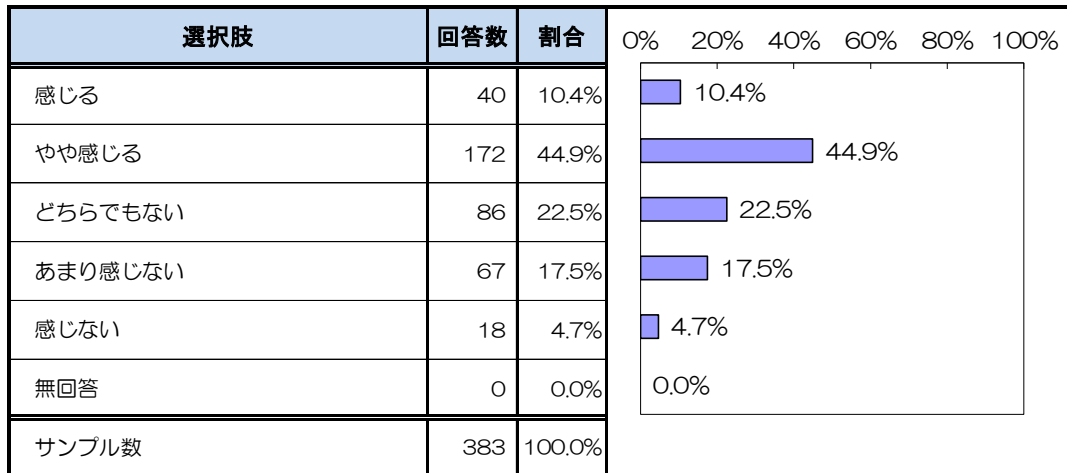


14. ネットショッピングによる購入額は、5年前と比べてどうなりましたか。



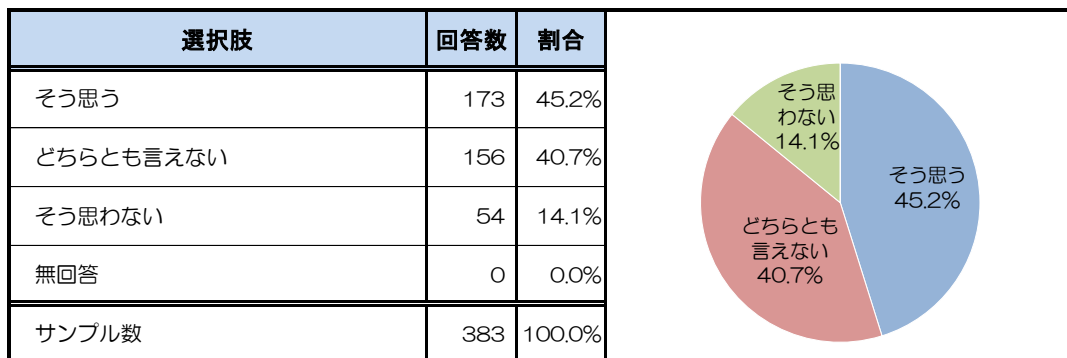
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

15. 現在の中心市街地に魅力を感じますか。

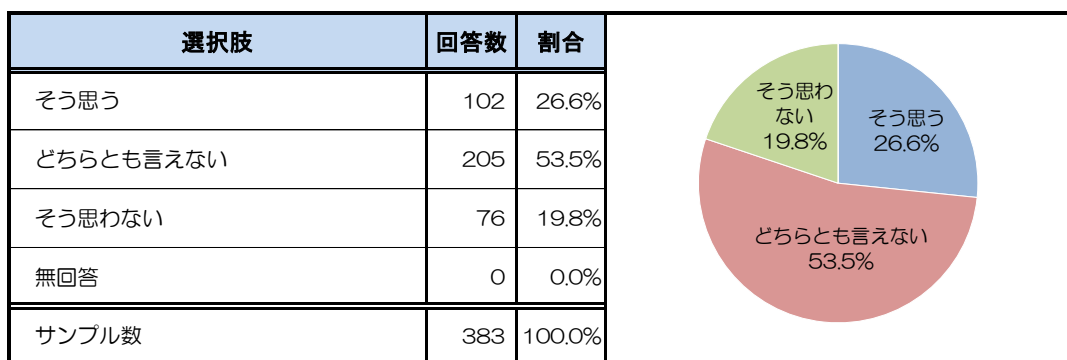


16. 現在の中心市街地について、どのような印象を持っていますか。

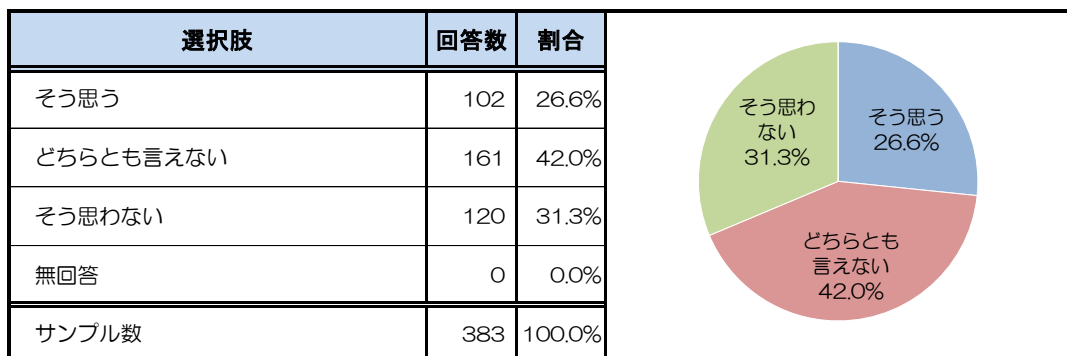
16. 1) 魅力のある店舗や飲食店が多い



16. 2) イベントやお祭りが充実している

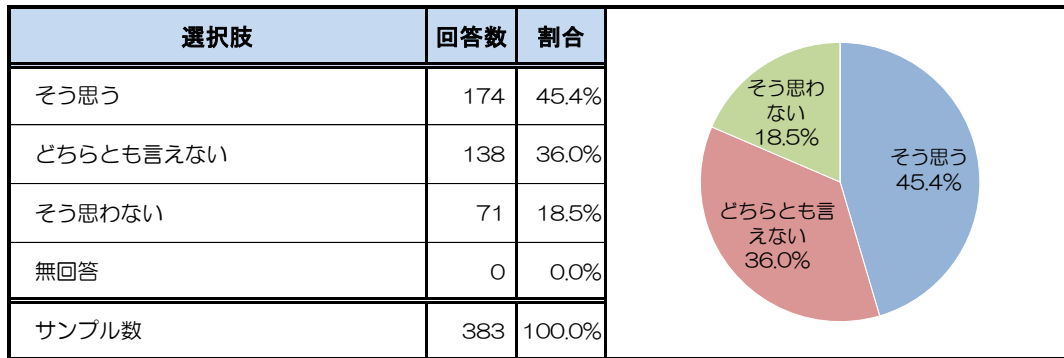


16. 3) 観光客が楽しめる施設や場所が多い

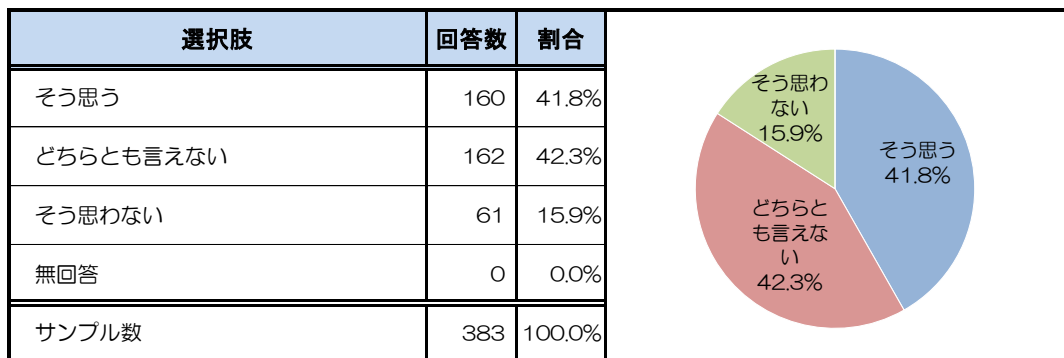


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

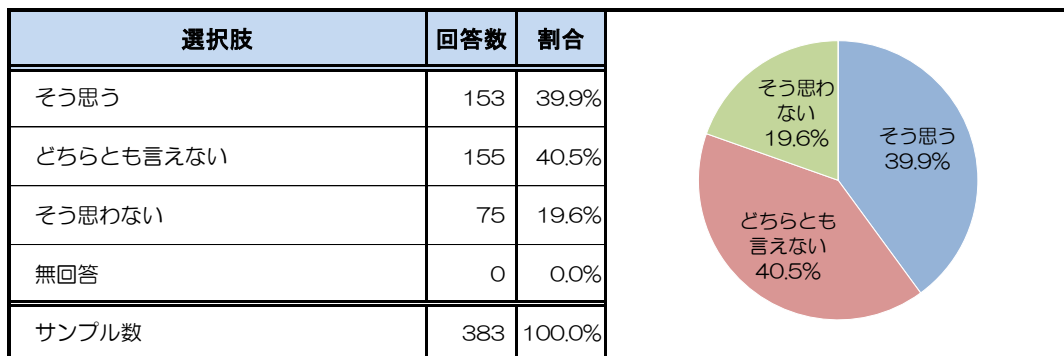
16. 4) 歴史や文化を感じられる



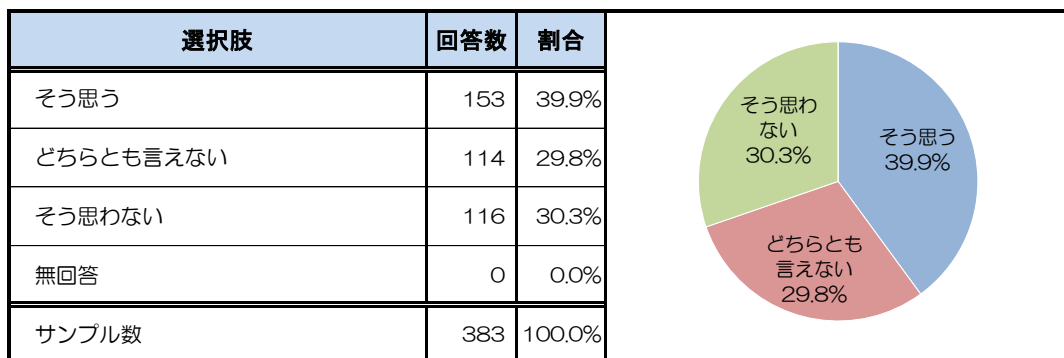
16. 5) 街並みや景観が美しい



16. 6) 憩いの場や花・緑が豊か

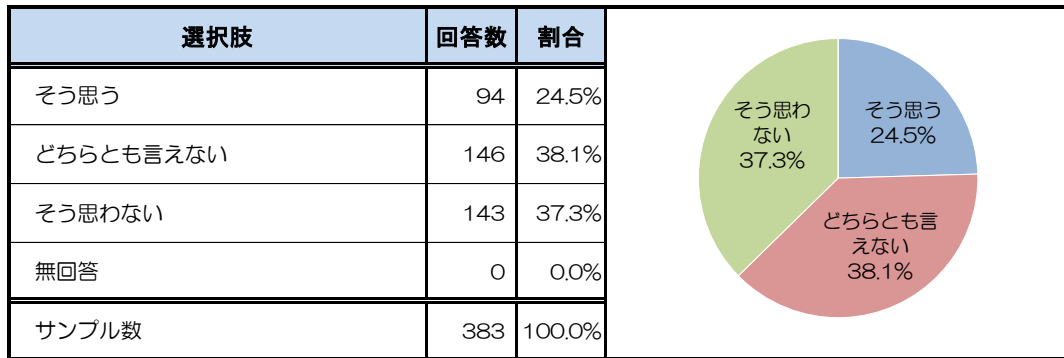


16. 7) 住んでみたい（住み続けたい）

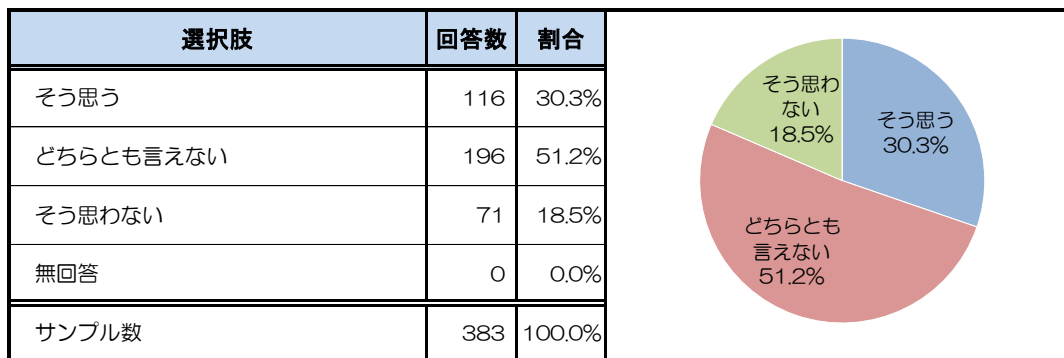


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

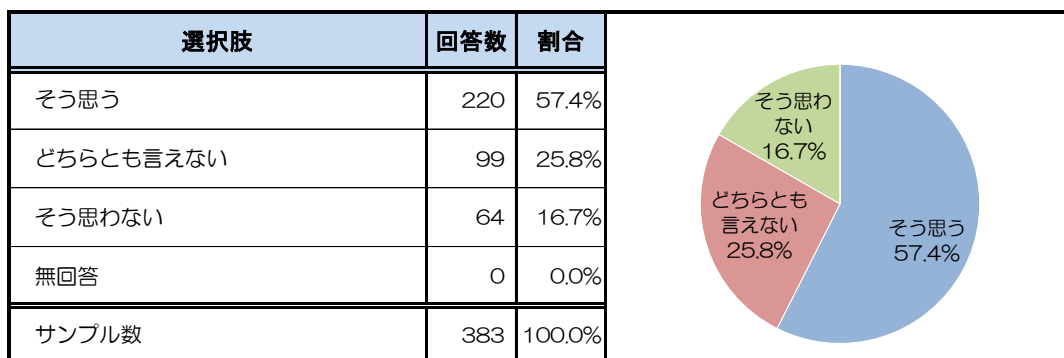
16. 8) 娯楽やスポーツが楽しめる



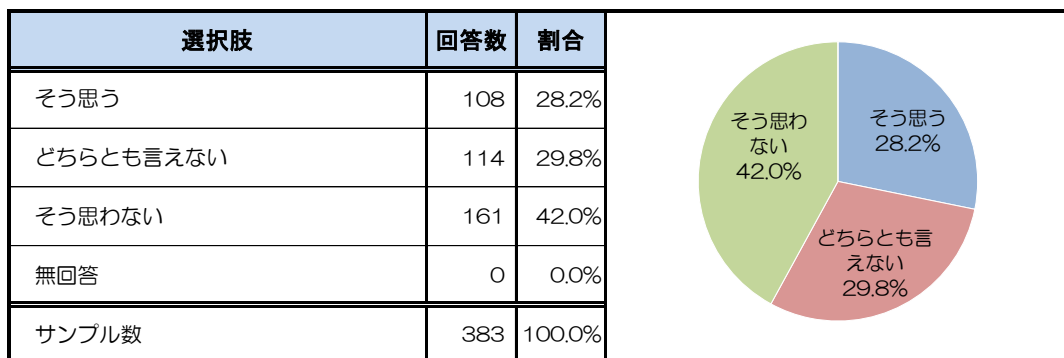
16. 9) 雇用の場が充実している



16. 10) 公共交通機関の利便性が高い

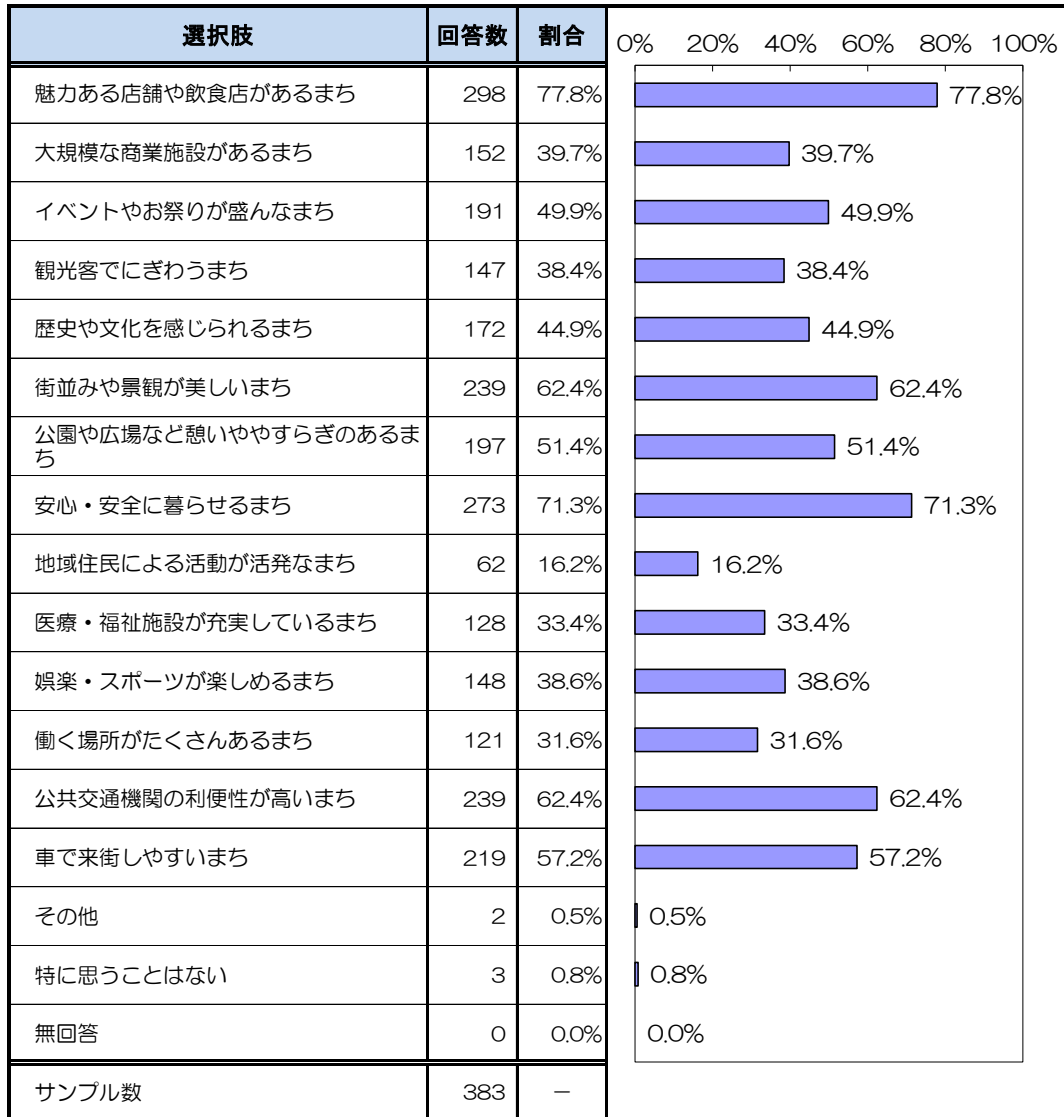


16. 11) 車で来街しやすい



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

17. 中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますか。



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

➤調査結果より

5年前と比べて、「中心市街地の活気が増している・どちらかといえば増している」と答えた人が半数を超えた（57.7%）ほか、観光面・商業面で「魅力が向上した・どちらかといえば向上した」と回答された方も同様の傾向（各 56.4%、64.0%）にあり、さらに、現在の中心市街地に対して「魅力を感じる・やや感じる」と答えた人も半数を超えた（55.3%）ことから、活性化の取組については一定の評価をいただいていることが分かった。

中心市街地に出かける回数は、平日・休日共に「減った」と「やや減った」の合計（平日 34.5%、休日 37.1%）が「増えた」と「やや増えた」の合計（平日 25.1%、休日 31.3%）を上回った一方、中心市街地外の大型店・ショッピングセンター等に出かける回数は、平日・休日共に「増えた」と「やや増えた」の合計（平日 30.6%、休日 37.6%）が「減った」と「やや減った」の合計（平日 25.6%、休日 26.1%）を上回っており、5年前と比べると来街機会が減少している様子がうかがえる。

また、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等により、ネットショッピングによる購入額は、5年前と比べて「増えた・やや増えた」と答えた人が大幅に増加（77.6%）しており、消費行動に大きな変化がみられた。

中心市街地に出かける際の主な交通手段は、車が約 8 割（78.1%）を占め、公共交通機関での来街は少ない状況（市電 19.1%、バス 24.5%、JR 8.1%、タクシー 0.8%）となっており、自由意見では、駐車場が不足している・駐車料金が高等などの声が寄せられた。

中心市街地はどんなまちであってほしいと思いますかという問いでは、「魅力ある店舗や飲食店があるまち」と答えた人が 77.8%と最も多かったものの、「魅力ある店舗や飲食店が多い」と答えた方は 45.2%となっており、中心市街地では魅力ある商業・サービス業のさらなる活性化に取り組む必要があることが分かった。

(3) ① 令和5年度鹿児島市中心市街地来街者の新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する街頭ヒアリング調査

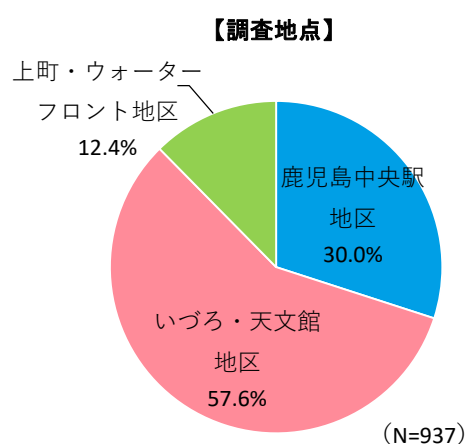
【調査概要】

- 調査日：令和5年6月2日（金）、11日（日）の2日間
- 調査時間：10時30分～16時00分の5.5時間
- 調査地点：いづろ・天文館地区（8地点）、鹿児島中央駅地区（4地点）、上町・ウォーターフロント地区（2地点）の計14地点
- 調査方法：街頭での聞き取り調査
- 対象者：高校生以上の来街者（観光客を含む。）
- サンプル数：937件

【調査結果】

1. 調査地点

- ① いづろ・天文館地区 57.6%
- ② 鹿児島中央駅地区 30.0%
- ③ 上町・ウォーターフロント地区 12.4%

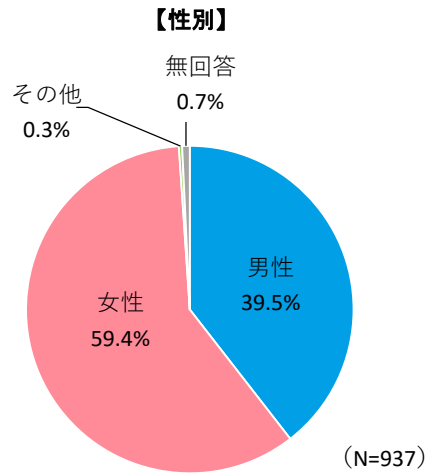


No.	調査地点	件数	(全体)%
1	AMU広場～中央郵便局	75	8.0
2	Li-Ka1920	69	7.4
3	鹿児島中央駅東口	64	6.8
4	AMU WE～鹿児島中央駅西口	73	7.8
5	天文館図書館前	46	4.9
6	センテラス天文館	80	8.5
7	地藏角界限	55	5.9
8	ぴらもーる	89	9.5
9	丸善～かご市	64	6.8
10	いづろ通り	63	6.7
11	マルヤガーデンズ前	80	8.5
12	山形屋前	63	6.7
13	桜島フェリーターミナル・水族館	67	7.2
14	鹿児島駅	49	5.2
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	937	100

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

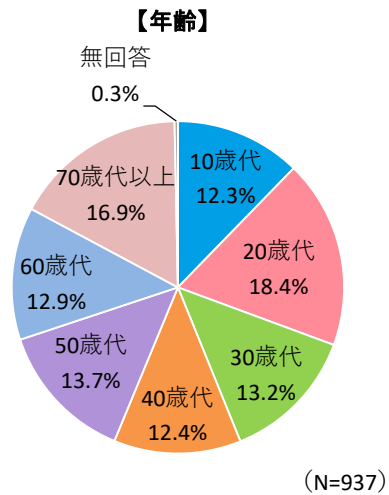
2. 性別

男性 39.5%、女性 59.4%、その他 0.3%



3. 年齢

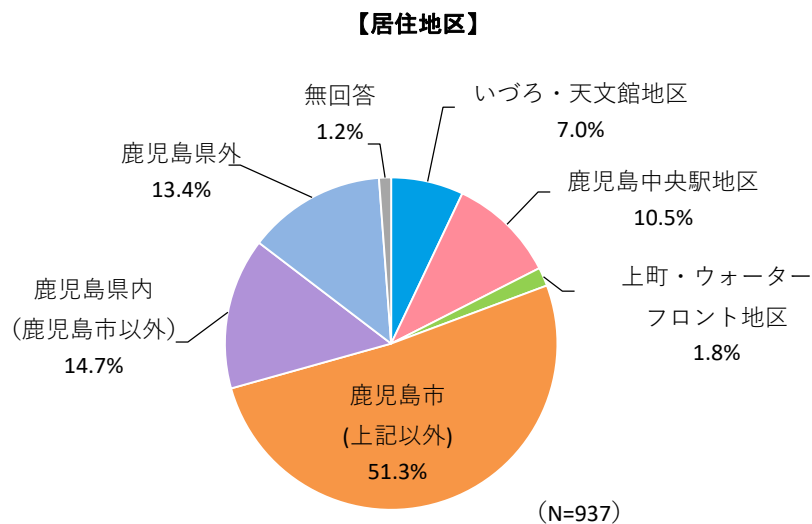
① 10歳代	12.3%
② 20歳代	18.4%
③ 30歳代	13.2%
④ 40歳代	12.4%
⑤ 50歳代	13.7%
⑥ 60歳代	12.9%
⑦ 70歳代以上	16.9%



4. 居住地区

市内 70.6%、県内 14.7%、県外 13.4%

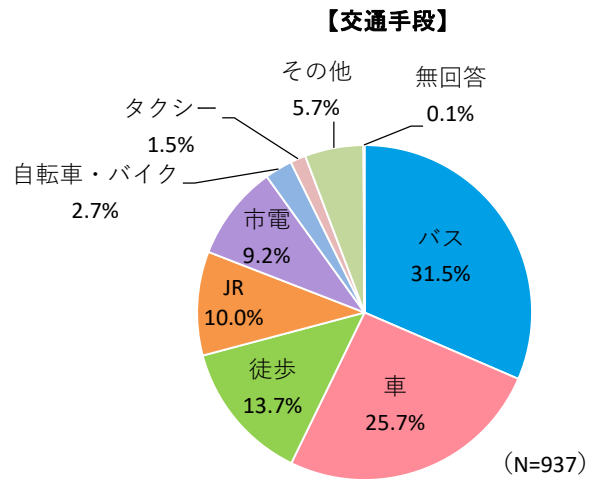
(市内のうち、中心市街地が 19.3%、中心市街地以外が 51.3%)



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

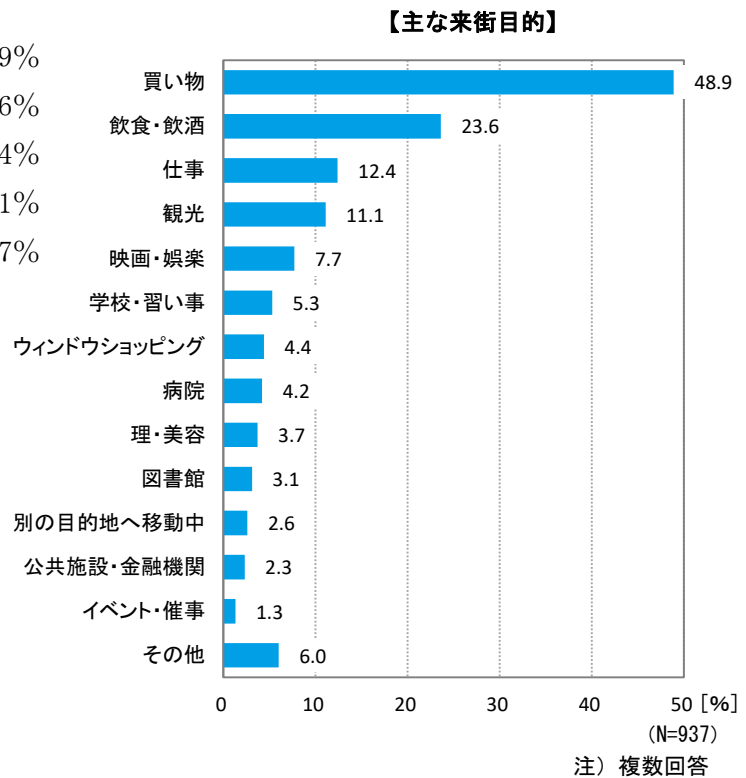
5. 交通手段

① バス	31.5%
② 車	25.7%
③ 徒歩	13.7%
④ JR	10.0%
⑤ 市電	9.2%
⑥ 自転車・バイク	2.7%
⑦ タクシー	1.5%



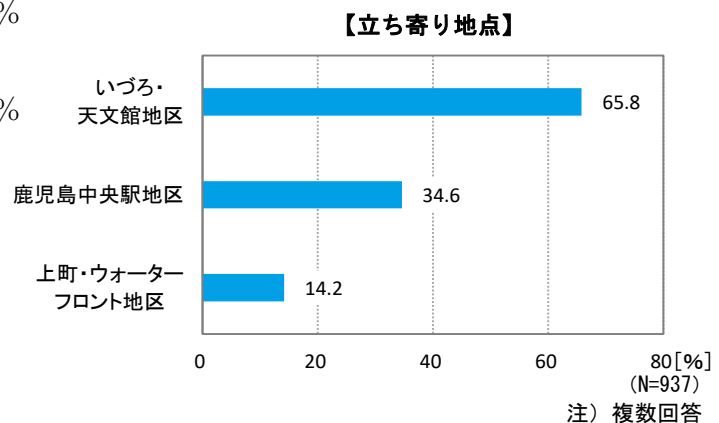
6. 主な来街目的 (上位5項目)

① 買い物	48.9%
② 飲食・飲酒	23.6%
③ 仕事	12.4%
④ 観光	11.1%
⑤ 映画・娯楽	7.7%



7. 立ち寄り地点

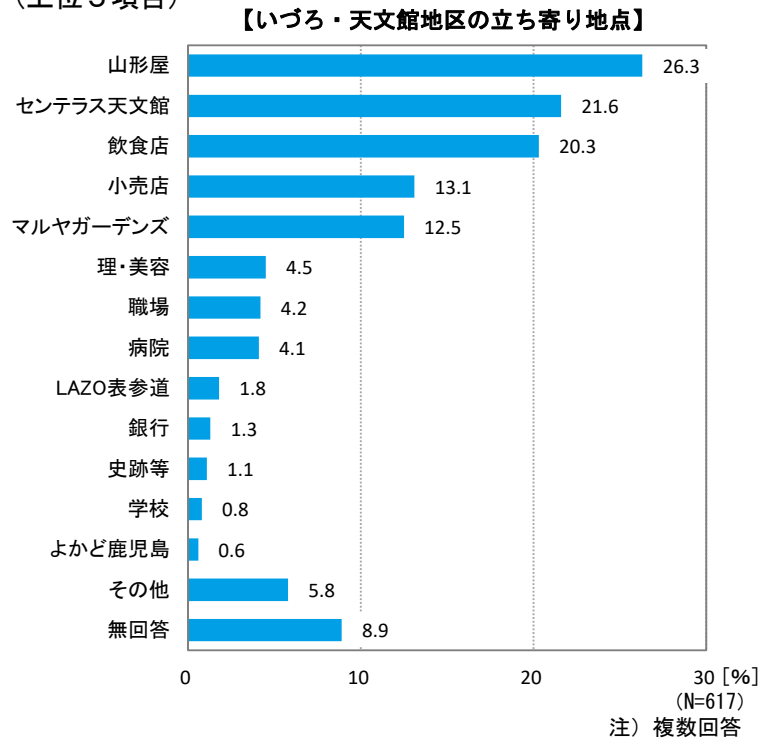
① いづろ・天文館地区	65.8%
② 鹿児島中央駅地区	34.6%
③ 上町・ウォーター フロント地区	14.2%



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

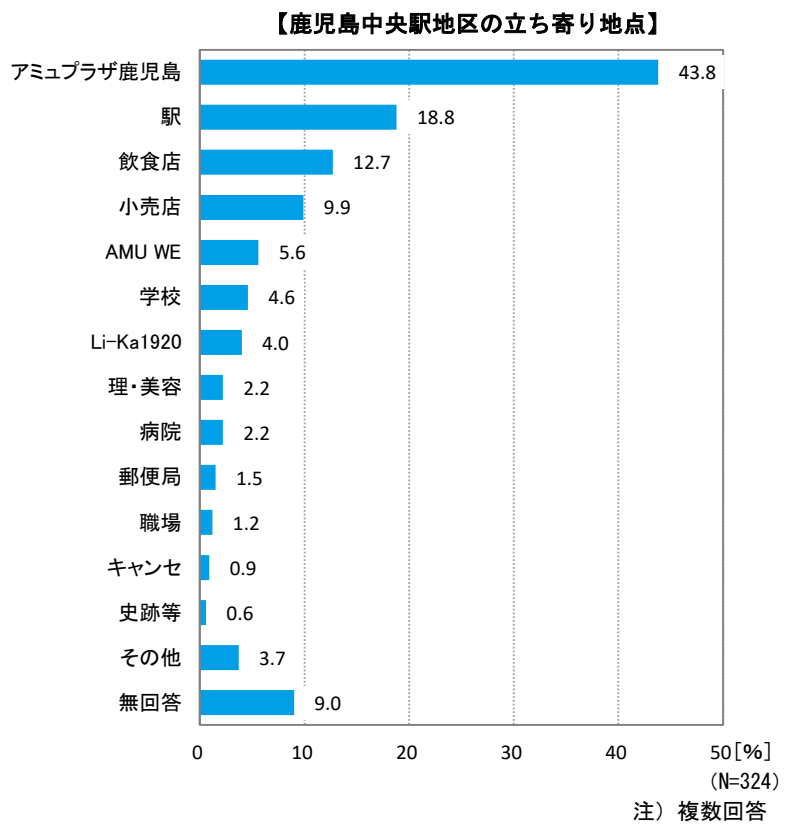
8. いづろ・天文館地区の立ち寄り地点（上位5項目）

- ① 山形屋 26.3%
- ② センテラス天文館 21.6%
- ③ 飲食店 20.3%
- ④ 小売店 13.1%
- ⑤ マルヤガーデンズ 12.5%



9. 鹿児島中央駅地区の立ち寄り地点（上位5項目）

- ① アミュプラザ鹿児島 43.8%
- ② 駅 18.8%
- ③ 飲食店 12.7%
- ④ 小売店 9.9%
- ⑤ AMU WE 5.6%

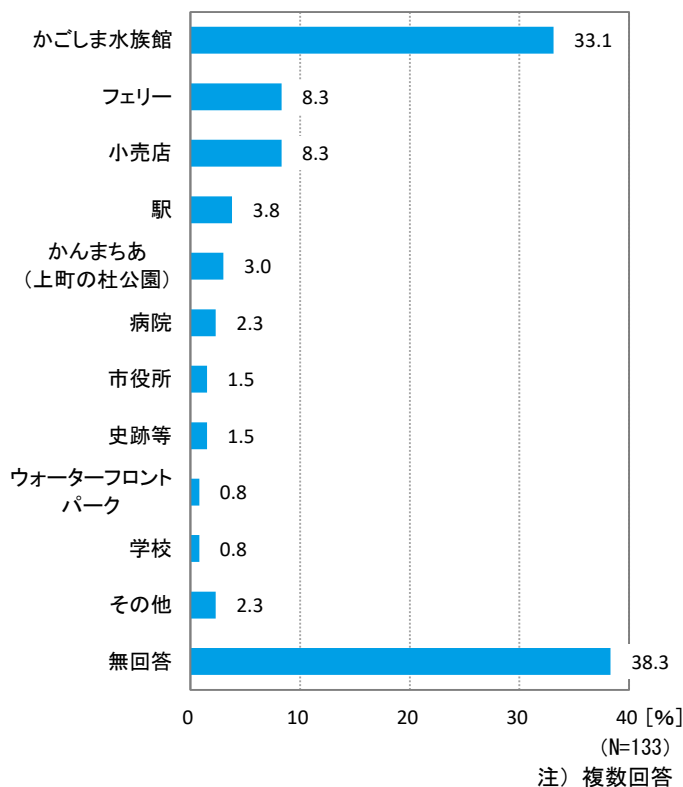


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

10. 上町・ウォーターフロント地区の立ち寄り地点（上位5項目）

- ① かがしま水族館 33.1%
- ② フェリー 8.3%
- ② 小売店 8.3%
- ④ 駅 3.8%
- ⑤ かんまちあ
(上町の杜公園) 3.0%

【上町・ウォーターフロント地区の立ち寄り地点】

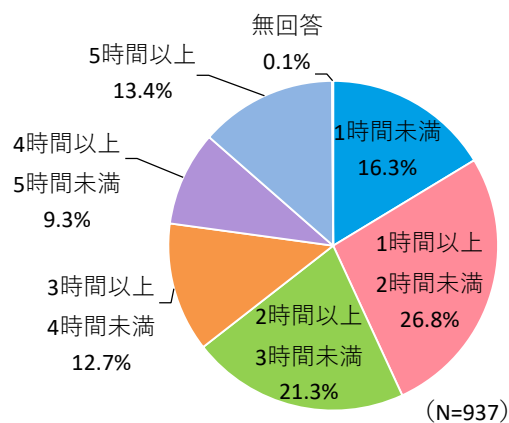


11. 中心市街地の滞在予定時間

- ① 1時間以上 2時間未満 26.8%
- ② 2時間以上 3時間未満 21.3%
- ③ 1時間未満 16.3%
- ④ 5時間以上 13.4%
- ⑤ 3時間以上 4時間未満 12.7%
- ⑥ 4時間以上 5時間未満 9.3%

平均滞在時間 2.6時間 (158分)

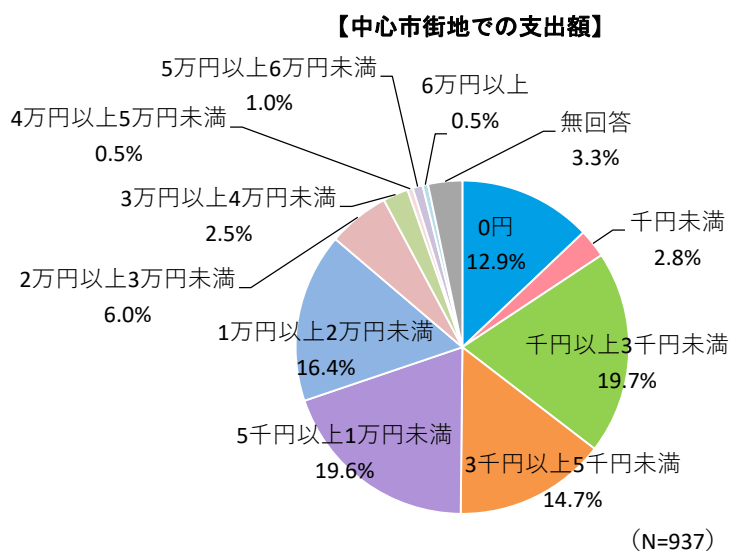
【中心市街地の滞在時間】



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

12. 中心市街地での支出額

- ① 千円以上3千円未満 19.7%
- ② 5千円以上1万円未満 19.6%
- ③ 1万円以上2万円未満 16.4%
- ④ 3千円以上5千円未満 14.7%
- ⑤ 0円 12.9%
- ⑥ 2万円以上3万円未満 6.0%
- ⑦ 千円未満 2.8%
- ⑧ 3万円以上4万円未満 2.5%
- ⑨ 5万円以上6万円未満 1.0%
- ⑩ 4万円以上5万円未満 0.5%
- ⑪ 6万円以上 0.5%



順位	来街目的	平均支出額 (円)	サンプル数 (件)
1位	買い物	9,648	448
2位	飲食・飲酒	8,634	218
3位	仕事	3,071	109
4位	観光	11,043	101
5位	映画・娯楽	5,534	71
全体平均支出額		7,086	906

【中心市街地での支出額×中心市街地の滞在時間】

(%)

		中心市街地の滞在予定時間					
		1時間未満	1時間以上～2時間未満	2時間以上～3時間未満	3時間以上～4時間未満	4時間以上～5時間未満	5時間以上
全体 (N = 905)		16.2	27.1	21.5	13.0	9.4	12.7
中心市街地での支出額	0円 (N = 121)	43.0	14.0	8.3	5.0	7.4	22.3
	1,000円未満 (N = 26)	26.9	26.9	11.5	3.8	19.2	11.5
	1,000円以上3,000円未満 (N = 185)	24.3	30.3	19.5	11.9	7.0	7.0
	3,000円以上5,000円未満 (N = 138)	11.6	37.0	21.7	13.8	6.5	9.4
	5,000円以上10,000円未満 (N = 183)	6.6	31.1	26.8	15.3	13.1	7.1
	10,000円以上20,000円未満 (N = 154)	6.5	24.0	29.2	14.9	9.1	16.2
	20,000円以上 (N = 98)	5.1	20.4	22.4	19.4	11.2	21.4

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

13. 新型コロナウイルス感染拡大前(2019年)との来街時の変化(「増えた」、「やや増えた」と答えた人の割合(A)から「減った」、「やや減った」と答えた人の割合(B)を差し引いたもの)

	A「増えた」+ 「やや増えた」	B「やや減った」+ 「減った」	A-B
①来街機会の変化	35.2%	12.2%	23.0pt
②外出時に行動を共にする人数の変化	17.7%	8.5%	9.2pt
③滞在時間の変化	26.2%	9.5%	16.7pt
④来街時の立ち寄り数の変化	27.5%	10.8%	16.7pt
⑤公共交通の利用の変化	21.8%	8.3%	13.5pt
⑥中心市街地での消費金額の変化	28.4%	7.6%	20.8pt

【居住区別】

14. 主な来街目的

主な来街目的を居住地区別にみると、鹿児島県外を除く全ての居住者で「買い物」、鹿児島県外の居住者は「観光」がそれぞれ最も多くなっている。

いづろ・天文館地区居住者、上町・ウォーターフロント地区居住者は「飲食・飲酒」が少ない。

【いづろ・天文館地区】：対全体-17.8p

【上町・ウォーターフロント地区】：対全体-18.0p

		主な来街目的					
		1位	2位	3位	4位	5位	6位
全体 (N=926)		買い物 48.9	飲食・飲酒 23.9	仕事 12.4	観光 11.2	映画・娯楽 7.8	学校・習い事 5.3
居住地区	いづろ・天文館地区 (N=66)	買い物 59.1	仕事 18.2	映画・娯楽 7.6	理・美容 7.6	飲食・飲酒 6.1	ウィンドウショッピング 4.5
	鹿児島中央駅地区 (N=98)	買い物 58.2	飲食・飲酒 18.4	仕事 12.2	映画・娯楽 10.2	ウィンドウショッピング 6.1	理・美容 4.1
	上町・ウォーターフロント地区 (N=17)	買い物 52.9	学校・習い事 17.6	仕事 11.8	病院 11.8	別の目的地へ移動中 11.8	飲食・飲酒 5.9
	鹿児島市 (上記以外) (N=481)	買い物 50.5	飲食・飲酒 24.1	仕事 12.3	映画・娯楽 7.9	学校・習い事 5.6	ウィンドウショッピング 4.4
	鹿児島県内 (鹿児島市以外) (N=138)	買い物 44.9	飲食・飲酒 23.2	映画・娯楽 10.1	学校・習い事 9.4	仕事 9.4	観光 9.4
	鹿児島県外 (N=126)	観光 60.3	飲食・飲酒 39.7	買い物 34.1	仕事 13.5	別の目的地へ移動中 5.6	ウィンドウショッピング 4.0

鹿児島県外居住者は「観光」(対全体+49.1p)
「飲食・飲酒」(対全体+15.8p)が多い。

※複数回答のため、合計は100%にならない。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

15. 立ち寄り地点

立ち寄り地点を居住地区別にみると、いづろ・天文館地区、鹿児島市（3地区以外）、鹿児島県内、鹿児島県外居住者は「いづろ・天文館地区」への立ち寄りが最も多くなっている。

鹿児島中央駅地区、上町・ウォーターフロント地区居住者は地区内での立ち寄りが最も多くなっている。

(%)

		立ち寄り地点			
		いづろ・天文館地区	鹿児島中央駅地区	上町・ウォーターフロント	無回答
全体 (N = 926)		65.9	34.6	14.4	0.0
居住地区	いづろ・天文館地区 (N = 66)	87.9	10.6	6.1	0.0
	鹿児島中央駅地区 (N = 98)	43.9	67.3	1.0	0.0
	上町・ウォーターフロント地区 (N = 17)	52.9	11.8	64.7	0.0
	鹿児島市(上記以外) (N = 481)	72.8	26.8	9.8	0.0
	鹿児島県内 (鹿児島市以外) (N = 138)	58.0	39.1	16.7	0.0
	鹿児島県外 (N = 126)	55.6	49.2	37.3	0.0

鹿児島県外居住者は、他地区居住者に比べて「上町・ウォーターフロント」への立ち寄りが多い（対全体+22.9p）。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

16. 中心市街地の滞在予定時間

中心市街地の滞在予定時間を居住地区別にみると、いづろ・天文館地区、鹿児島中央駅地区、鹿児島市（3地区以外）、鹿児島県内居住者は「1時間以上～2時間未満」、上町・ウォーターフロント地区居住者は「2時間以上～3時間未満」、鹿児島県外居住者は「5時間以上」がそれぞれ最も多くなっている。

(%)

		中心市街地の滞在予定時間						
		1時間未満	1時間以上～ 2時間未満	2時間以上～ 3時間未満	3時間以上～ 4時間未満	4時間以上～ 5時間未満	5時間以上	無回答
全体（N=926）		16.4	26.5	21.5	12.7	9.3	13.5	0.1
居住地区	いづろ・天文館地区 （N=66）	27.3	34.8	13.6	6.1	4.5	13.6	0.0
	鹿児島中央駅地区 （N=98）	25.5	29.6	18.4	10.2	9.2	7.1	0.0
	上町・ウォーター フロント地区 （N=17）	23.5	23.5	29.4	11.8	5.9	5.9	0.0
	鹿児島市 （上記以外） （N=481）	15.0	28.7	23.5	14.6	8.7	9.6	0.0
	鹿児島県内 （鹿児島市以外） （N=138）	14.5	26.1	15.2	12.3	13.0	18.1	0.7
	鹿児島県外 （N=126）	10.3	11.9	26.2	11.9	10.3	29.4	0.0

鹿児島県外居住者、鹿児島県内（鹿児島市以外）居住者は「5時間以上」が多い。

【鹿児島県内（鹿児島市以外）】：対全体+4.6p

【鹿児島県外】：対全体+15.9p

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

17. 中心市街地での支出額

中心市街地での支出額を居住地区別にみると、上町・ウォーターフロント地区居住者は「0円」、いづろ・天文館地区、鹿児島市（3地区以外）居住者は「1,000円以上3,000円未満」、鹿児島中央駅地区、鹿児島県内居住者は「5,000円以上～10,000円未満」、鹿児島県外居住者は「10,000円以上20,000円未満」がそれぞれ最も多くなっている。

(%)

		中心市街地での支出額											
		0円	1000円未満	1000円以上 3000円未満	3000円以上 5000円未満	5000円以上 10000円未満	10000円以上 20000円未満	20000円以上 30000円未満	30000円以上 40000円未満	40000円以上 50000円未満	50000円以上 60000円未満	60000円以上	無回答
全体 (N=926)		12.6	2.8	19.7	14.7	19.8	16.5	6.0	2.5	0.5	1.0	0.5	3.3
居住地区	いづろ・天文館地区 (N=66)	16.7	6.1	22.7	12.1	15.2	18.2	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	鹿児島中央駅地区 (N=98)	10.2	5.1	20.4	19.4	21.4	13.3	3.1	1.0	0.0	1.0	0.0	5.1
	上町・ウォーターフロント地区 (N=17)	29.4	0.0	11.8	23.5	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8
	鹿児島市 (上記以外) (N=481)	14.1	2.7	23.7	13.7	21.0	14.3	4.6	1.5	0.2	0.6	0.8	2.7
	鹿児島県内 (鹿児島市以外) (N=138)	8.7	2.9	14.5	13.8	23.2	18.1	8.0	2.9	2.2	2.2	0.7	2.9
	鹿児島県外 (N=126)	8.7	0.0	8.7	15.9	13.5	26.2	11.9	8.7	0.8	1.6	0.0	4.0

鹿児島県外居住者は、他地区居住者に比べて支出額が多い（対全体+9.7p）。

18. 来街時の立ち寄り数の変化

来街時の立ち寄り数の変化を居住地区別にみると、全ての居住地区で「変わらない」が最も多くなっている。

いづろ・天文館地区居住者を除く全ての地区居住者は『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っている。

いづろ・天文館地区居住者は、他地区居住者に比べて「変わらない」割合が多い（対全体+8.9p）。

(%)

		来街時の立ち寄り数の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N=926)		3.5	7.3	53.2	13.1	14.5	6.5	1.9
居住地区	いづろ・天文館地区 (N=66)	6.1	9.1	62.1	7.6	6.1	3.0	6.1
	鹿児島中央駅地区 (N=98)	2.0	10.2	51.0	15.3	15.3	5.1	1.0
	上町・ウォーターフロント地区 (N=17)	5.9	5.9	58.8	23.5	5.9	0.0	0.0
	鹿児島市(上記以外) (N=481)	3.7	7.5	57.4	13.3	13.3	3.7	1.0
	鹿児島県内 (鹿児島市以外) (N=138)	2.9	8.0	52.9	14.5	16.7	3.6	1.4
	鹿児島県外 (N=126)	2.4	3.2	34.1	10.3	21.4	23.8	4.8

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

【調査地区別】

19. 中心市街地の滞在予定時間

中心市街地の滞在予定時間を調査地区別にみると、鹿児島中央駅地区は「1 時間未満」、いづろ・天文館地区は「1 時間以上 2 時間未満」、「上町・ウォーターフロント地区」は「5 時間以上」がそれぞれ最も多くなっている。

(%)

		中心市街地の滞在予定時間						
		1 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	2 時間以上 3 時間未満	3 時間以上 4 時間未満	4 時間以上 5 時間未満	5 時間以上	無回答
全体 (N = 937)		16.3	26.8	21.3	12.7	9.3	13.4	0.1
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N = 281)	27.8	24.2	14.9	11.7	9.6	11.4	0.4
	いづろ・天文館地区 (N = 540)	11.5	29.3	24.3	13.7	9.1	12.2	0.0
	上町・ウォーターフロント地区 (N = 116)	11.2	21.6	23.3	10.3	9.5	24.1	0.0

上町・ウォーターフロント地区は「5 時間以上」が多い (対全体+10.7p)。

20. 来街頻度の変化

来街頻度の変化を調査地区別にみると、全ての調査地区で「変わらない」が最も多くなっている。

全ての調査地区で『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っており、特に鹿児島中央駅地区では『増えた』の割合が他地区と比べて多くなっている。

「鹿児島中央駅地区」は他地区に比べて「増えた」が多い (対全体+15.5p)。

(%)

		来街頻度の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N = 937)		5.3	6.9	46.9	16.2	19.0	4.5	1.2
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N = 281)	1.8	2.8	39.5	18.9	34.5	2.5	0.0
	いづろ・天文館地区 (N = 540)	5.0	8.7	53.3	15.4	12.2	3.9	1.5
	上町・ウォーターフロント地区 (N = 116)	15.5	8.6	34.5	13.8	12.9	12.1	2.6

「上町・ウォーターフロント地区」は他地区に比べて「減った」が多い (対全体+10.2p)。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

21. 滞在時間の変化

滞在時間の変化を調査地区別にみると、全ての調査地区で「変わらない」が最も多くなっている。

全ての調査地区で『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っており、特に鹿児島中央駅地区では『増えた』の割合が他地区と比べて多くなっている。

「鹿児島中央駅地区」は他地区に比べて「増えた」が多い（対全体+16.8p）。

(%)

		滞在時間の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N=937)		3.8	5.7	57.4	11.7	14.5	5.4	1.4
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N=281)	1.1	1.8	48.0	13.9	31.3	3.6	0.4
	いづろ・天文館地区 (N=540)	4.4	6.9	64.8	10.6	7.0	4.8	1.5
	上町・ウォーターフロント地区 (N=116)	7.8	9.5	45.7	12.1	8.6	12.9	3.4

22. 来街時の立ち寄り数の変化

来街時の立ち寄り数の変化を調査地区別にみると、全ての調査地区で「変わらない」が最も多くなっている。

全ての調査地区で『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っており、特に鹿児島中央駅地区では『増えた』の割合が他地区と比べて多くなっている。

「鹿児島中央駅地区」は他地区に比べて「増えた」が多い（対全体+16.5p）。

(%)

		来街時の立ち寄り数の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N=937)		3.4	7.4	53.3	13.0	14.5	6.4	2.0
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N=281)	0.4	3.9	40.2	19.9	31.0	4.3	0.4
	いづろ・天文館地区 (N=540)	3.9	8.5	63.3	10.0	6.3	5.7	2.2
	上町・ウォーターフロント地区 (N=116)	8.6	10.3	37.9	10.3	12.9	14.7	5.2

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

23. 公共交通の利用の変化

公共交通の利用の変化を調査地区別にみると、全ての調査地区で「変わらない」が最も多くなっている。

全ての調査地区で『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っており、特に鹿児島中央駅地区では『増えた』の割合が他地区と比べて多くなっている。

「鹿児島中央駅地区」は他地区に比べて「増えた」が多い（対全体+13.4p）。

(%)

		公共交通の利用の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N=937)		3.4	4.9	62.3	9.6	12.2	5.5	2.0
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N=281)	2.1	3.2	52.0	12.8	25.6	3.9	0.4
	いづろ・天文館地区 (N=540)	4.3	5.4	68.5	7.6	6.5	5.0	2.8
	上町・ウォーターフロント地区 (N=116)	2.6	6.9	58.6	11.2	6.0	12.1	2.6

24. 中心市街地での消費金額の変化

中心市街地での消費金額の変化を調査地区別にみると、全ての調査地区で「変わらない」が最も多くなっている。

全ての調査地区で『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）を上回っており、特に鹿児島中央駅地区では『増えた』の割合が他地区と比べて多くなっている。

「鹿児島中央駅地区」は他地区に比べて「増えた」が多い（対全体+16.3p）。

(%)

		中心市街地での消費金額の変化						
		減った	やや減った	変わらない	やや増えた	増えた	わからない	無回答
全体 (N=937)		3.3	4.3	57.1	14.5	13.9	5.2	1.7
調査地区	鹿児島中央駅地区 (N=281)	0.7	3.6	44.1	17.4	30.2	3.2	0.7
	いづろ・天文館地区 (N=540)	4.1	5.0	64.6	13.3	6.7	4.4	1.9
	上町・ウォーターフロント地区 (N=116)	6.0	2.6	53.4	12.9	7.8	13.8	3.4

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

【年代別】

25. 立ち寄り地点

立ち寄り地点を年齢別にみると、10歳代は「鹿児島中央駅地区」、20歳代以上は「いづろ・天文館地区」への立ち寄りが最も多くなっている。

「10歳代」は「鹿児島中央駅地区」への立ち寄りが多い（対全体+19.3p）。

(%)

		立ち寄り地点			
		いづろ・天文館地区	鹿児島中央駅地区	上町・ウォーターフロント地区	無回答
全体 (N = 934)		66.0	34.6	14.1	0.0
年齢	10歳代 (N = 115)	46.1	53.9	12.2	0.0
	20歳代 (N = 172)	64.0	36.6	11.6	0.0
	30歳代 (N = 124)	62.9	33.1	15.3	0.0
	40歳代 (N = 116)	76.7	26.7	14.7	0.0
	50歳代 (N = 128)	70.3	35.2	20.3	0.0
	60歳代 (N = 121)	69.4	31.4	15.7	0.0
	70歳代以上 (N = 158)	70.9	27.2	10.8	0.0

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

26. いづろ・天文館地区の立ち寄り地点

いづろ・天文館地区の立ち寄り地点を年齢別にみると、20歳代以下は「センテラス天文館」、30歳代は「飲食店」、40歳代以上は「山形屋」が最も多くなっている。

(%)

		いづろ・天文館地区の立ち寄り地点				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 616)		山形屋 26.1	センテラス 天文館 21.6	飲食店 20.3	小売店 13.1	マルヤ ガーデンズ 12.5
年 齢	10歳代 (N = 53)	センテラス 天文館 37.7	飲食店 15.1	マルヤ ガーデンズ 9.4	学校 7.5	LAZO 表参道 5.7
	20歳代 (N = 110)	センテラス 天文館 26.4	飲食店 25.5	小売店 15.5	マルヤ ガーデンズ 10.0	山形屋 10.0
	30歳代 (N = 78)	飲食店 24.4	センテラス 天文館 23.1	マルヤ ガーデンズ 23.1	山形屋 16.7	小売店 9.0
	40歳代 (N = 89)	山形屋 31.5	センテラス 天文館 22.5	飲食店 14.6	マルヤ ガーデンズ 13.5	小売店 11.2
	50歳代 (N = 90)	山形屋 35.6	飲食店 21.1	センテラス 天文館 13.3	小売店 13.3	マルヤ ガーデンズ 11.1
	60歳代 (N = 84)	山形屋 36.9	小売店 16.7	飲食店 16.7	センテラス 天文館 13.1	病院 10.7
	70歳代以上 (N = 112)	山形屋 40.2	飲食店 21.4	センテラス 天文館 20.5	小売店 17.0	マルヤ ガーデンズ 11.6

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

27. 鹿児島中央駅地区の立ち寄り地点

鹿児島中央駅地区の立ち寄り地点を年齢別にみると、全ての年代で「アミュプラザ鹿児島」が最も多くなっている。

(%)

		鹿児島中央駅地区の立ち寄り地点				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 323)		アミュプラザ 鹿児島 43.7	駅 18.9	飲食店 12.7	小売店 9.9	AMU WE 5.6
年 齢	10歳代 (N = 62)	アミュプラザ 鹿児島 41.9	学校 19.4	駅 14.5	飲食店 11.3	小売店 6.5
	20歳代 (N = 63)	アミュプラザ 鹿児島 58.7	駅 12.7	飲食店 11.1	小売店 7.9	AMU WE 3.2
	30歳代 (N = 41)	アミュプラザ 鹿児島 53.7	飲食店 17.1	駅 14.6	AMU WE 7.3	小売店 4.9
	40歳代 (N = 31)	アミュプラザ 鹿児島 38.7	駅 22.6	小売店 9.7	Li-Ka1920 6.5	飲食店 6.5
	50歳代 (N = 45)	アミュプラザ 鹿児島 33.3	駅 28.9	飲食店 17.8	Li-Ka1920 8.9	AMU WE 6.7
	60歳代 (N = 38)	アミュプラザ 鹿児島 28.9	小売店 23.7	駅 23.7	飲食店 18.4	AMU WE 5.3
	70歳代以上 (N = 43)	アミュプラザ 鹿児島 41.9	駅 20.9	小売店 14.0	AMU WE 11.6	飲食店 7.0

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

28. 上町・ウォーターフロント地区の立ち寄り地点

上町・ウォーターフロント地区の立ち寄り地点を年齢別にみると、全ての年代で「かごしま水族館」が最も多くなっている。

(%)

		上町・ウォーターフロント地区の立ち寄り地点				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N=132)		かごしま水族館 33.3	フェリー 8.3	小売店 8.3	駅 3.8	かんまちあ(上町の杜公園) 2.3
年齢	10歳代 (N=14)	かごしま水族館 14.3	小売店 14.3	駅 7.1	フェリー 7.1	学校 7.1
	20歳代 (N=20)	かごしま水族館 55.0	フェリー 5.0	かんまちあ(上町の杜公園) 0.0	駅 0.0	市役所 0.0
	30歳代 (N=19)	かごしま水族館 42.1	かんまちあ(上町の杜公園) 5.3	駅 5.3	病院 5.3	市役所 0.0
	40歳代 (N=17)	かごしま水族館 41.2	小売店 17.6	かんまちあ(上町の杜公園) 5.9	駅 5.9	フェリー 5.9
	50歳代 (N=26)	かごしま水族館 26.9	フェリー 7.7	小売店 7.7	駅 3.8	市役所 3.8
	60歳代 (N=19)	かごしま水族館 21.1	フェリー 10.5	駅 5.3	市役所 5.3	ウォーターフロントパーク 5.3
	70歳代以上 (N=17)	かごしま水族館 29.4	フェリー 23.5	小売店 17.6	病院 11.8	かんまちあ(上町の杜公園) 5.9

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

29. 中心市街地の滞在予定時間

中心市街地の滞在予定時間を年齢別にみると、10歳代は「1時間未満」、20歳代～40歳代、60歳代以上は「1時間以上～2時間未満」、50歳代は「2時間以上～3時間未満」がそれぞれ最も多くなっている。

(%)

		中心市街地の滞在予定時間						
		1時間未満	1時間以上～ 2時間未満	2時間以上～ 3時間未満	3時間以上～ 4時間未満	4時間以上～ 5時間未満	5時間以上	無回答
全体 (N = 934)		16.3	26.7	21.4	12.7	9.3	13.5	0.1
年 齢	10歳代 (N = 115)	27.0	17.4	12.2	15.7	14.8	12.2	0.9
	20歳代 (N = 172)	12.2	21.5	19.8	17.4	12.8	16.3	0.0
	30歳代 (N = 124)	12.1	32.3	26.6	10.5	7.3	11.3	0.0
	40歳代 (N = 116)	14.7	31.9	19.0	12.9	5.2	16.4	0.0
	50歳代 (N = 128)	12.5	24.2	28.9	6.3	8.6	19.5	0.0
	60歳代 (N = 121)	19.8	30.6	24.8	7.4	9.9	7.4	0.0
	70歳代以上 (N = 158)	17.7	29.7	19.0	16.5	6.3	10.8	0.0

(3) ②令和5年度鹿児島市中心市街地への新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する市民アンケート調査

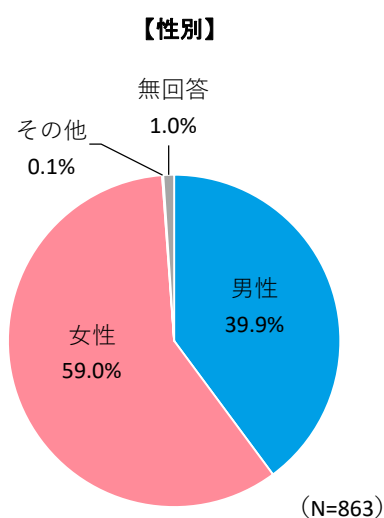
【調査概要】

- 調査対象：鹿児島市に在住する2,500人
- 調査方法：郵送による配布、郵送もしくはインターネットによる回収
- 実施期間：令和5年6月上旬～下旬
- 回収数：863件（回収率：34.5%）

【調査結果】

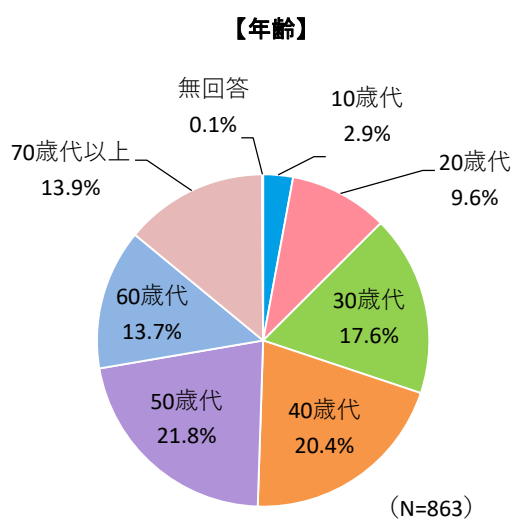
1. 性別

男性 39.9%、女性 59.0%、その他 0.1%



2. 年齢

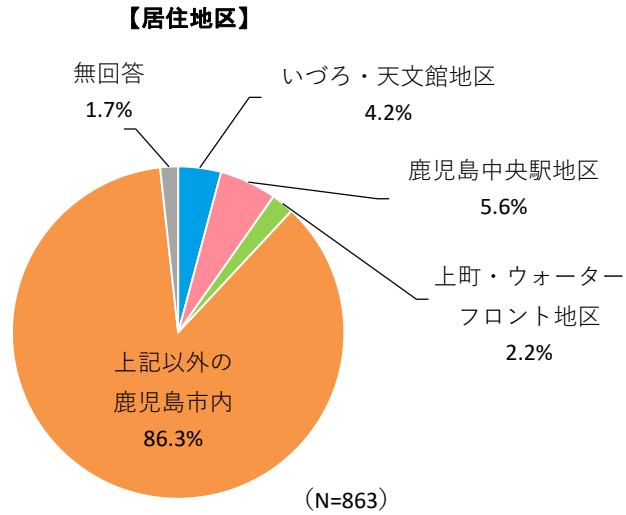
① 10歳代	2.9%
② 20歳代	9.6%
③ 30歳代	17.6%
④ 40歳代	20.4%
⑤ 50歳代	21.8%
⑥ 60歳代	13.7%
⑦ 70歳代以上	13.9%



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

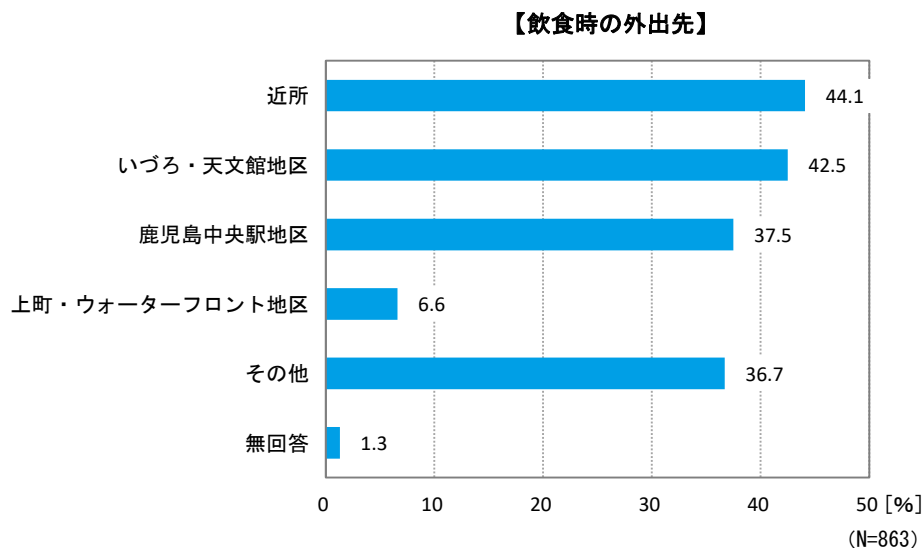
3. 居住地区

- ① いづろ・天文館地区 4.2%
- ② 鹿児島中央駅地区 5.6%
- ③ 上町・ウォーターフロント地区 2.2%
- ④ 上記以外の鹿児島市内 86.3%



4. 飲食時の外出先

- ① 近所 44.1%
- ② いづろ・天文館地区 42.5%
- ③ 鹿児島中央駅地区 37.5%
- ④ 上町・ウォーターフロント地区 6.6%
- ⑤ その他 36.7%

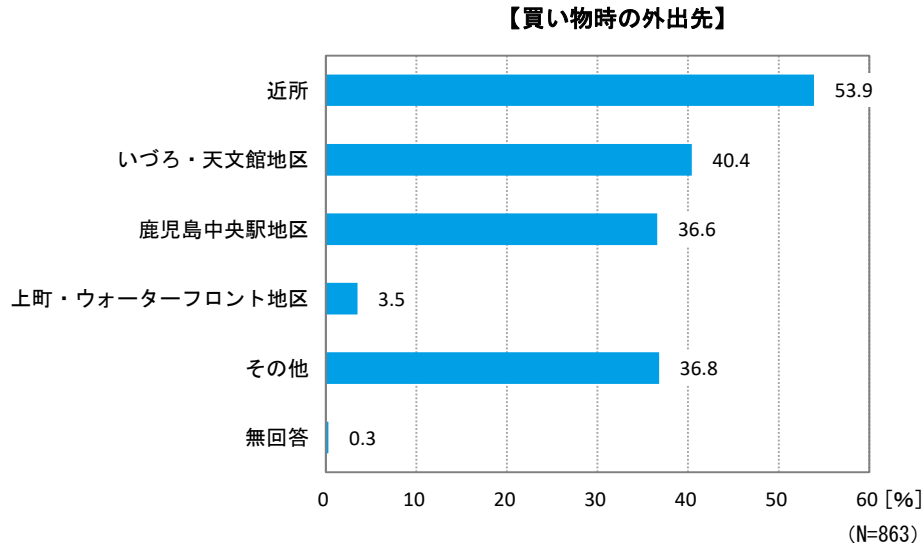


注) 複数回答

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

5. 買い物時の外出先

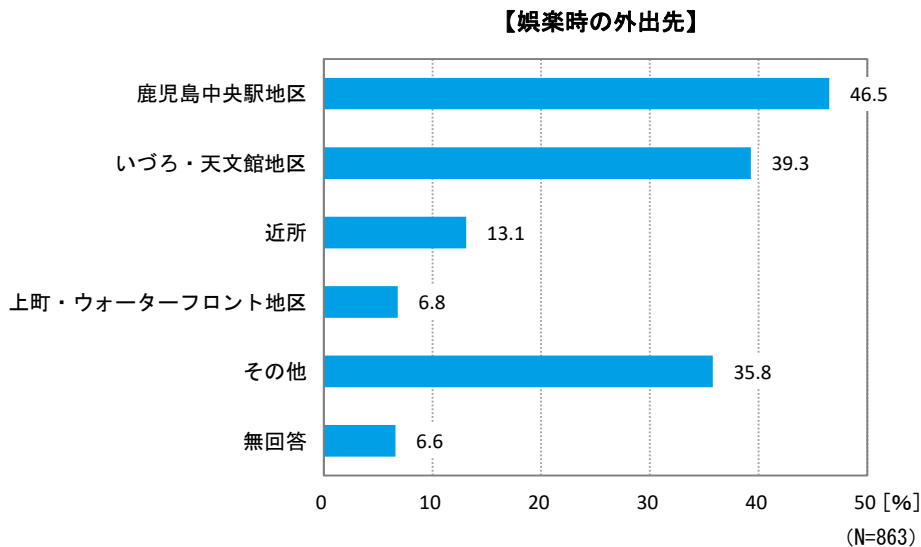
- ① 近所 53.9%
- ② いづろ・天文館地区 40.4%
- ③ 鹿児島中央駅地区 36.6%
- ④ 上町・ウォーターフロント地区 3.5%
- ⑤ その他 36.8%



注) 複数回答

6. 娯楽時の外出先

- ① 鹿児島中央駅地区 46.5%
- ② いづろ・天文館地区 39.3%
- ③ 近所 13.1%
- ④ 上町・ウォーターフロント地区 6.8%
- ⑤ その他 35.8%



注) 複数回答

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

7. 新型コロナウイルス感染拡大前との外出時の変化

- ・『増えた』は「増えた」と「やや増えた」の合計
- ・『減った』は「やや減った」と「減った」の合計

① 外出頻度

『増えた』 10.4% 「変わらない」 29.1% 『減った』 60.5%

② 外出時に行動を共にする人数

『増えた』 5.0% 「変わらない」 49.1% 『減った』 45.4%

③ 外出時間

『増えた』 9.7% 「変わらない」 39.5% 『減った』 50.0%

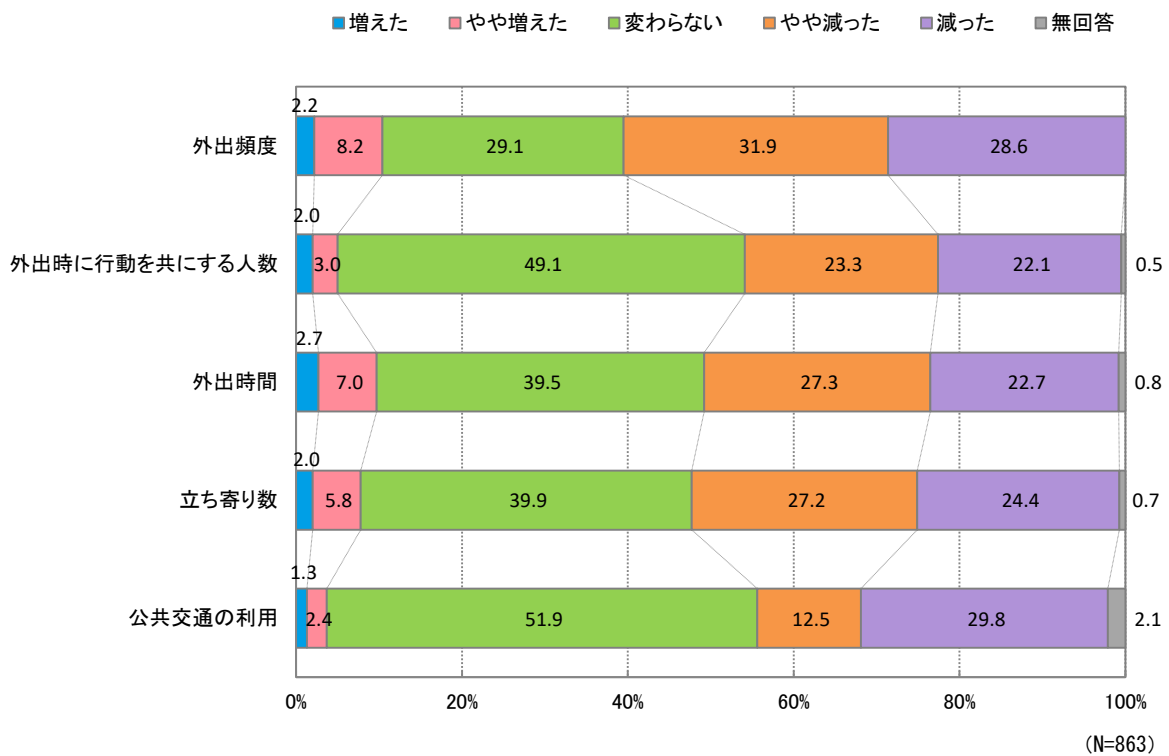
④ 立ち寄り数

『増えた』 7.8% 「変わらない」 39.9% 『減った』 51.6%

⑤ 公共交通の利用

『増えた』 3.7% 「変わらない」 51.9% 『減った』 42.3%

【新型コロナウイルス感染拡大前との外出時の変化】

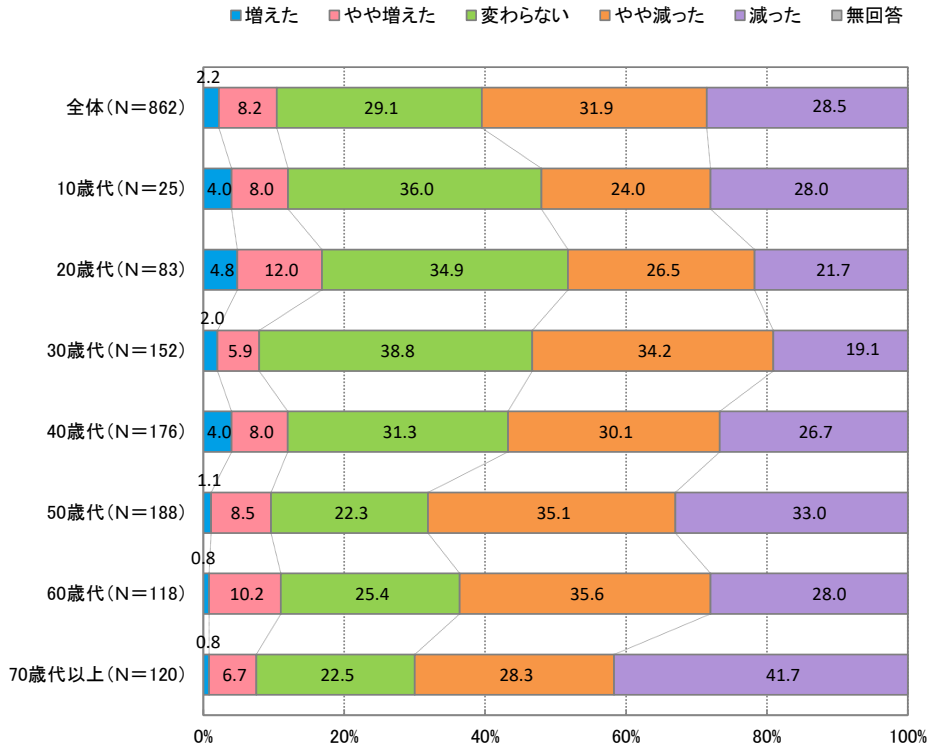


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

7. 1) 外出頻度の変化（年代別）

50歳代以上で『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）の割合が6割を超え、70歳代以上では7割となっている。

【外出頻度の変化】

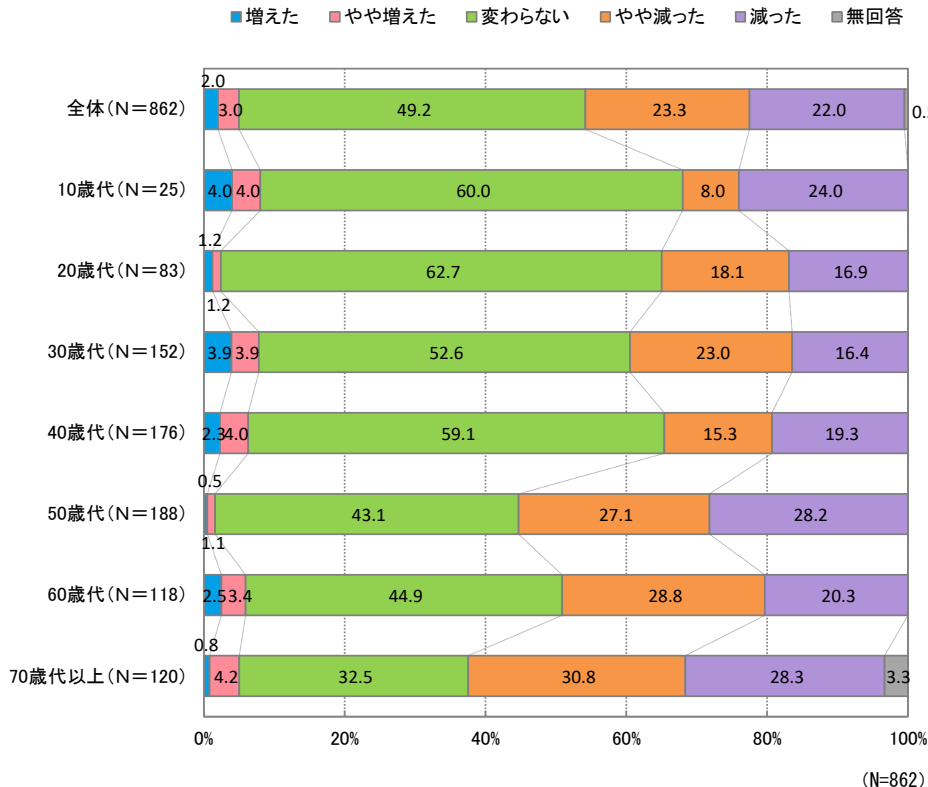


7. 2) 外出時に行動を共にする人数の変化（年代別）

(N=862)

40歳代以下は「変わらない」が過半数である一方、60歳代は『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）が約5割、50歳代・70歳代以上は『減った』の割合が約6割を占めている。

【外出時に行動を共にする人数の変化】



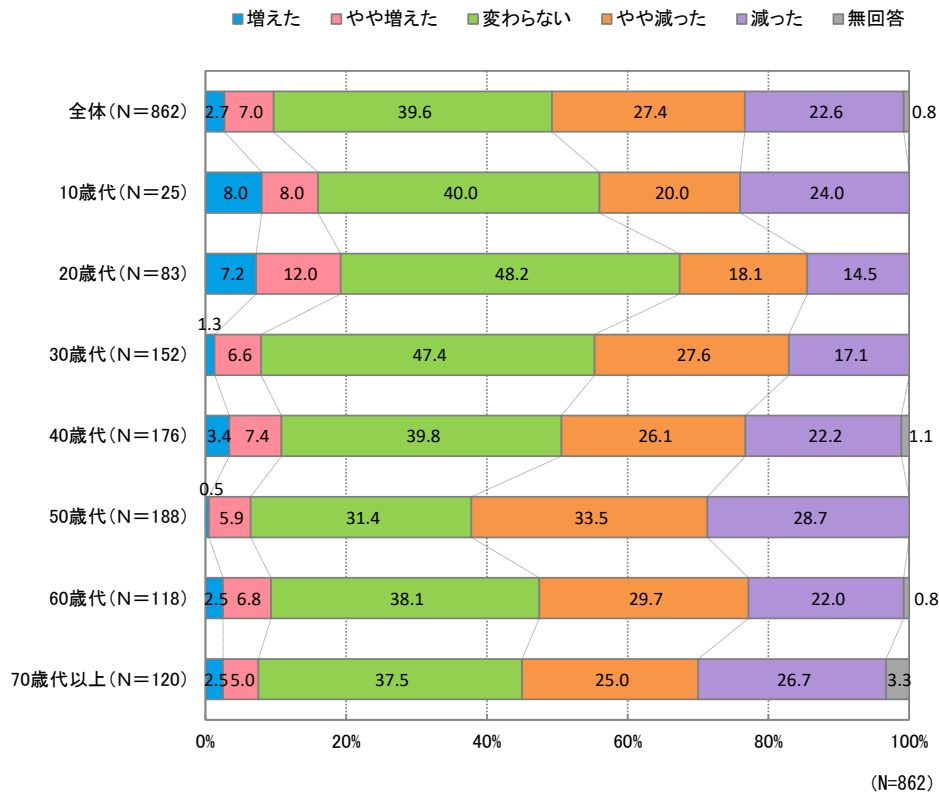
(N=862)

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

7. 3) 外出時間の変化（年代別）

50歳代以上で『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）の割合が半数以上を占めている。

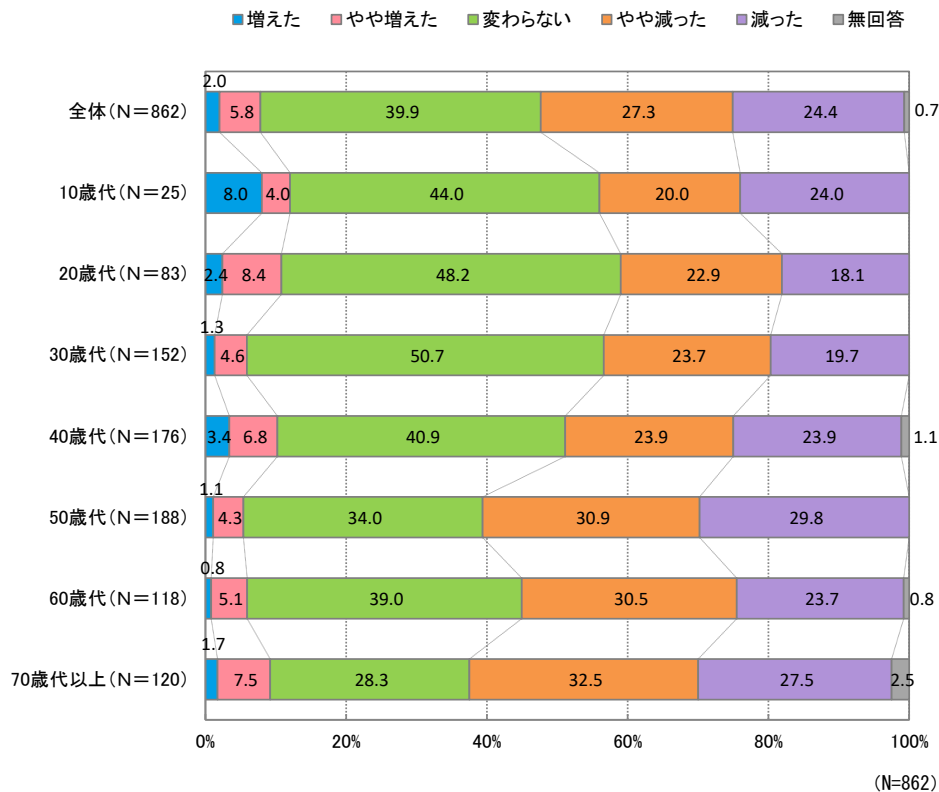
【外出時間の変化】



7. 4) 立ち寄り数の変化（年代別）

50歳代以上で『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）の割合が半数以上を占めている。

【立ち寄り数の変化】

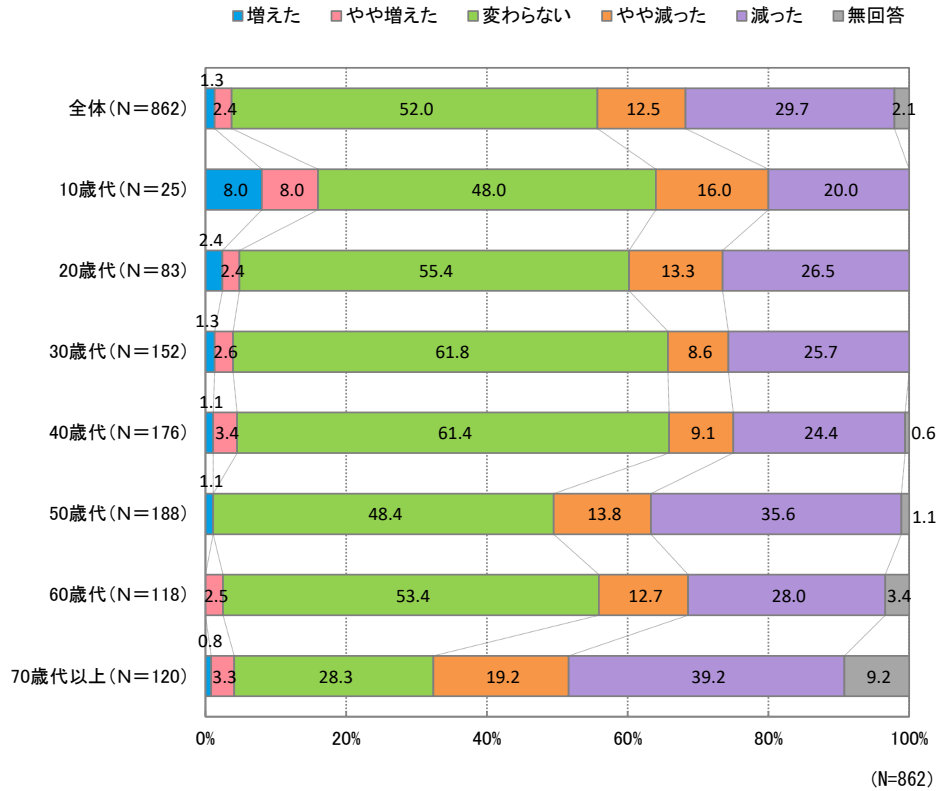


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

7. 5) 公共交通の利用の変化（年代別）

10歳代～40歳代、60歳代は「変わらない」、50歳代、70歳代以上では『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）の割合がそれぞれ最も多くなっている。

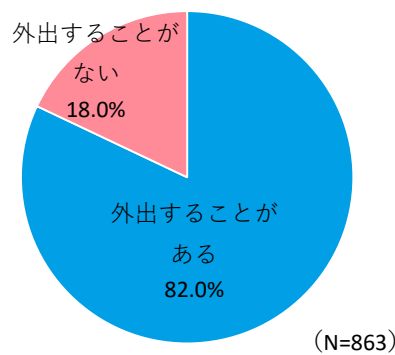
【公共交通の利用の変化】



8. 中心市街地への外出状況

外出することがある 82.0%、外出することがない 18.0%

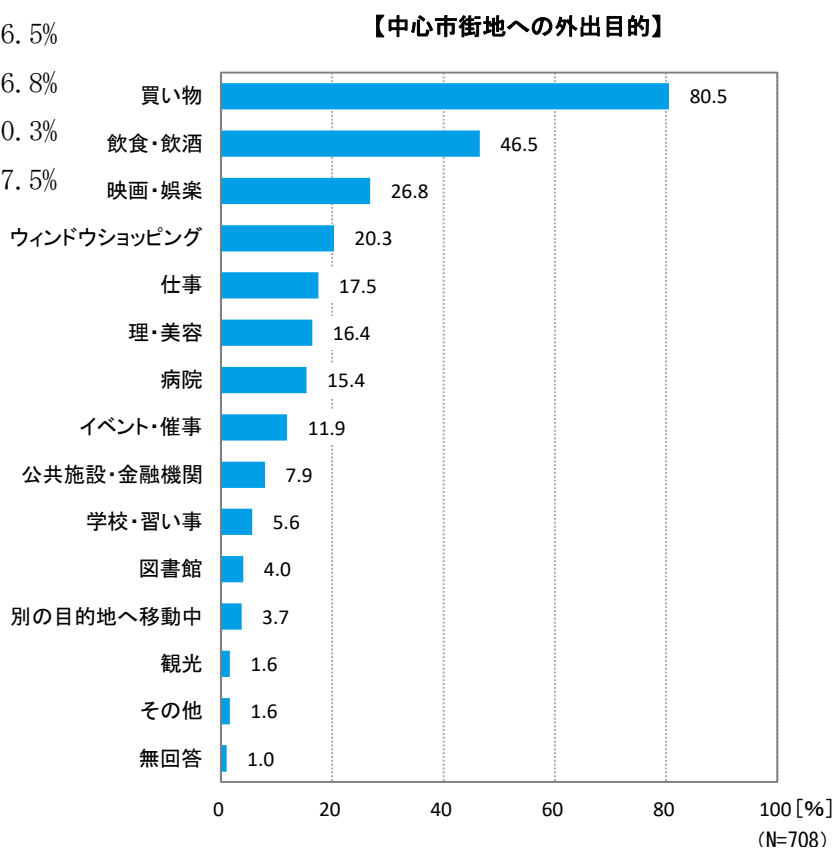
【中心市街地への外出状況】



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

9. 中心市街地への外出目的（上位5項目）

- ① 買い物 80.5%
- ② 飲食・飲酒 46.5%
- ③ 映画・娯楽 26.8%
- ④ ウィンドウショッピング 20.3%
- ⑤ 仕事 17.5%



注) 複数回答

10. 中心市街地への外出目的（年代別）

全ての年代で「買い物」が最も多く、次いで、10歳代は「映画・娯楽」、20歳代以上は「飲食・飲酒」となっている。

(%)

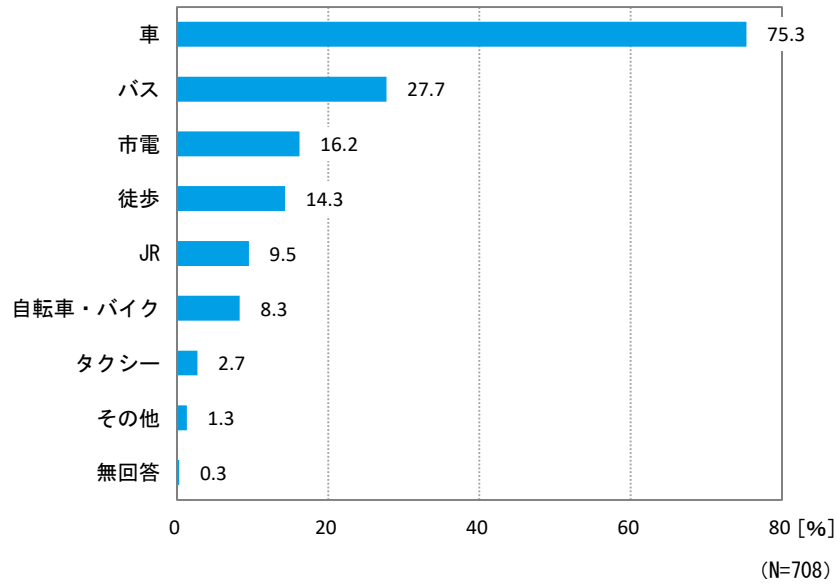
		中心市街地への外出目的				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体 (N = 707)		買い物 80.5	飲食・飲酒 46.5	映画・娯楽 26.9	ウィンドウ ショッピング 20.4	仕事 17.5
年 齢	10歳代 (N = 24)	買い物 83.3	映画・娯楽 58.3	学校・習い事 45.8	飲食・飲酒 33.3	理・美容 8.3
	20歳代 (N = 74)	買い物 83.8	飲食・飲酒 63.5	映画・娯楽 39.2	ウィンドウ ショッピング 29.7	理・美容 24.3
	30歳代 (N = 124)	買い物 83.1	飲食・飲酒 50.0	ウィンドウ ショッピング 33.1	映画・娯楽 28.2	理・美容 24.2
	40歳代 (N = 151)	買い物 76.2	飲食・飲酒 43.0	映画・娯楽 31.8	仕事 25.2	ウィンドウ ショッピング 19.9
	50歳代 (N = 144)	買い物 79.2	飲食・飲酒 49.3	映画・娯楽 25.0	ウィンドウ ショッピング 23.6	仕事 18.1
	60歳代 (N = 91)	買い物 81.3	飲食・飲酒 46.2	病院 19.8	映画・娯楽 17.6	仕事 14.3
	70歳代以上 (N = 99)	買い物 81.8	飲食・飲酒 34.3	病院 32.3	公共施設・ 金融機関 17.2	理・美容 16.2

1 章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

11. 中心市街地へ外出時の交通手段（上位 5 項目）

- ① 車 75.3%
- ② バス 27.7%
- ③ 市電 16.2%
- ④ 徒歩 14.3%
- ⑤ J R 9.5%

【中心市街地へ外出時の交通手段】

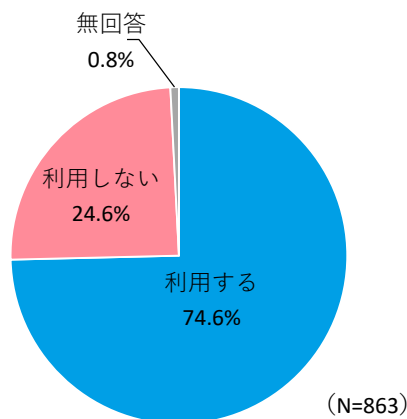


注) 複数回答

12. ネットショッピング・デリバリー（食事の出前）・キャッシュレス決済の利用状況

利用する 74.6%、利用しない 24.6%

【ネットショッピング・デリバリー（食事の出前）・キャッシュレス決済の利用状況】



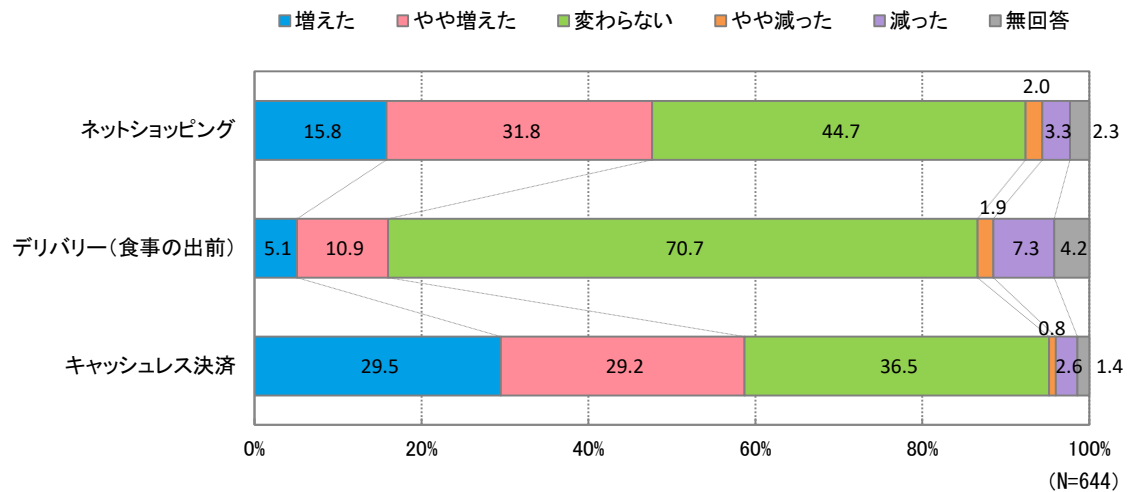
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

13. 新型コロナウイルス感染拡大前との消費スタイル等の変化

「デリバリー（食事の出前）」は「変わらない」が最も多くなっており、新型コロナウイルス感染拡大による大きな影響は見られなかった。一方、「ネットショッピング」および「キャッシュレス決済」は『増えた（「増えた」と「やや増えた」の合計）』が最も多くなっており、新型コロナウイルス感染拡大の影響がうかがえる。

- ・『増えた』は「増えた」と「やや増えた」の合計
- ・『減った』は「やや減った」と「減った」の合計
- ① ネットショッピング 『増えた』47.6% 「変わらない」44.7% 『減った』5.3%
- ② デリバリー（食事の出前） 『増えた』16.0% 「変わらない」70.7% 『減った』9.2%
- ③ キャッシュレス決済 『増えた』58.7% 「変わらない」36.5% 『減った』3.4%

【新型コロナウイルス感染拡大前との消費スタイル等の変化】

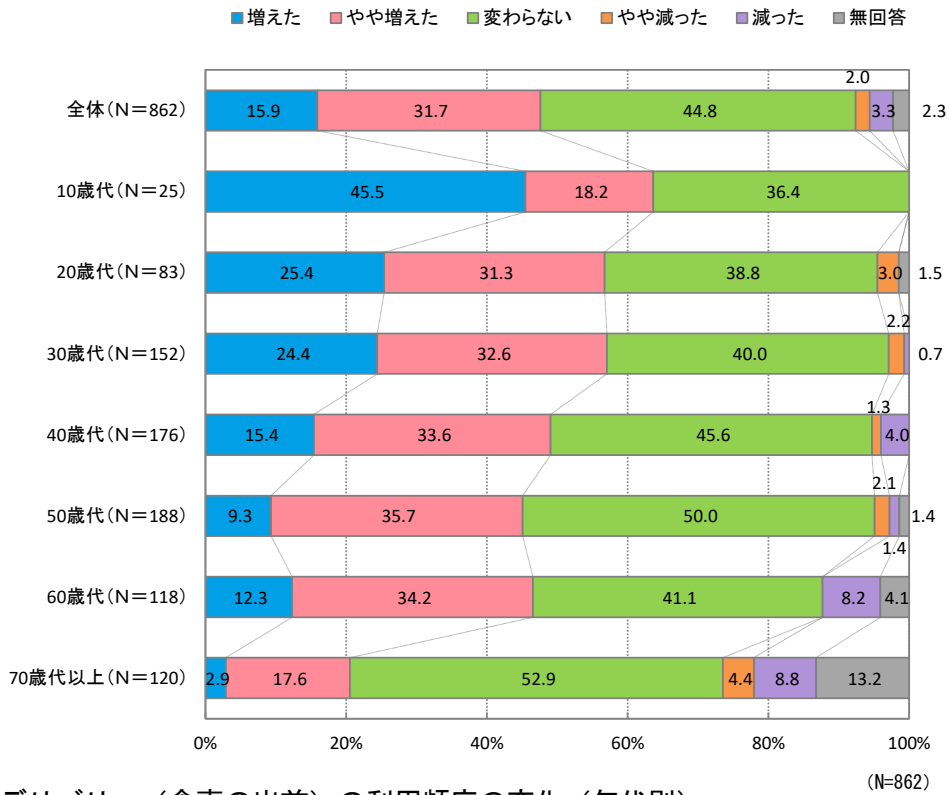


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

13. 1) ネットショッピングの利用頻度の変化（年代別）

50歳代と70歳代以上では「変わらない」が半数以上、その他の年代では『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）の割合がそれぞれ最も多くなっている。

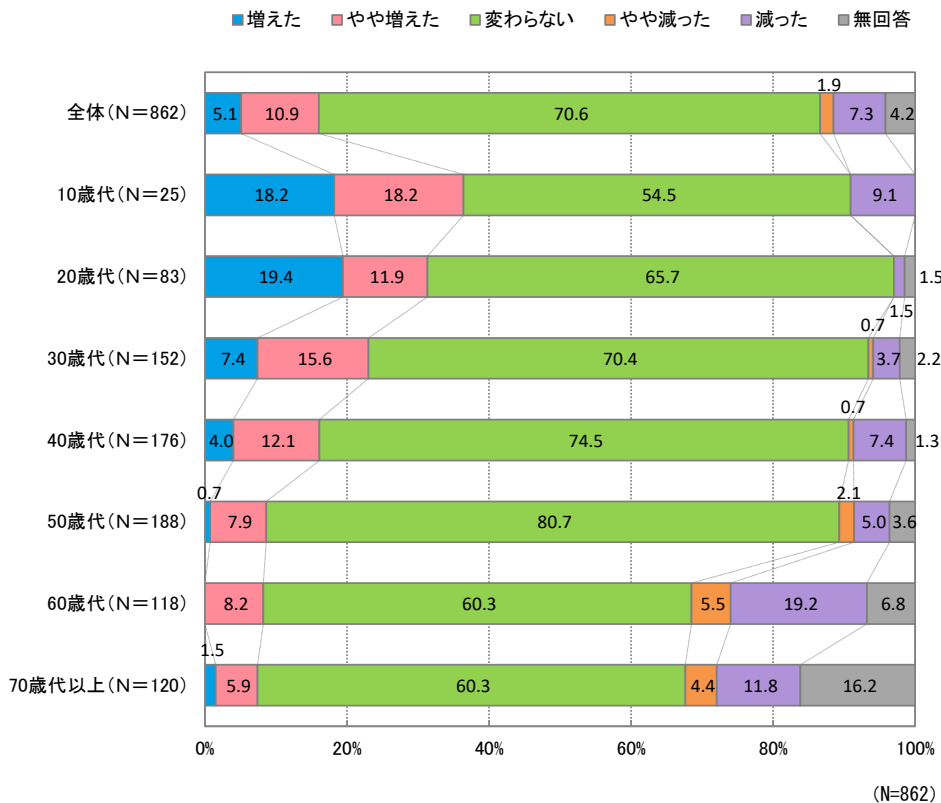
【ネットショッピングの利用頻度の変化】



13. 2) デリバリー（食事の出前）の利用頻度の変化（年代別）

全ての年代で「変わらない」が最も多いものの、20歳代以下では『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）が3割以上を占めており、他の年代と比べて多くなっている。

【デリバリー（食事の出前）の利用頻度の変化】

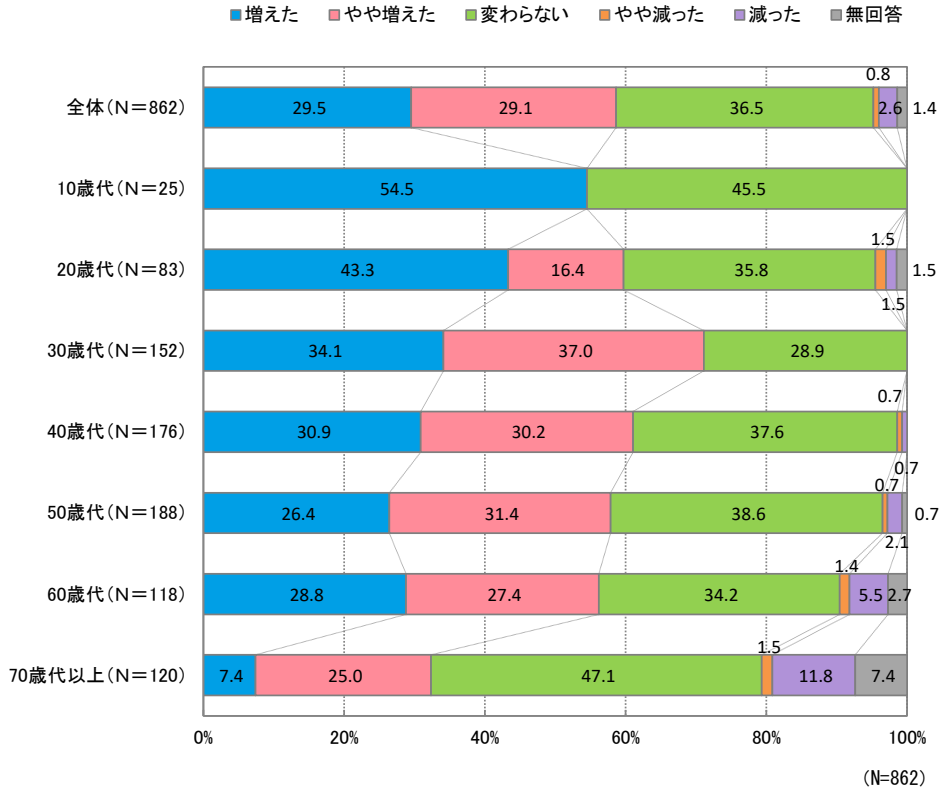


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

13. 3) キャッシュレス決済の利用頻度の変化（年代別）

60歳代以下は『増えた』（「増えた」と「やや増えた」の合計）、70歳代以上では「変わらない」が最も多くなっている。

【キャッシュレス決済の利用頻度の変化】

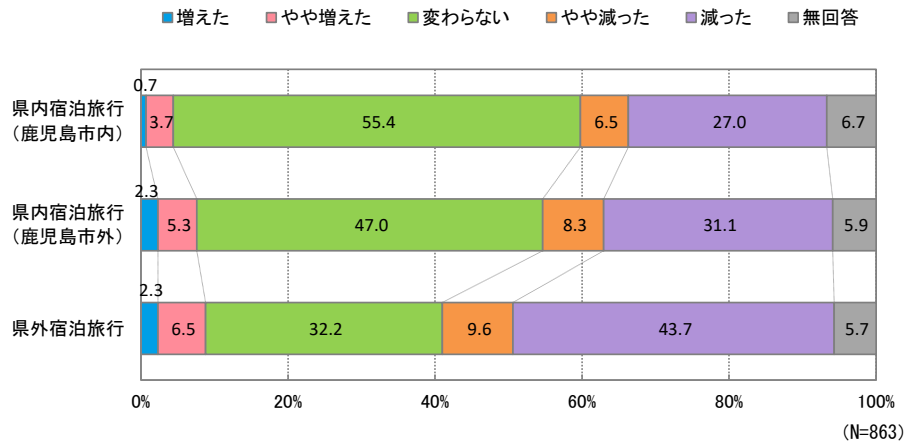


14. 新型コロナウイルス感染拡大前との宿泊旅行の変化

新型コロナウイルス感染拡大前との宿泊旅行の変化について、鹿児島県内（市内外）、鹿児島県外ともに減少し、新型コロナウイルス感染拡大による影響が大きいことがうかがえる。特に県外宿泊旅行は新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動制限等により、『減った』（「やや減った」と「減った」の合計）との回答が53.3%と過半数となっている。

- ・『増えた』は「増えた」と「やや増えた」の合計
- ・『減った』は「やや減った」と「減った」の合計
- ① 県内宿泊旅行（鹿児島市内）『増えた』4.4% 「変わらない」55.4% 『減った』33.5%
- ② 県内宿泊旅行（鹿児島市外）『増えた』7.6% 「変わらない」47.0% 『減った』39.4%
- ③ 県外宿泊旅行 『増えた』8.8% 「変わらない」32.2% 『減った』53.3%

【新型コロナウイルス感染拡大前との宿泊旅行の変化】



(3) ③中心市街地への新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する事業者アンケート調査

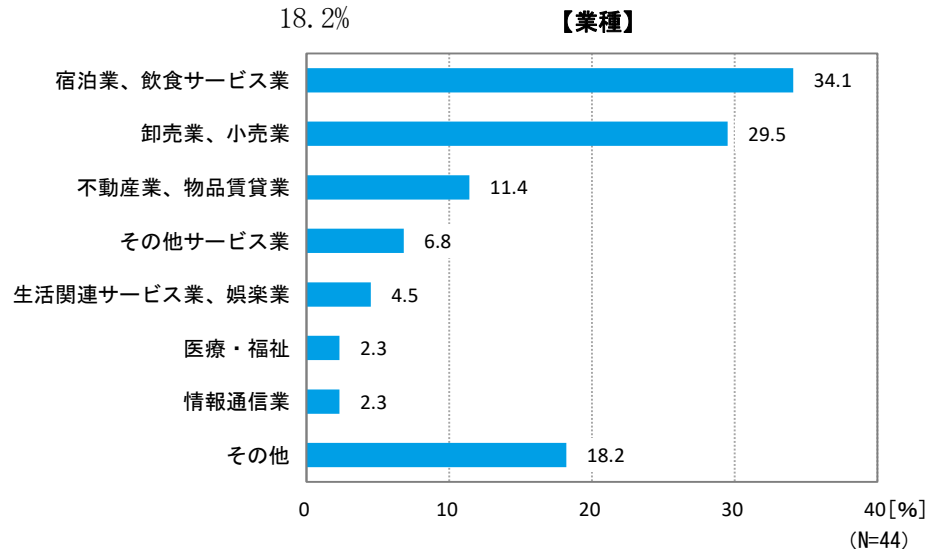
【調査概要】

- 調査対象：「いづろ・天文館地区」「鹿児島中央駅地区」「上町・ウォーターフロント地区」の事業者
- 調査方法：メール・FAXによる配布、インターネット・FAXによる回収
- 実施期間：令和5年6月下旬～7月上旬
- 回収数：44件

【調査結果】

1. 業種

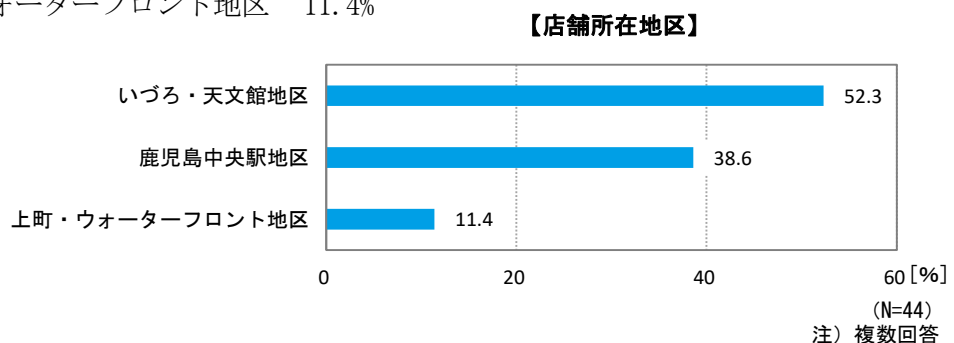
① 宿泊業、飲食サービス業	34.1%
② 卸売業、小売業	29.5%
③ 不動産業、物品賃貸業	11.4%
④ その他サービス業	6.8%
⑤ 生活関連サービス業、娯楽業	4.5%
⑥ 医療・福祉	2.3%
⑦ 情報通信業	2.3%
⑧ その他	18.2%



注) 複数回答

2. 店舗所在地区

① いづろ・天文館地区	52.3%
② 鹿児島中央駅地区	38.6%
③ 上町・ウォーターフロント地区	11.4%



1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

3. 新型コロナウイルス感染拡大前と影響を最も受けた時期の比較

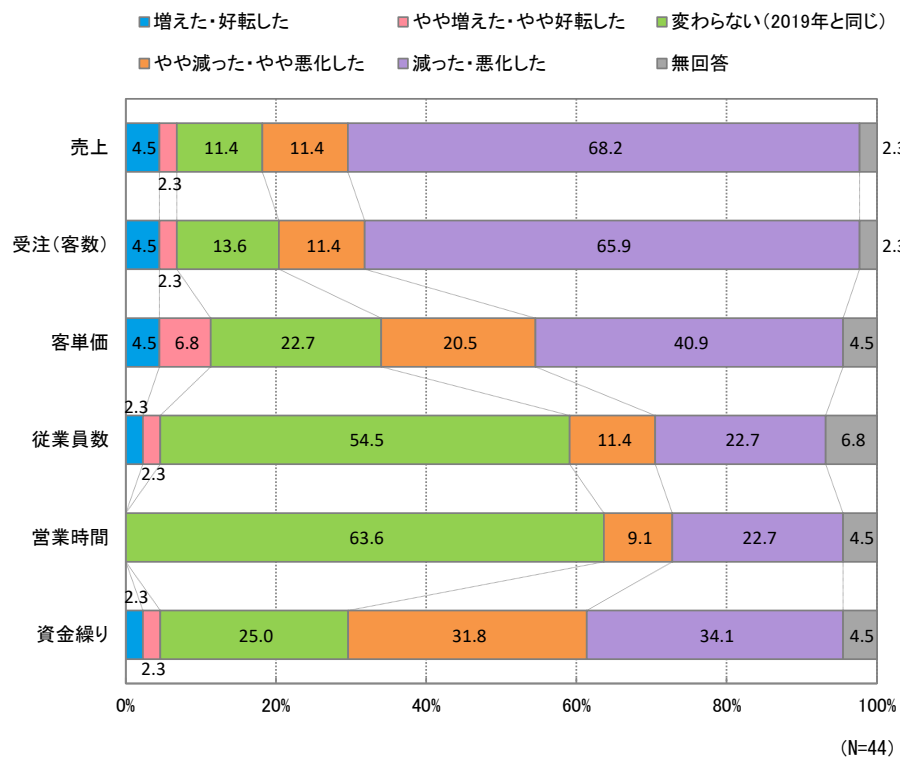
『減った・悪化した』が①売上、②受注（客数）では約 8 割、⑥資金繰りでは約 7 割、③客単価では約 6 割を占めており、新型コロナウイルス感染拡大の影響がうかがえる。

一方、④従業員数、⑤営業時間は「変わらない」が半数以上を占めており、影響は限定的となっている。

- ・『増えた・好転した』は「増えた・好転した」と「やや増えた・やや好転した」の合計
- ・『減った・悪化した』は「やや減った・やや悪化した」と「減った・悪化した」の合計

① 売上	『増えた』 6.8%	『変わらない』 11.4%	『減った』 79.6%
② 受注（客数）	『増えた』 6.8%	『変わらない』 13.6%	『減った』 77.3%
③ 客単価	『増えた』 11.3%	『変わらない』 22.7%	『減った』 61.4%
④ 従業員数	『増えた』 4.6%	『変わらない』 54.5%	『減った』 34.1%
⑤ 営業時間	『増えた』 0.0%	『変わらない』 63.6%	『減った』 31.8%
⑥ 資金繰り	『好転した』 4.6%	『変わらない』 25.0%	『悪化した』 65.9%

【新型コロナウイルス感染拡大前と影響を最も受けた時期の比較】

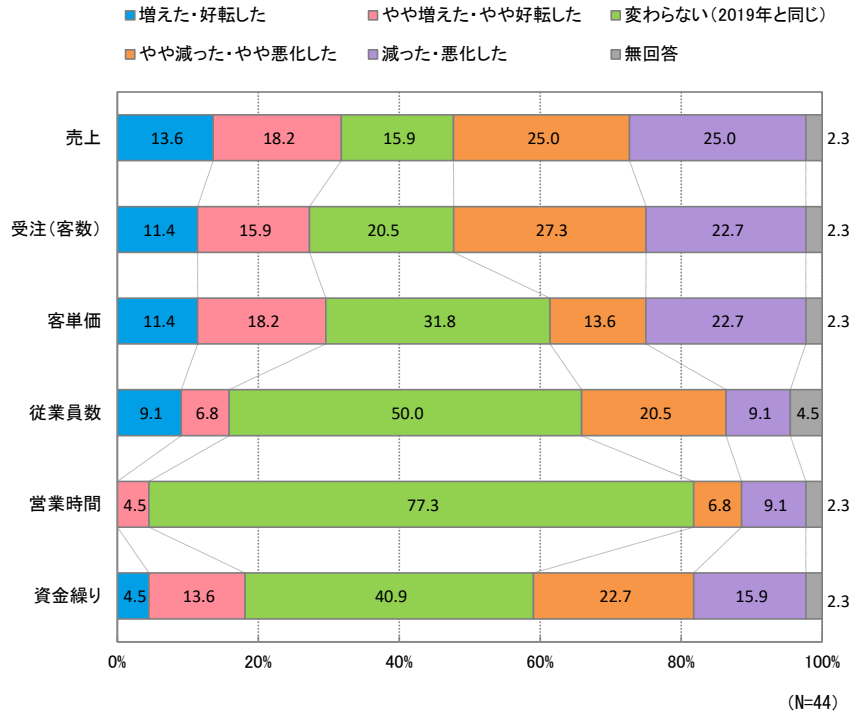


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

4. 新型コロナウイルス感染拡大前と2023年5月31日時点の比較

『減った・悪化した』（「やや減った・やや悪化した」と「減った・悪化した」の合計）が①売上、②受注（客数）では半数、③客単価、⑥資金繰りでは約4割を占めている一方、④従業員数、⑤営業時間は「変わらない」が半数以上を占めている。

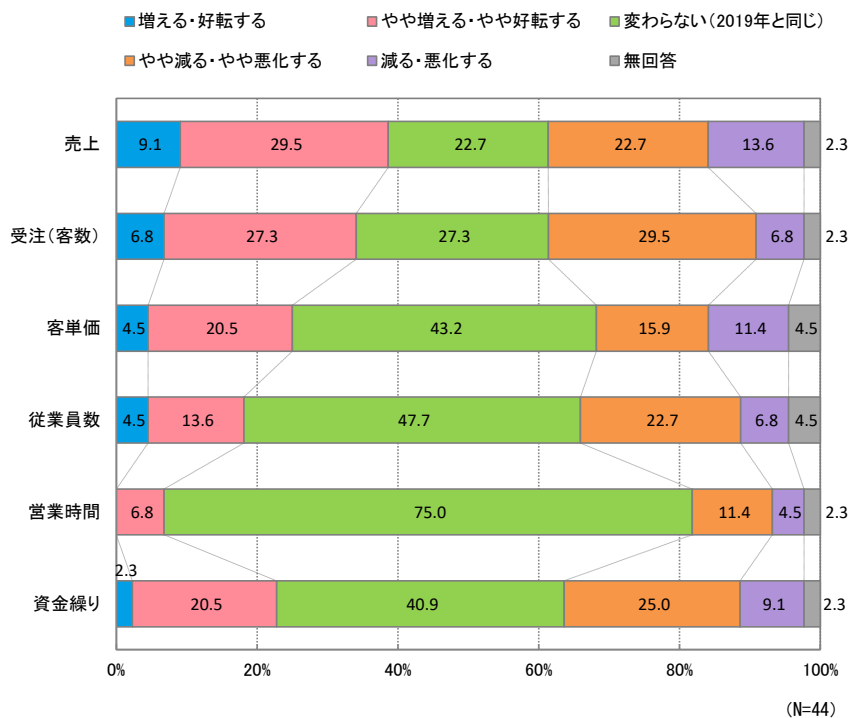
【新型コロナウイルス感染拡大前と2023年5月31日時点の比較】



5. 2023年後半（7～12月）の見込み

①売上は『増える・好転する』（「増える・好転する」と「やや増える・やや好転する」の合計）が約4割を占める一方、②受注（客数）は『減る・悪化する』（「やや減る・やや悪化する」と「減る・悪化する」の合計）が約4割を占めている。その他は「変わらない」が最も多くなっている。

【2023年後半（7～12月）の見込み】

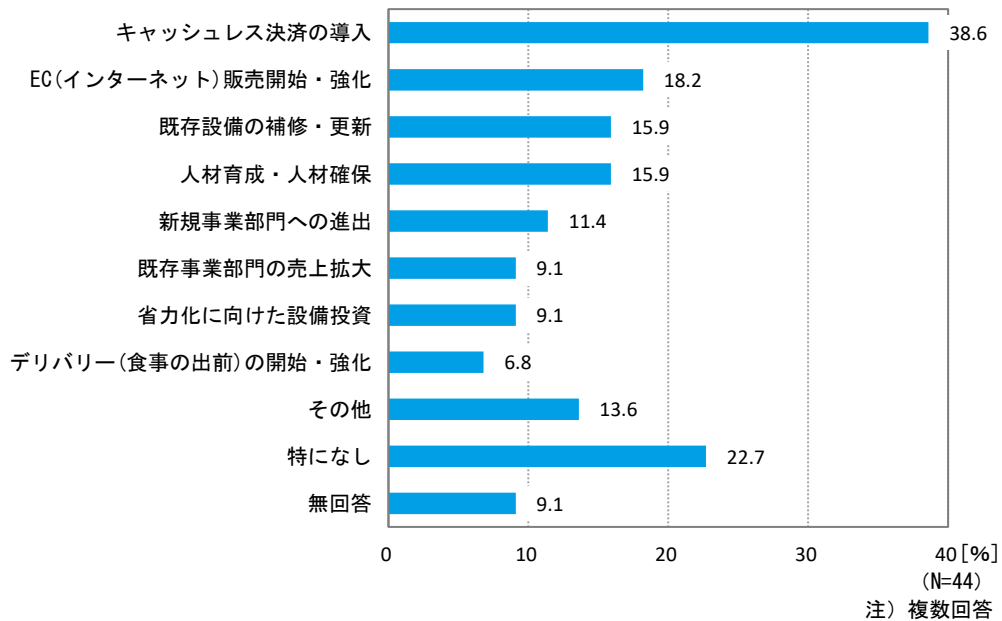


1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

6. 新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、講じた対策（上位5項目）

- | | | |
|---|--------------------|-------|
| ① | キャッシュレス決済の導入 | 38.6% |
| ② | EC（インターネット）販売開始・強化 | 18.2% |
| ③ | 既存設備の補修・更新 | 15.9% |
| ③ | 人材育成・人材確保 | 15.9% |
| ⑤ | 新規事業部門への進出 | 11.4% |

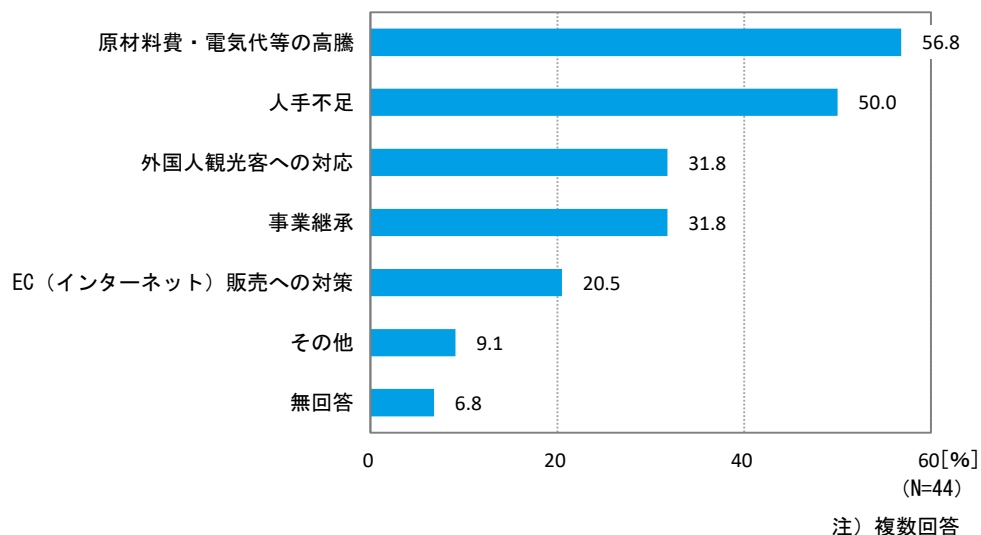
【新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、講じた対策】



7. 今後中心市街地で事業継続するうえでの課題

- | | | |
|---|-------------------|-------|
| ① | 原材料費・電気代等の高騰 | 56.8% |
| ② | 人手不足 | 50.0% |
| ③ | 外国人観光客への対応 | 31.8% |
| ③ | 事業継承 | 31.8% |
| ⑤ | EC（インターネット）販売への対策 | 20.5% |
| ⑥ | その他 | 9.1% |

【今後中心市街地で事業継続するうえでの課題】



(4) 民間事業者等との意見交換会

第4期計画策定にあたり、民間事業者・商店街・まちづくり団体等との意見交換等の場を設け、中心市街地の活性化のために必要な取組等について協議を行った。

① 次期鹿児島市中心市街地活性化基本計画策定に関する検討会

➤日 時

- ・第1回：令和5年2月28日
- ・第2回：令和5年4月12日
- ・第3回：令和5年6月26日

➤場 所：鹿児島商工会議所14階大会議室

➤出席者：検討委員（㈱まちづくり鹿児島、鹿児島商工会議所、商店街関係者、地域の主要事業者、民間交通事業者）、市

② 地区別情報交換会（いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区）

➤日 時：令和5年7月13日

➤場 所：鹿児島商工会議所4階アイムホール

➤出席者：いづろ・天文館地区及び上町・ウォーターフロント地区の商店街・通り会等、鹿児島商工会議所、市

③ 地区別情報交換会（鹿児島中央駅地区）

➤日 時：令和5年7月14日

➤場 所：ホテルタイセイアネックス 2-A

➤出席者：鹿児島中央駅地区の商店街・通り会等、鹿児島商工会議所、市

(主な意見)

- ・「歩く」という視点でのまちづくりの必要性
- ・居住人口の増加が重要（目標指標として検討が必要）
- ・天文館の「夜のまち(飲食店)」活性化を含めた賑わい創出の検討
- ・ウォーターフロント開発の促進や相乗効果
- ・鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区、上町・ウォーターフロント地区の回遊性の向上に係る取組の強化
- ・観光消費額の把握（目標指標として検討が必要）
- ・MICE誘致の強化
- ・インバウンド等観光客の受入体制の整備
- ・大型観光バス駐停車場の整備
- ・交流人口の拡大
- ・空き店舗及び建物の老朽化への対策
- ・駐車場や公共交通の課題解決に係る取組及び連携の強化
- ・民間の自主的な取組の重要性
- ・Wi-Fi環境の整備 など

[4] これまでの中心市街地活性化に対する取組の検証

(1) 第3期計画の概要

- 計画期間：平成30年4月～令和6年3月（6年）
- 区域面積：約381ha
- コンセプト：「観光・商業・交流による にぎわいあふれる次代のまちづくり」
- 中心市街地の基本方針

基本方針1：個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり

基本方針2：国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり

➤目標

基本方針	目標	目標指標	第3期基準値	第3期目標値
個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり	目標1 商業・サービス機能の強化	空き店舗数	86店舗 (H28年度)	70店舗 (R5年度)
国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり	目標2 稼ぐ観光の実現	宿泊観光客数	295万3千人 (H28年)	322万人 (R5年)

(2) 施策ごとの事業の実施状況と評価

■第3期計画掲載事業の進捗状況内訳（令和5年8月現在）

	事業数	進捗状況内訳		
		完了	実施中	未着手
4章：市街地の整備改善	16	9	7	0
5章：都市福利施設の整備	7	6	1	0
6章：居住環境の向上	9(4)	2(2)	7(2)	0
7章：経済活力の向上	84(4)	33(2)	51(2)	0
8章：公共交通の利便増進	13(1)	5(1)	8	0
計	129(9)	55(5)	74(4)	0

※（ ）内は、再掲事業の数（内数）

第3期計画では、認定を受けた当初は73事業を計画事業として位置づけ、市街地の整備改善や都市福利施設の整備など5つの施策を推進した。その後、毎年度、事業の実施状況等についてフォローアップを行い、中心市街地のおかれている環境の変化に対応し、商業・サービス機能の強化などを一層図るための47事業を追加し、計120事業を計画事業として位置づけ、目標達成に取り組んできた。

稼ぐ観光の実現を目指し、交流人口のさらなる増大を図るための各種プロジェクトを実施したことにより、再開発ビルの整備、都市の杜の整備など都市機能の集積が進み、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、空き店舗数は令和元年度には60店舗と、目標値の70店舗を達成し、宿泊観光客数も平成30年まで緩やかに増加するなど、中心市街地は一定の活性化が進んだ。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度の空き店舗数は急激に増加、宿泊観光客数は急激に減少し、その後、

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない状況である。

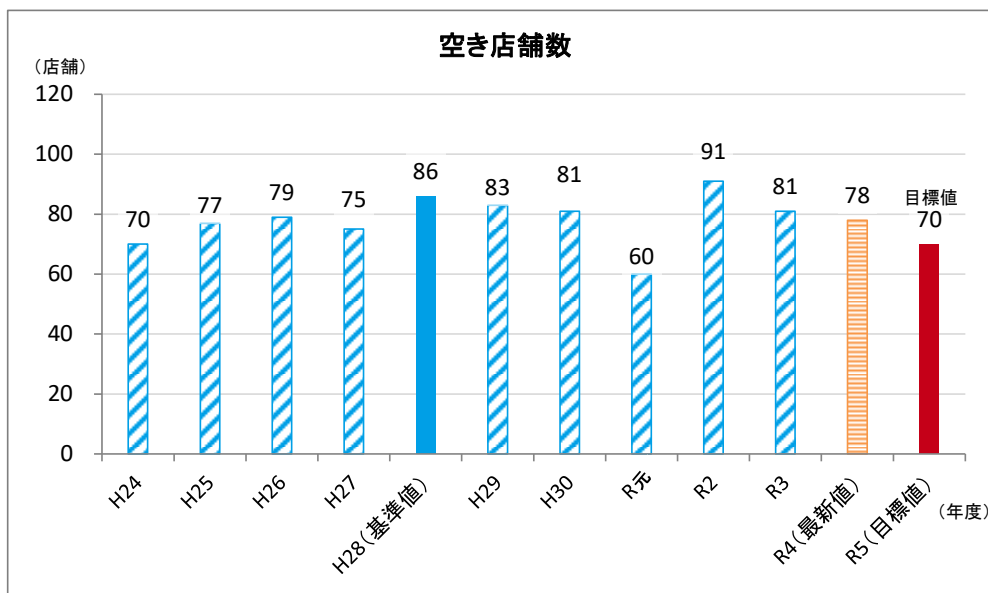
その他、エネルギー価格や穀物などの原材料価格は、令和3年以降、新型コロナウイルス感染拡大による物流の混乱や経済活動の再開による需要の回復などから上昇し始めていたが、令和4年2月のロシアによるウクライナ侵攻をきっかけに、さらに上昇した。また、円安の進行により食品メーカー各社などでは値上げの動きが広がり、家計の負担感増加につながることで、消費活動を下押しすることも懸念され、本市の経済活動の中心的役割を担う中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられる。

(3) 数値目標の達成状況・分析

目標1 「商業・サービス機能の強化」

目標指標	基準値 (H28 年度)	最新値 (R4 年度)	目標値 (R5 年度)
空き店舗数	86 店舗	78 店舗	70 店舗

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



- ※調査方法：空き店舗実態調査（視認による）
- ※調査月：毎年度1～2月頃
- ※調査主体：鹿児島市
- ※調査対象：商店街における1階路面店の空き店舗

空き店舗数は、平成28年度以降減少し、令和元年度は目標値である70店舗を10店舗も下回る60店舗となり、目標を達成したものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は91店舗となり、急激に増加（前年度比+31店舗(51.7%)）した。その後、再び減少に転じ、令和4年度は前年度比3店舗(3.7%)減の78店舗と、わずかに回復した。特に、いづろ・天文館地区においては5店舗減少しており、千日町1・4番街区の再開発ビル（センテラス天文館）完成の効果によるものと思われる。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない。

令和元年度までは、中心市街地の再開発等の取組により、一定の活性化が図られていたものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛やネットショッピング利用拡大等により、市民等の来街機会は減少した。中心市街地の事業者を対象に実施したアンケート調査では、5年前よりもにぎわいの状況が悪化したと感じている事業者が多かった。さらに、令和4年2月にロシアがウクライナへ軍事侵攻したことをきっかけとしたエネルギー・食料等の物価高により、家計の負担感増加につながることで、消費活動を下押しすることも懸念される。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、社会経済活動の正常化が進みつつある中、今後の物価上昇による消費の落ち込みを見据え、事業者が新規出店に慎重になることから、現時点においては、目標達成が厳しい状況にある。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

地区別の傾向として、いづろ・天文館地区は、新型コロナウイルス感染拡大が確認され、人流が制限された令和2年度に空き店舗数が急増し、54店舗（前年度比+28）となった。その後、令和3年度から4年度にかけて5店舗減少しており、千日町1・4番街区の再開発ビル（センテラス天文館）完成の効果によるものと思われる。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない。

鹿児島中央駅地区は、令和2年度に空き店舗数が急増し、22店舗（前年度比+8）となった。その後、令和2年度から3年度にかけて11店舗減少しており、中央町19・20番街区の再開発ビル（Li-Ka1920）完成の効果によるものと思われる。

上町・ウォーターフロント地区は、令和2年度においても15店舗（前年度比-5店舗）に減少、令和4年度時点で9店舗となった。マンションの建設工事等により総店舗数が減少したことに伴い、空き店舗数も減少したと推察される。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

①. 中央町 19・20 番街区市街地再開発事業（中央町 19・20 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 24 年度～令和 2 年度【済】
事業概要	鹿児島中央駅の駅前という立地条件を生かし、中央町 19・20 番街区を一体的に活用して、商業・業務施設、ホール、住宅等を備えた再開発ビルを整備する。
事業効果又は進捗状況	平成 30 年 5 月に着手した再開発ビル（Li-Ka1920）の工事が令和 3 年 1 月に完成し、同年 6 月に全面開業した。 目標設定時に見込んだ事業効果：11 店舗減少

②. 千日町 1・4 番街区市街地再開発事業（千日町 1・4 番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成 28 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	いづろ・天文館地区のほぼ中央に位置する千日町 1・4 番街区において、天文館通電停前の立地を生かし、商業・業務施設、広場、ホテル等を備えた再開発ビルを整備する。
事業効果又は進捗状況	令和 2 年 1 月に着手した再開発ビル（センテラス天文館）の工事が令和 3 年 12 月に完成し、令和 4 年 4 月に開業した。 目標設定時に見込んだ事業効果：6 店舗減少

③. 鹿児島銀行新本店ビル建設事業（商業施設整備など）（株鹿児島銀行）

事業完了時期	平成 27 年度～令和元年度【済】
事業概要	鹿児島銀行本店ビルを建替え、市内に分散している業務機能等を集約し金融サービスの一層の充実を図るとともに、同ビル内に商業施設を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成 29 年 6 月に新本店ビル（金生町ビル・泉町ビル）の建設工事に着手し、同 31 年 4 月に本店別館ビル（泉町ビル）が完成、令和元年 6 月にオープンした。本店ビル（金生町ビル）は同 2 年 3 月完成し、同年 5 月、両ビルの 1、2 階によかど鹿児島（商業施設）をグランドオープンした。 目標設定時に見込んだ事業効果：1 店舗減少

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

④. 女性・学生・シニア起業チャレンジ支援事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	多様な主体による活発な起業を促進するため、起業・ベンチャーに関心や意欲を持つ女性、学生、シニアに対し、それぞれが抱える特有の課題や悩みなどに対応した起業セミナー等の開催や相談支援を実施する。
事業効果又は進捗状況	各種セミナーの開催やインキュベーション・マネージャーによる相談対応により、女性、学生、シニアの新規創業者の育成支援が図られた。 (各種セミナーの開催については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 3 年度は休止した。) 目標設定時に見込んだ事業効果：2 店舗減少

⑤. 街なかりノベーション推進事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	実際の空き店舗などの遊休不動産を使って、専門家のもとでリノベーションによる再生手法を学び、事業化を目指すとともに、空き店舗等の再生を担う人材育成を図るリノベーションスクール等を開催する。
事業効果又は進捗状況	街なかりノベーション特別講演会、実践セミナーを実施した。 ・特別講演会：7 月 23 日 【参加者数 62 人】 ・実践セミナー：全 6 回（8 月 20 日、9 月 17 日、10 月 29 日、11 月 19 日、12 月 17 日、1 月 14 日）【参加者数 18 人】 (新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 3 年度は事業を休止した。) 目標設定時に見込んだ事業効果：3 店舗減少

⑥. 地域繁盛店づくり支援事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 23 年度～令和 3 年度【済】
事業概要	市内の中小商業又はサービス業者を対象に、実践的なセミナーや受講者の店舗での指導を組み合わせた研修会を開催し、地域商業をリードしていく人材・店舗を育成する。
事業効果又は進捗状況	令和 2 年度は、中心市街地 6 店舗を対象に専門講師によるセミナーを 3 回、臨店指導を 4 回実施した。商店街内の魅力ある個店づくりの促進、人材育成が図られ、魅力ある店舗増につながった。 (新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 3 年度は事業を休止した。) 目標設定時に見込んだ事業効果（⑥～⑧）：5 店舗減少

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑦. 頑張る商店街支援事業（商店街、まちづくり会社、NPO 法人等）

事業完了時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	商店街等が、独自のアイデアや創意工夫を生かし、商店街の活性化を図るために実施するイベントや装飾事業等に対し助成を行う。
事業効果又は進捗状況	中心市街地区域内 19 団体、23 事業に対し助成し、同制度を活用することで、それぞれの商店街等が特色を生かしたイベント等を行い、活気あふれる商店街づくりを推進した。 目標設定時に見込んだ事業効果（⑥～⑧）：5 店舗減少

⑧. 「まちゼミ」開催事業（商店街・通り会等）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】																
事業概要	商店街の店主等が講師となり、プロならではの専門的な知識や情報などを無料で受講者に伝える「まちゼミ」を開催する。																
事業効果又は進捗状況	まちゼミを 3 回（うち 1 回はオンライン）開催した。参加店が各講座を企画・実施し、受講者である消費者を集客することで、新規顧客の獲得や来店者のリピート率の向上に繋がるなど、にぎわい創出に寄与した。 【令和 4 年度】 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>開催期間</th> <th>参加店舗</th> <th>講座数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 月 21 日～6 月 30 日</td> <td>57 店舗</td> <td>71 講座</td> <td>611 人</td> </tr> <tr> <td>10 月 22 日～11 月 30 日</td> <td>48 店舗</td> <td>58 講座</td> <td>487 人</td> </tr> <tr> <td>1 月 21 日～1 月 23 日 (オンライン開催)</td> <td>4 店舗</td> <td>5 講座</td> <td>16 人</td> </tr> </tbody> </table> 目標設定時に見込んだ事業効果（⑥～⑧）：5 店舗減少	開催期間	参加店舗	講座数	参加者数	5 月 21 日～6 月 30 日	57 店舗	71 講座	611 人	10 月 22 日～11 月 30 日	48 店舗	58 講座	487 人	1 月 21 日～1 月 23 日 (オンライン開催)	4 店舗	5 講座	16 人
開催期間	参加店舗	講座数	参加者数														
5 月 21 日～6 月 30 日	57 店舗	71 講座	611 人														
10 月 22 日～11 月 30 日	48 店舗	58 講座	487 人														
1 月 21 日～1 月 23 日 (オンライン開催)	4 店舗	5 講座	16 人														

⑨. 鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業及び鹿児島駅前停留場整備事業（鹿児島市）

事業完了時期	平成 26 年度～令和 4 年度【済】：鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業 平成 29 年度～令和 3 年度【済】：鹿児島駅前停留場整備事業
事業概要	駅東西の交通結節機能を強化し、利便性・安全性の向上を図る広場等の整備や、回遊性のある歩行者ネットワークを形成し、にぎわい・交流の創出を図る自由通路整備や道路改良を実施する。 また、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業と合わせた一体的な市電停留場の整備を行う。

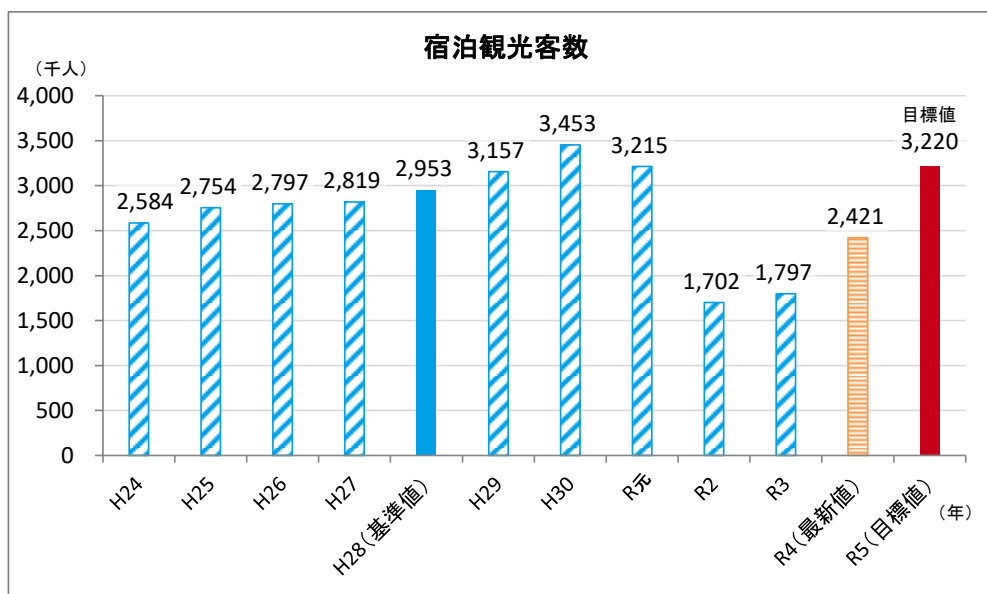
1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

事業効果又は進捗状況	<p>鹿児島駅周辺都市拠点総合整備事業では、鹿児島駅前広場の整備工事を行い、令和4年3月26日に供用開始した。また、市道上本町磯線の交通広場については、令和3年11月1日に供用を開始した。</p> <p>鹿児島駅前停留場整備事業では、停留場の供用開始後、軌道や架線、信号設備等の仮設設備の撤去工事を行った。</p> <p>両事業の事後評価を実施し、令和5年1月に評価結果を公表した。</p> <p>目標設定時に見込んだ事業効果：3店舗減少</p>
-------------------	---

目標2 「稼ぐ観光の実現」

目標指標	基準値 (H28年)	最新値 (R4年)	目標値 (R5年)
宿泊観光客数	295万3千人	242万1千人	322万人

1) 数値目標の達成状況、評価、分析



※調査方法：鹿児島市観光統計を基に中心市街地分を算出
 ※調査月：各年1月～12月分
 ※調査主体：鹿児島市
 ※調査対象：宿泊観光客

本市における宿泊観光客数は、平成30年に410万人と過去最高となっており、中心市街地の宿泊観光客数は345万3千人となった。その後、中心市街地の宿泊観光客数は、令和元年に前年比23万8千人(6.9%)減の321万5千人、令和2年に前年比151万3千人(47.1%)減の170万2千人と大幅に減少し、目標値の322万人に遠く及ばない結果となった。令和4年には242万1千人に回復したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない。

平成30年の宿泊観光客数増加の理由として、明治維新150周年や大河ドラマ「西郷どん」で注目を集めたことや、海外航空路線の増便、クルーズ船の寄港数の増加により、外国人観光客が大幅に増加したことが考えられる。その後、令和元年は、前年の反動減や日韓関係の悪化などにより宿泊客が減少し、令和2年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等で国内外の観光客が減少した。

令和2年から依然厳しい状況が続いたが、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことや同年6月から国際航空路線の定期便が一部再開され、宿泊観光客数は、新型コロナウイルス感染拡大前に近い状況を推移すると想定される。また、イベント等も再開されており、中心市街地の宿泊観光客数は回復していくものと見込んでいる。加えて、国体等の開催やインバウンドのV字回復に向けた施策等を積極的に展開することにより、目標達成が見込まれる見通しである。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

2) 目標達成に寄与する主な事業の概要、成果等

①. 鶴丸城楼門建設事業（鶴丸城御楼門建設協議会、鹿児島県）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	明治 6 年（1873 年）に焼失した鶴丸城本丸の入口である御楼門や、楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を建設し、歴史、文化、建築技術の継承とともに新たな観光拠点とする。
事業効果又は進捗状況	御楼門は、当初計画どおり令和 2 年 3 月末に完成。同年 4 月に完成式を行い、供用開始した。 目標設定時に見込んだ事業効果（①～③）：15.5 万人

②. 明治維新 150 周年事業（鹿児島市、明治維新 150 年カウントダウンイベントチーム会議、薩摩維新ふるさと博実行委員会）

事業完了時期	平成 29 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	明治維新から 150 周年を迎える平成 30 年に向け、大河ドラマ「西郷どん」とも連動し、“維新のふるさと鹿児島市”を国内外に広く印象付けられるようなイベント等を開催する。
事業効果又は進捗状況	明治維新 150 周年記念イベントでの大河ドラマ出演者を招へいたトークショーをはじめ各種イベントを開催したほか、幕末・維新期の衣装を着た「まちなかおもてなし隊」が観光客等へのおもてなしを行うなど、集客力の向上や交流人口の拡大が図られた。 目標設定時に見込んだ事業効果（①～③）：15.5 万人

③. 大河ドラマ「西郷どん」プロジェクト推進等事業（大河ドラマ「西郷どん」鹿児島市推進協議会、鹿児島観光コンベンション協会）

事業完了時期	平成 29 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	大河ドラマ「西郷どん」の放送に合わせ、大河ドラマ館の運営、広報宣伝等を行うほか、中心市街地内に設置する特設観光案内所の運営を行う。
事業効果又は進捗状況	大河ドラマ館の来場者数は、553,052 人と目標を上回った。大河ドラマ館や特設観光案内所の設置により、交流人口の拡大や滞在時間の増加が図られ、街なかのにぎわいの創出や魅力ある観光地づくりに寄与した。 目標設定時に見込んだ事業効果（①～③）：15.5 万人

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

④. 外国人観光客受入事業（中心市街地の事業者、鹿児島市国際交流財団、鹿児島市）

事業完了時期	平成26年度～令和3年度【済】
事業概要	外国人観光客の満足度を高め、外国人観光客の視点に立ったきめ細かな受入体制づくりを推進する。
事業効果又は進捗状況	外国語案内表記やWi-Fiの整備に対する助成や外国語版観光ガイドマップ作成に対する助成、観光施設等における無料Wi-Fiサービスの運用を行ったほか、今後のクルーズ船の寄港に向けた準備を実施するなど、受入環境の整備を図った。 目標設定時に見込んだ事業効果（④～⑤）：3.3万人

⑤. DMO推進事業〔旧鹿児島観光コンベンション協会体制強化事業〕

（鹿児島市、鹿児島市DMO（鹿児島観光コンベンション協会）、民間事業者）

事業完了時期	平成31年度～【実施中】
事業概要	観光CRMの導入や導入に伴うアドバイス、調査、分析の強化など、マーケティングの強化と合わせて、マネジメント強化を推進する
事業効果又は進捗状況	鹿児島市DMO推進協議会を開催した他、新型コロナウイルス感染拡大による状況を踏まえた官民連携事業として、JNTO（日本政府観光局）と連携したデジタルマーケティングの強化や訴求力の高い観光PRコンテンツの制作等、官民連携による「稼ぐ観光」の取組を推進した。 目標設定時に見込んだ事業効果（④～⑤）：3.3万人

⑥. 千日町1・4番街区市街地再開発事業（千日町1・4番街区市街地再開発組合）

事業完了時期	平成28年度～令和3年度【済】
事業概要	いづろ・天文館地区のほぼ中央に位置する千日町1・4番街区において、天文館通電停前の立地を生かし、商業・業務施設、広場、ホテル等を備えた再開発ビルを整備する。
事業効果又は進捗状況	令和2年1月に着手した再開発ビル（センテラス天文館）の工事が令和3年12月に完成し、令和4年4月に開業した。 目標設定時に見込んだ事業効果：4.8万人

〔5〕中心市街地活性化の課題

(1) 中心市街地を取り巻く状況

➤ 全般

- 中心市街地においては、これまでの取組により一定の成果があった。
- 中心市街地の小売業年間商品販売額は、平成26年時点で市全体の約3割を占めていた。
- 中心市街地の「卸売業・小売業」の事業所数は、平成26年時点で市全体の約4分の1を占めていた。市全体をみると、令和3年の小売店舗数は平成26年と比べて減少した。
- 全産業に占める第3次産業従業者数の割合は、平成26年時点で全国78%に対し、本市87%、中心市街地96%となり、全国比及び本市より高い割合を占めている。本市における第3次産業従業者数及び事業所数は、減少傾向となっている。
- 中心市街地には宿泊施設が集積しており、市全体の54.2%、収容人数は市全体の68.6%と約7割を占めている（令和4年市観光統計）。
- 中心市街地の業種別事業所数は、平成26年時点で、市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高く、「卸売業、小売業」と合わせると55.8%と半数を超えていた。市全体をみると、令和3年の「宿泊業、飲食サービス業」における事業所数は平成26年と比べて減少した。
- 中心市街地の業種別従業者数は、平成26年時点で、市全域や全国に比べ、「宿泊業、飲食サービス業」、「サービス業（他に分類されないもの）」の割合が高く、「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」を合わせた割合は4割を超えていた。市全体をみると、令和3年の「卸売業、小売業」及び「宿泊業、飲食サービス業」における従業者数は平成26年と比べて減少した。
- 市の人口は平成25年をピークに減少し、今後さらなる人口減少が見込まれる。
- 中心市街地の人口は横ばいが続いているが、今後の人口は減少が見込まれる。
- 本市の所得水準は、県庁所在地46都市（東京都を除く。）のうち、37位である。（R4内閣府による調査）また、本県の最低賃金額改定ランクは、全国最低ランクのC区分である。

➤ 商業面

- 中心市街地の歩行者通行量は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少し、その後増加しているものの、コロナ前の水準には回復していない。
- 中心市街地への来街頻度は、「ほとんど毎日」（35.3%）、「週2〜3回」（23.0%）と、合わせて約6割の来街者が日常的に中心市街地を利用している。（令和4年度回遊性・満足度調査）
- 5年前より商業面での活気・魅力が増していると回答した市民が半数以上いる一方、5年前と比べると、市民の中心市街地への来街機会は減少している。（令和5年度まちかどコメンテーター）
- 中心市街地への主な来街目的の1位は「買い物」26.5%である。（令和4年度回遊性・満足度調査）
- 中心市街地は「魅力ある店舗や飲食店があるまち」であってほしいと答えた市民の割合は77.8%と最も高くなっている。（令和5年度まちかどコメンテーター）
- 中心市街地には一定の都市機能が集積しているものの、大規模小売店舗は中心市街地内

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

より郊外が多い。

- 新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等により、ネットショッピングによる購入が5年前と比べて大幅に増加するなど、消費行動に大きな変化がみられる。(令和5年度まちかどコメンテーター)
- 中心市街地の空き店舗数は、新型コロナウイルス感染拡大が確認され、人流が制限された令和2年度に一時的に増加したものの、その後減少傾向にある。
- 中心市街地活性化に必要な取組として「空き店舗対策」(44.5%)が2番目に多い。(令和4年度回遊性・満足度調査)
- 商業の活性化には、居住人口の増加も重要である。(次期鹿児島市中心市街地活性化基本計画策定に関する検討会)
- 女性・学生向け起業セミナーでのアンケート結果や本市が実施した勤労者等意識調査の結果などから、起業等に関心や意欲を持つ女性・学生が一定数存在すると考えられる。
- 中心市街地に存在する、不特定多数が利用する大規模建築物のうち、耐震性が不足する建築物が2棟存在しており、いずれも耐震改修工事中・工事予定となっている。

➤ 観光面

- 入込・宿泊観光客数ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響により大きく減少した。
- 外国人宿泊観光客(インバウンド)も同様に大きく減少した。
- 中心市街地には、歴史的・文化的資源があるほか、世界文化遺産や桜島・錦江湾ジオパークにも近接するなど、豊かな地域資源に恵まれており、観光に対するニーズがある。
- 東アジア4都市(台湾・香港・中国・韓国)居住者のうち訪日経験者を対象にしたアンケート調査では、「来鹿動機(楽しみにしていること)」として「美しい自然や景勝地に恵まれている」が76.6%で最も多く、次いで「観光スポットが豊富」(56.3%)、「魅力的な食べ物・飲み物がある」(51.4%)などとなっている。(令和4年度鹿児島市観光消費額調査・マーケティング分析報告書)
- 中心市街地は「観光客でにぎわうまち」であってほしいと答えた市民の割合は38.4%となっている。(令和5年度まちかどコメンテーター)
- 中心市街地のスポット・施設を十分に生かし切れていない。
 - ・地域経済分析システム(RESAS)の目的地検索ランキング(自動車利用)において、中心市街地にあるスポット・施設では「いおワールドかごしま水族館」が上位に挙がっているが(休日・平日ともに2位)、「鹿児島市維新ふるさと館」は休日12位・平日11位と下位となっているほか、中心市街地内で歴史を感じられる観光地である西郷銅像はランクに入っていない。
- 中心市街地で国際クルーズ船を受け入れられるよう、本港区北ふ頭において環境整備を行い、平成30年4月から受入を開始した。
 - ・クルーズ船の寄港は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2年度は急激に減少した。
- 中心市街地へは、仕事で訪れる来街者が一定数いる。
 - ・鹿児島市内に宿泊した16歳以上の日本人観光客を対象にしたアンケート調査では、本市訪問の主な目的は「観光・レジャー」が63.6%で最も多く、次いで「ビジネス」が

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

15.6%などとなっている。(令和4年度鹿児島市観光消費額調査・ヒアリング調査)

・県外からの来街者の主な目的の1位は観光(39.0%)、次いで仕事(16.3%)となっている。(令和4年度回遊性・満足度調査)

・令和4年の県外からの本市来街者を都道府県別にみると、平日・休日いずれも、1位が福岡県、2位が宮崎県、3位が熊本県となっている。(地域経済分析システム(RESAS))

○コンベンションの開催件数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により急激に減少している。

○観光客の受入体制の充実を求める声がある。

・観光客等の受入体制充実のため、新たな観光案内所をセンテラス天文館の1階に設置(令和4年4月)し、英語で対応可能なスタッフの常駐やマイボトル対応型給水機の設置等により、サービスの向上を図った。

・活性化に必要な取組として「イベントの実施」と答えた来街者が46.2%と最も多い。(令和4年度回遊性・満足度調査)

・中心市街地に必要な設備として「Wi-Fi」や「子供用のトイレの設置」等を挙げる人がみられた。(令和4年度回遊性・満足度調査)

・宿泊施設の事業者やタクシー等の交通事業者から人材不足を課題視する意見が挙げられた一方、タクシーの増加やバスの増便等の交通の利便性を求める意見がみられた。(民間事業者等との意見交換会、事業者向けアンケート調査、街頭ヒアリング調査)

➤ 公共交通などその他の面

○公共交通機関の利便性を求める声があるが、利用者は減少している。

・中心市街地は「公共交通機関の利便性が高いまち」であってほしいと答えた市民の割合は62.4%である。(令和5年度まちかどコメンテーター)

・鹿児島中央駅及び鹿児島駅の乗客数は新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年度に大幅に減少し、その後回復傾向にあるものの、依然として低水準である。

・市電の利用者数も同様に令和2年度に大きく減少し、その後回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染拡大前の水準には戻っていない。

・市バスの利用者数は新型コロナウイルス感染拡大の影響や民間のバス事業者への移譲等により大きく減少したが、路線移譲による減少(市バスの平均利用者数 約8,700人/日)を考慮すると、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大前の約8割まで回復している。

・中心市街地への来街手段では、バス9.9%、JR9.7%、市電8.7%、船1.5%と公共交通の利用は約3割を占めている。(令和4年度回遊性・満足度調査)

・中心市街地に出かける際の主な交通手段は、車が約8割(78.1%)を占め、駐車場不足や駐車料金が高いなどの声が寄せられた。(令和5年度まちかどコメンテーター)

○中心市街地は、近接する世界文化遺産や桜島・錦江湾ジオパークへのアクセス拠点となっている。

○中心市街地は「公園や広場など憩いややすらぎのあるまち」であってほしいと答えた市民の割合は51.4%である。(令和5年度まちかどコメンテーター)

○本市は、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考えのもと、さらなるコンパクトなまちづくりを進めるため、平成29年3月に立地適正化計画を策定した。

(2) 中心市街地活性化の課題

① 商業・サービス機能が新型コロナウイルス感染拡大等の影響により低下

新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会の変化やEC（電子商取引）市場拡大の影響により市民等の来街機会は減少し、店舗閉鎖等により商業・サービス機能が低下した。

○多様な都市機能のさらなる充実を図ることが必要

- ・多世代が安心して働き暮らせる都市空間の創出
- ・街なか居住の推進
- ・憩いややすらぎのある空間のさらなる充実
- ・既存ストックの活用

○集客力を高めるための仕掛けづくりが必要

- ・街なかへの出店・創業を促す取組
- ・民間主導によるにぎわい創出の取組
- ・活気あふれる商店街づくり
- ・公共交通の環境整備など回遊性向上に向けた取組

② 観光客等を街なかへ誘導し、滞在させるための魅力づくり・取組が必要

今後、市全体でのさらなる人口減少や個人消費の縮小など地域経済への影響が懸念される中、街なかにおけるにぎわいと活力を維持・向上させるために、さらに多くの観光客等と呼び込み、滞在させるための取組が必要となる。

○本市の多彩な地域資源を生かした観光の魅力向上が必要

- ・歴史や食などの地域資源の活用

○国内外からの観光客を中心市街地に誘致し、受け入れるための取組が必要

- ・DXの推進による利便性の向上
- ・滞在時間を延ばす取組
- ・クルーズ船の誘致の取組
- ・観光案内機能など受入体制の充実に向けた取組
- ・ユニバーサルツーリズム推進
- ・宿泊につながるイベント等の充実
- ・コンベンション、各種イベントなど、MICEの誘致強化に向けた取組

[6] 中心市街地活性化の方針

(1) 上位計画・関連計画における中心市街地のまちづくりの方向性

① 第六次鹿児島市総合計画前期基本計画(令和4年度～令和8年度)

基本目標3)「魅力にあふれ人が集う 活力あるまち」【産業・交流 政策】

<目指す主なSDGsのゴール>



1. 地域特性を生かした観光・交流の推進

1) オンリーワンの魅力創出

世界に誇れる個性豊かな観光資源を磨き上げ、オンリーワンの魅力づくりを展開します。

2) 稼ぐ観光につながる誘客推進

多様な切り口による戦略的なプロモーションを展開し、稼ぐ観光の実現につながる一層の誘客に取り組みます。

3) ホスピタリティあふれる受入体制の充実

観光客の満足度をさらに高め、ホスピタリティあふれる安心・快適な受入環境の充実を図ります。

<目指す主なSDGsのゴール>



2. スポーツ交流・振興の推進

1) スポーツを生かしたにぎわい創出

スポーツの多様な楽しみ方を提案し、まちのにぎわい創出と交流人口の拡大につながるようなスポーツコンテンツ・施設の充実を図ります。

2) あらゆる世代へのスポーツ機会の提供

市民の目的や体力に応じたスポーツ機会の充実を目指し、あらゆる世代がスポーツに親しむことができる環境整備を図ります。

<目指す主なSDGsのゴール>



3. 地域産業の活性化

1) 新たな産業の創出

新たな事業展開等の促進や新たな価値を生み出す人材等の創出のほか、企業立地の推進などにより、新たな産業の創出を図ります。

2) 地域を支える産業の成長促進

ビジネス環境の変化への対応を支援するとともに、地域の中核を担う商店街やものづくり産業の活性化を図るなど、地域を支える産業の成長促進に取り組みます。

3) 海外展開の促進

海外取引に関する事業者の販路拡大を支援するとともに、海外との円滑な取引のための環境整備を行うなど、海外展開の促進を図ります。

4) 魅力ある就業環境と担い手の確保

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、市内事業所の労働環境整備を支援し、働き手の事情に応じた多様で柔軟な働き方を促進します。また、働く意欲のあるすべての人の就労を促進するとともに、若者の地元定着を図ります。

<目指す主なSDGsのゴール>



4. 中心市街地の活性化

1) 街なかのにぎわい創出

商業・居住・業務機能ややすらぎ空間などの都市機能のさらなる充実、街なかへの出店・創業を促す取組など、街なかのにぎわい創出を進めます。

2) 都市型観光の推進

多彩な地域資源やイベントの充実等による街なかなかではの魅力向上や街なかで過ごし楽しむ機能の充実により、都市型観光を推進します。

② 鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略～第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略（改訂版）～（令和4年度～令和8年度）

1. 基本目標

基本目標3) ひとが集うまちの魅力を「みがく」

2. 積極戦略

積極戦略3) ひとが集うまちの魅力を「みがく」

(2) ひとが集うまちなか環境の充実

②まちなかのにぎわい創出・回遊性向上

③ 第二次かごしま都市マスタープラン(令和4年度から20年後)

1. 都市づくりの基本理念

基本理念1) 成熟した持続可能な都市づくり

基本理念2) 多様な主体による協働の都市づくり

2. 都市づくりの基本目標

基本目標1) コンパクトで暮らしやすい都市

・中心市街地や地域の拠点などに都市機能を誘導するとともに、交通の利便性の高い地域などに居住を誘導することによって、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを推進します。

・公共施設等は、長期的な視点をもって、更新や長寿命化等を計画的に行うとともに、整備・運営に民間の資金などの導入を推進します。

・増加する空き家や空き地等は、都市づくりの資源として活用を図ります。

基本目標3) にぎわいと活力のある都市

・中心市街地等への都市機能の集積により、県都としてふさわしい広域的な拠点形成を図ります。

・居心地がよく歩きたくなる環境づくりや地域資源を活用した観光振興などにより、都市の活力の向上を図ります。

・産業の成長を促進させる都市づくりを進めるとともに、新たな生活様式に対応した多様で柔軟な働き方を促進する仕組みづくりや、未来の活力となる次世代を育む生活環境の形成を図ります。

3. 土地利用の方針

○中心商業・サービスゾーン

・「商業・サービス施設」を中心とした高次都市機能の集積、都心居住の誘導による都市拠点の形成を図るとともに、車中心から人中心への交通環境の転換による歩いて楽しい都市空間の創出を図ります。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

○広域交流・業務ゾーン

- ・「観光交流機能」や「スポーツ・娯楽レクリエーション機能」などの集積によるにぎわいあふれる交流拠点の形成を図るとともに、利便性・効率性が高い交通環境の形成を図ります。

4. 整備方針

○中心商業・サービスゾーン

- ・商業・サービス機能の充実などに向けて、再開発を促進します。
- ・沿道店舗のオープンスペースの提供や低層部のガラス張り、道路空間を活用したオープンカフェなどの設置を促進する方策を検討します。
- ・都市軸では、公共性の高い市街地再開発事業などへの支援を検討します。
- ・にぎわいや憩える場の創出に向けて、甲突川沿岸緑地の利活用を検討します。
- ・桜島の降灰に対応した商店街アーケードなどの整備を促進します。
- ・名山町の木造建築物の密集地では、レトロな雰囲気を残しつつ、建築物の建替えを促進する方策を検討します。

○広域交流・業務ゾーン

- ・本港区周辺では、いづろ・天文館地区などとの連携が図られた土地利用の誘導を図るとともに、住吉町周辺の低未利用土地の有効活用を検討します。
- ・歴史と文化の道地区では、歴史資源を生かし、品格と統一感のある景観形成に向けて、同地区景観計画を活用した景観づくりを促進します。

④ かがしまコンパクトなまちづくりプラン【立地適正化計画】（平成28年度～令和22年度）

1. 居住誘導区域の将来人口

	現在値 (H22 国調)	⇒	社人研 (R22 推計)	目標人口 (R22)
居住誘導区域人口 (人)	525,701		468,475	506,000
商業施設 (店舗)	※72		67	72

将来においても現状商業施設規模を維持 ↑

※1,000 m²以上の商業施設(全国大型小売店総覧)の店舗数

2. 市が講じる施策

○居住や都市機能の誘導に関する方向性

- ・利便性の高いまちを維持するために中心市街地等に高次都市機能を集積するとともに、地域生活拠点や団地核を基本として、生活利便施設を集約し、一定の人口密度を維持しながら歩いて暮らせる生活圏の形成を図る。
- ・成熟した持続可能な都市づくりに向け、都市経営の観点から、コンパクトで暮らしやすく安全な市街地の形成に向けた土地利用の促進を図る。

○公共交通に関する方向性

- ・中心市街地等の持つ都市機能を誰もが享受できるようにするため、各地域の特性に応じた公共交通を確保し、地域の拠点間を結ぶ公共交通ネットワークの形成を図る。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

⑤ 都市再生整備計画 鹿児島市中心市街地地区(令和5年度～令和9年度)

1. 大目標：二つの軸（都市軸、景観軸）を中心ににぎわいを面的に拡げ、歩いて楽しい個性と魅力ある都市空間を創出する。

2. 整備方針

○拠点間に公共空間を活用した新たなにぎわいや憩いの空間を創出することで、歩いて楽しいまちづくりを推進する。

○市街地再開発事業等により魅力ある新たなにぎわい拠点の整備を推進する。

⑥ 第2期鹿児島市商工業振興プラン(令和4年度～令和13年度)

1. 本市商工業の目指す将来像（基本シナリオ）

多彩な“人財”が活躍し、持続可能な経済活動が展開されるまち・かごしま

2. 施策の柱・取組方針

施策の柱1) 新たな産業の創出

- ・付加価値の高い新たなビジネスの創出
- ・新規創業の促進
- ・戦略的な企業立地の推進

施策の柱2) 地域を支える産業の成長促進

- ・事業活動の安定・合理化・生産性の向上
- ・経営力（経営基盤のマネジメント）の強化
- ・円滑な事業承継の推進
- ・魅力ある地域拠点づくりの推進

施策の柱4) 魅力ある就業環境と担い手の確保

- ・就業環境の向上支援と就業者の活躍促進
- ・かごしまの商工業の発展を担う人材の確保

⑦ 第4期鹿児島市観光未来戦略(令和4年度～令和8年度)

1. 基本目標

訪れる人の感動・暮らす人の幸せをつくる“稼ぐ観光”の実現

～世界を魅了するまち KAGOSHIMA～

第4期戦略については、観光を経済政策として位置付け、人口減少による個人消費の減少分を上回る観光消費額（経済波及効果）を観光で生み出し、本市経済の活性化、所得・雇用増を図ることで市民一人ひとりの幸せに寄与する“稼ぐ観光”を実現することとし、私たちが目指すべき観光の基本目標を次のとおり設定します。また、訪れる人に感動体験を提供することにより、～世界を魅了するまち KAGOSHIMA～を目指します。

2. 基本戦略

【基本戦略1】稼ぐ体制・仕組づくり ～協働のプラットフォームの構築～

基本方針(1) 組織体制の強化

基本方針(2) マーケティングによるニーズ把握・分析

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

基本方針(3) マーケティング、マネジメントに精通した高度な観光人材の育成

基本方針(4) 持続可能な観光地づくり

【基本戦略2】 オンリーワンの魅力創出 ～世界を魅了する鹿児島品質の提供～

基本方針(1) キャッシュポイント(商品)づくり、高付加価値化・差別化(今だけ、ここだけ、あなただけ)

基本方針(2) 鹿児島ならではの多様なツーリズムの展開

【基本戦略3】 戦略的な誘客促進 ～マーケティングを駆使したプロモーション～

基本方針(1) 戦略的なプロモーションの展開

基本方針(2) M I C Eによる誘客促進

基本方針(3) 観光クルーズ船の誘致・受入

【基本戦略4】 ホスピタリティあふれる受入体制の充実 ～すべての人に安心・快適な観光都市～

基本方針(1) おもてなし人材の育成

基本方針(2) 世界標準の受入・案内機能の充実

基本方針(3) 新しい生活様式に対応した安心安全な観光・観光危機管理の推進

【基本戦略5】 地域経済循環の促進 ～地消地産の促進～

基本方針(1) 地域経済循環を高める

3. コアプロジェクト

アフターコロナ・リカバリープロジェクト ～インバウンド～

国内市場への対応を図りつつ、令和7年(2025年)の大阪・関西万博等により、世界各地から数多くの外国人観光客が集中して日本へ訪れることが見込まれていることを絶好の機会と捉え、特に、外国人観光客への対応に重点を置き、ニーズや特性を踏まえながら、魅力向上、誘客、受入体制の充実に取り組みます。

- 1) インバウンド誘客に向けた魅力づくり
- 2) 幅広い視点による誘客
- 3) 安心して観光できる受入環境の整備



中心市街地の活性化は、第六次鹿児島市総合計画前期基本計画の基本目標3「魅力にあふれ人が集う 活力あるまち」を達成するための基本施策として位置付けられている。また、鹿児島市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・デジタル田園都市構想総合戦略～第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(改訂版)～では、「観光客受入体制の充実や、まちなかのにぎわい創出・回遊性向上により、ひとが集うまちなか環境を充実すること」としている。

中心市街地の各地区においては、第二次かごしま都市マスタープランで示された土地利用方針等を踏まえ、活性化に資する各種事業の展開を図る。

(2) 中心市街地活性化の方針

第3期計画では、交流人口のさらなる増大を図るための各種プロジェクトを実施したことにより、再開発ビルの整備、都市の杜の整備、鹿児島駅周辺都市拠点総合整備など都市機能の集積が進み、新たな大型イベント等のソフト事業も官民一体となって展開したことで、目標指標に掲げた空き店舗数は令和元年度に60店舗になるなど、目標値の70店舗を達成した。また、宿泊観光客数は平成30年まで緩やかに増加するなど、中心市街地は一定の活性化が進んだものの、令和2年からの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、空き店舗数は急激に増加、宿泊観光客数は急激に減少した。その後、回復の兆しを見せているものの、空き店舗数の目標達成は厳しい状況にある。一方、宿泊観光客数は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴う移動制限解除等により、目標を達成する見込みである。

しかしながら、物価上昇による消費活動の下押しが懸念されることに加え、宿泊業、飲食サービス業、運輸業、ある程度免許資格が必要な職種の人手不足等により、本市の経済活動の中心的役割を担う中心市街地を取り巻く環境は依然厳しい状況にあると考えられる。

新たに策定する第4期計画では、上位計画・関連計画における中心市街地のまちづくりの方向性との整合を図りながら、中心市街地を取り巻く環境や地域の現状分析、地域住民などのニーズ等から導き出された主に商業面、観光面での課題の解決に取り組むこととし、本市中心市街地が目指す将来像を「観光・商業・交流による にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」と定め、その達成に向けた2つの基本方針を設定する。

① 本市中心市街地が目指す将来像

「観光・商業・交流による にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」

② 基本方針

基本方針1： 街なかのにぎわいあふれるまちづくり

商業・居住・業務機能ややすらぎ空間などの都市機能のさらなる充実を図るとともに、街なかへの出店・創業を促す取組など、街なかのにぎわい創出を進めることにより、「街なかのにぎわいあふれるまちづくり」を推進する。

基本方針2： 街なか観光の魅力と機能を兼ね備えたまちづくり

歴史や食など多彩な地域資源の活用や宿泊につながるイベント等の充実による街なかならではの魅力向上を図るとともに、街なかで過ごし楽しむ観光機能の充実をさらに進めることにより、「街なか観光の魅力と機能を兼ね備えたまちづくり」を推進する。

1章 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

●第3期計画の概要

- ・期間：平成30年4月～令和6年3月（6年）
- ・掲載事業：129事業（完了：55事業、実施中：74事業）（※R5.8時点）

【コンセプト】

「観光・商業・交流による にぎわいあふれる次代のまちづくりの推進」

【基本方針】

- (1) 個性と魅力に磨きをかけてにぎわいあふれるまちづくり
- (2) 国内外から選ばれる魅力ある観光地づくり

【目標】

- (1) 商業・サービス機能の強化
- (2) 稼ぐ観光の実現

●中心市街地の現状

- ・各種取組により、目標指標の空き店舗数は令和元年度に、宿泊観光客数は平成30年にそれぞれ目標値を達成。
- ・各種事業等により、都市機能の増進や交通機能の強化が図られた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大等の影響により市民等の来街機会は減少し、店舗閉鎖等に伴い、商業・サービス機能が低下。空き店舗数の目標達成は厳しい状況にある。
- ・移動制限解除等により宿泊観光客数は達成が見込まれる。

●市民意向

【にぎわいの状況】

来街者：商業面での活気・魅力が増しているとの意見が多い。

事業者：新型コロナウイルス感染拡大の影響によりにぎわいが低下しているとの意見や空き店舗対策を求める意見。

【活性化の取組】

来街者：必要な取組として「イベントの実施」や「空き店舗対策」と回答した人が多い。

民間事業者等：MICE誘致の強化、居住人口増加による商業活性化の検討、市民及び観光客の回遊性向上に係る取組の強化を求める意見。

●中心市街地活性化の課題

(1) 商業・サービス機能が新型コロナウイルス感染拡大等の影響により低下

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会の変化やEC市場拡大の影響により市民等の来街機会は減少し、店舗閉鎖等により商業・サービス機能が低下。

(2) 観光客等を街なかへ誘導し、滞在させるための魅力づくり・取組が必要

- ・人口減少などによる地域経済への影響が懸念される中、さらに多くの観光客等を呼び込み、滞在させるための取組が必要。

【本市中心市街地が目指す将来像】

「観光・商業・交流による にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」

●第4期計画の基本方針

(1) 街なかのにぎわいあふれるまちづくり

- ・にぎわい拠点を生かした回遊性向上
- ・商業機能をはじめとする多様な都市機能のさらなる充実
- ・街なかへの出店・創業を促す取組
- ・活気あふれる商店街づくり
- ・民間主導によるにぎわい創出の取組 など

(2) 街なか観光の魅力と機能を兼ね備えたまちづくり

- ・滞在時間を延ばす取組
- ・歴史や食などの多彩な地域資源を活用した観光の魅力向上
- ・国内外からの誘客強化
- ・ユニバーサルツーリズム推進
- ・観光客の受入体制の充実 など